

(様式第10)

熊大病医事第 183 号

令和 6 年 10 月 4 日

厚生労働大臣 殿

開設者名 国立大学法人熊本大学

学長 小川 久雄

熊本大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和5年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒860-8555 熊本市中央区黒髪2丁目39番1号
氏名	国立大学法人熊本大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

熊本大学病院
--------

3 所在の場所

〒860-8556 熊本市中央区本荘1丁目1番1号
電話(096)342-2111

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科				有			
内科と組み合わせた診療科名等							
<input type="radio"/>	1呼吸器内科	<input type="radio"/>	2消化器内科	<input type="radio"/>	3循環器内科	<input type="radio"/>	4腎臓内科
<input type="radio"/>	5神経内科	<input type="radio"/>	6血液内科	<input type="radio"/>	7内分泌内科	<input type="radio"/>	8代謝内科
<input type="radio"/>	9感染症内科	<input type="radio"/>	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	<input type="radio"/>	11リウマチ科		
診療実績							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

## (2) 外科

外科						有	
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科	○	3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

## (3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科		12放射線科
○	13放射線診断科	○	14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

## (4) 歯科

歯科						有	
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科		2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

## (5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	脳神経内科	2	移植外科	3	形成外科	4	リハビリテーション科	5	病理診断科
6		7		8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

## 5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
50				795	845

(単位: 床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	519	119	546.7
歯科医師	36	3	36.6
薬剤師	70	1	70.8
保健師	0	0	0
助産師	30	2	31.2
看護師	786	36	811.4
准看護師	0	0	0
歯科衛生士	2	0	2
管理栄養士	12	0	12

職種	員数
看護補助者	87
理学療法士	19
作業療法士	10
視能訓練士	6
義肢装具士	0
臨床工学士	28
栄養士	0
歯科技工士	1
診療放射線技師	46

職種	員数
診療エックス線技師	0
臨床検査技師	70
衛生検査技師	0
その他	0
あん摩マッサージ指圧師	0
医療社会事業従事者	9
その他の技術員	25
事務職員	287
その他の職員	74

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	88	眼科専門医	9
外科専門医	45	耳鼻咽喉科専門医	10
精神科専門医	13	放射線科専門医	6
小児科専門医	24	脳神経外科専門医	16
皮膚科専門医	11	整形外科専門医	22
泌尿器科専門医	11	麻酔科専門医	28
産婦人科専門医	15	救急科専門医	5
		合計	303

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 ( 平井 俊範 ) 任命年月日 令和 6 年 4 月 1 日

- ・令和3年4月～令和6年3月 医療安全管理委員会委員(医療放射線安全管理責任者)
- ・令和6年4月～令和6年5月 医療安全管理委員会委員長(熊本大学病院長)
- ・令和6年6月～ 医療の質・安全管理委員会委員長(熊本大学病院長)
- ・令和6年4月～ 医療安全対策に関するカンファレンス議長(熊本大学病院長)

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	653.8 人	22.7 人	676.5 人
1日当たり平均外来患者数	1397.6 人	75.1 人	1472.7 人
1日当たり平均調剤数		752.2	剤

必要医師数	152	人
必要歯科医師数	7	人
必要薬剤師数	23	人
必要(准)看護師数	390	人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。  
2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。  
3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。  
4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。  
5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條

#### 10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	883 m <sup>2</sup>	SR	病床数	27 床	心電計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 310 m <sup>2</sup>		病床数	24 床		
	[移動式の場合] 台数 21 台					
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床面積 53 m <sup>2</sup>					
	[共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	591 m <sup>2</sup>	SR	(主な設備)	汎用自動分析装置、電解質測定装置、HbA1c分析装置		
細菌検査室	137 m <sup>2</sup>	SR	(主な設備)	自動塗布装置、薬剤感受性装置、自動染色装置		
病理検査室	518 m <sup>2</sup>	SR	(主な設備)	自動固定包埋装置、自動染色装置、凍結切片作成装置		
病理解剖室	187 m <sup>2</sup>	SR	(主な設備)	病理解剖台、臓器写真撮影装置、オートクレーブ		
研究室	112 m <sup>2</sup>	SR	(主な設備)	クリオスタット、遠心機、オートクレーブ		
講義室	1126 m <sup>2</sup>	SR	室数	5 室	収容定員	828 人
図書室	2524 m <sup>2</sup>	SR	室数	2 室	蔵書数	177000 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。  
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

#### 11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	95.7	%	逆紹介率	112.1	%
算出根拠	A: 紹介患者の数		14415 人		
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		19065 人		
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		1854 人		
	D: 初診の患者の数		17004 人		

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

#### 12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況

西平 淳子	琉球大学病院 安全管理対策室	○	医療安全管理に関する 識見を有する者	無	1
森高 啓喜	森高・吉見法律事務所		法律に関する識見を有 する者	無	1
馬見塚 まゆみ	がんサロンネットワーク		医療を受ける者その他 の医療従事者以外の者	無	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

### 13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
熊本大学ホームページによる公表	





(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	
扱い患者数の合計(人)	0



(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	19	56	血栓性血小板減少性紫斑病	1
2	筋萎縮性側索硬化症	103	57	原発性免疫不全症候群	4
3	脊髄性筋萎縮症	9	58	IgA腎症	98
4	原発性側索硬化症	1	59	多発性嚢胞腎	63
5	進行性核上性麻痺	71	60	黄色靱帯骨化症	35
6	パーキンソン病	236	61	後縦靱帯骨化症	73
7	大脳皮質基底核変性症	21	62	広範脊柱管狭窄症	6
8	シャルコー・マリー・トゥース病	5	63	特発性大腿骨頭壊死症	67
9	重症筋無力症	215	64	下垂体性ADH分泌異常症	24
10	多発性硬化症／視神経脊髄炎	155	65	下垂体性TSH分泌亢進症	5
11	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	52	66	下垂体性PRL分泌亢進症	51
12	封入体筋炎	16	67	クッシング病	13
13	クロー・深瀬症候群	5	68	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	1
14	多系統萎縮症	64	69	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	55
15	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	116	70	下垂体前葉機能低下症	296
16	ライゾゾーム病	21	71	家族性高コレステロール血症(ホモ接合)	1
17	副腎白質ジストロフィー	2	72	先天性副腎皮質酵素欠損症	16
18	ミトコンドリア病	23	73	アジソン病	1
19	もやもや病	99	74	サルコイドーシス	113
20	プリオン病	4	75	特発性間質性肺炎	133
21	進行性多巣性白質脳症	1	76	肺動脈性肺高血圧症	50
22	HTLV-1関連脊髄症	23	77	慢性血栓性肺高血圧症	37
23	特発性基底核石灰化症	2	78	リンパ管筋腫症	9
24	全身性アミロイドーシス	343	79	網膜色素変性症	23
25	遠位型ミオパチー	3	80	バッド・キアリ症候群	2
26	神経線維腫症	54	81	特発性門脈圧亢進症	6
27	天疱瘡	32	82	原発性胆汁性胆管炎 旧病名(原発性胆汁性肝硬変)	87
28	表皮水疱症	2	83	原発性硬化性胆管炎	13
29	膿疱性乾癬(汎発型)	19	84	自己免疫性肝炎	34
30	スティーヴンス・ジョンソン症候群	4	85	クローン病	178
31	中毒性表皮壊死症	3	86	潰瘍性大腸炎	296
32	高安動脈炎	28	87	好酸球性消化管疾患	8
33	巨細胞性動脈炎	8	88	慢性特発性偽性腸閉塞症	2
34	結節性多発動脈炎	21	89	腸管神経節細胞減少症	1
35	顕微鏡的多発血管炎	58	90	クリオピリン関連周期熱症候群	1
36	多発血管炎性肉芽腫症	21	91	若年性特発性関節炎 旧病名(全身型若年性特発性関節炎)	12
37	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	32	92	ブラウ症候群	1
38	悪性関節リウマチ	8	93	筋ジストロフィー	40
39	バージャー病	2	94	脊髄空洞症	3
40	原発性抗リン脂質抗体症候群	2	95	遺伝性ジストニア	5
41	全身性エリテマトーデス	438	96	脳表ヘモジデリン沈着症	3
42	皮膚筋炎／多発性筋炎	268	97	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	7
43	全身性強皮症	301	98	前頭側頭葉変性症	10
44	混合性結合組織病	58	99	先天性無痛無汗症	1
45	シェーグレン症候群	130	100	アイカルディ症候群	1
46	成人スチル病	18	101	神経細胞移動異常症	1
47	再発性多発軟骨炎	5	102	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	9
48	ベーチェット病	92	103	レノックス・ガストー症候群	4
49	特発性拡張型心筋症	112	104	ウエスト症候群	1
50	肥大型心筋症	77	105	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	1
51	拘束型心筋症	1	106	結節性硬化症	16
52	再生不良性貧血	39	107	色素性乾皮症	1
53	自己免疫性溶血性貧血	5	108	先天性魚鱗癬	1
54	発作性夜間ヘモグロビン尿症	14	109	家族性良性慢性天疱瘡	2
55	特発性血小板減少性紫斑病	49	110	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	48

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	特発性後天性全身性無汗症	8			
112	眼皮膚白皮症	1			
113	弾性線維性仮性黄色腫	2			
114	マルファン症候群	5			
115	エーラス・ダンロス症候群	3			
116	ウィルソン病	9			
117	ウェルナー症候群	2			
118	プラダー・ウィリ症候群	3			
119	22q11.2欠失症候群	1			
120	単心室症	1			
121	ファロー四徴症	1			
122	両大血管右室起始症	1			
123	アルポート症候群	1			
124	急速進行性糸球体腎炎	9			
125	抗糸球体基底膜腎炎	2			
126	一次性ネフローゼ症候群	79			
127	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	3			
128	紫斑病性腎炎	13			
129	先天性腎性尿崩症	1			
130	オスラー病	15			
131	閉塞性細気管支炎	3			
132	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	12			
133	副甲状腺機能低下症	6			
134	偽性副甲状腺機能低下症	2			
135	副腎皮質刺激ホルモン不応症	1			
136	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	4			
137	フェニルケトン尿症	6			
138	プロピオン酸血症	1			
139	メチルマロン酸血症	2			
140	グルコーストランスポーター1欠損症	1			
141	尿素サイクル異常症	3			
142	ポルフィリン症	3			
143	肝型糖原病	6			
144	脳腫黄色腫症	1			
145	家族性地中海熱	2			
146	強直性脊椎炎	10			
147	骨形成不全症	1			
148	軟骨無形成症	1			
149	リンパ管腫症/ゴーハム病	1			
150	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	4			
151	後天性赤芽球癆	4			
152	エプスタイン症候群	3			
153	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	1			
154	クロンカイト・カナダ症候群	2			
155	総排泄腔遺残	1			
156	胆道閉鎖症	14			
157	遺伝性膀胱炎	1			
158	IgG4関連疾患	7			
159	黄斑ジストロフィー	4			
160	アッシュャー症候群	2			
161	好酸球性副鼻腔炎	33			
162	シトリン欠損症	2			
163	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	4			
164	特発性多中心性キャッスルマン病	9			
165	進行性家族性肝内胆汁うっ滞症	2			

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	165
合計患者数(人)	5799

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・医療DX推進体制整備加算(医科)	・感染対策向上加算1
・特定機能病院入院基本料1. 一般病棟 イ (7対1看護)	・感染対策向上加算1 指導強化加算
・特定機能病院入院基本料3. 精神病棟 ハ (13対1看護)	・感染対策向上加算1 抗菌薬適正使用体制加算
・入院栄養管理体制加算	・患者サポート体制充実加算
・救急医療管理加算	・褥瘡ハイリスク患者ケア加算
・超急性期脳卒中加算	・ハイリスク妊娠管理加算
・診療録管理体制加算2	・ハイリスク分娩管理加算
・医師事務作業補助体制加算1(20対1補助体制加算)	・後発医薬品使用体制加算1
・急性期看護補助体制加算(25対1 看護補助者5割以上)	・病棟薬剤業務実施加算1
・急性期看護補助体制加算(25対1 看護補助者5割以上) (夜間100対1急性期看護補助体制加算)	・病棟薬剤業務実施加算2
・急性期看護補助体制加算(25対1 看護補助者5割以上) (夜間看護体制加算)	・データ提出加算2
・看護職員夜間12対1配置加算1	・入退院支援加算2
・看護補助加算2(50対1)(精神病棟)	・入退院支援加算3
・療養環境加算	・入院時支援加算
・重症者等療養環境特別加算	・精神疾患診療体制加算
・無菌治療室管理加算1	・精神科急性期医師配置加算2のイ
・無菌治療室管理加算2	・地域医療体制確保加算
・放射線治療病室管理加算1 治療用放射性同位元素による治療の場合	・特定集中治療室管理料2
・放射線治療病室管理加算2 密封小線源による治療の場合	・特定集中治療室管理料5
・緩和ケア診療加算	・ハイケアユニット入院医療管理料1
・緩和ケア診療加算 個別栄養食事管理加算	・脳卒中ケアユニット入院医療管理料
・精神科身体合併症管理加算	・総合周産期特定集中治療室管理料 (母体・胎児集中治療室、新生児集中治療室)
・精神科リエゾンチーム加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・摂食障害入院医療管理加算	・小児入院医療管理料2
・栄養サポートチーム加算	・小児入院医療管理料2に係る加算(プレイルーム加算)
・医療安全対策加算1	・小児入院医療管理料 無菌治療管理加算1



(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料 注2の加算	・療養・就労両立支援指導料 相談支援加算
・外来栄養食事指導料の注2	・がん治療連携計画策定料
・外来栄養食事指導料の注3	・肝炎インターフェロン治療計画料
・心臓ペースメーカー指導管理料(遠隔モニタリング加算)	・ハイリスク妊産婦連携指導料1
・慢性維持透析患者外来医学管理料 腎代替療法実績加算	・ハイリスク妊産婦連携指導料2
・糖尿病合併症管理料	・こころの連携指導料(Ⅱ)
・がん性疼痛緩和指導管理料	・薬剤管理指導料
・がん患者指導管理料イ	・診療情報提供料 検査・画像情報提供加算
・がん患者指導管理料ロ	・電子的診療情報評価料
・がん患者指導管理料ハ	・医療機器安全管理料1
・がん患者指導管理料ニ	・医療機器安全管理料2
・外来緩和ケア管理料	・精神科退院時共同指導料2
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・在宅患者訪問看護・指導料
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料
・糖尿病透析予防指導管理料	・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)
・婦人科特定疾患治療管理料	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
・一般不妊治療管理料	・遺伝学的検査
・生殖補助医療管理料1	・染色体検査 注2 流産検体を用いた絨毛検査
・二次性骨折予防継続管理料1	・骨髄微小残存病変量測定
・二次性骨折予防継続管理料3	・BRCA1/2遺伝子検査(腫瘍細胞を検体とするもの)
・下肢創傷処置管理料	・BRCA1/2遺伝子検査(血液を検体とするもの)
・外来放射線照射診療料	・がんゲノムプロファイリング検査
・外来腫瘍化学療法診療料1	・先天性代謝異常症検査
・外来腫瘍化学療法診療料 連携充実加算	・抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体
・ニコチン依存症管理料	・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・HPV核酸検出	・遠隔画像診断
・HPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・ポジトロン断層撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合を除く)
・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出	・ポジトロン断層撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る)
・検体検査管理加算(I)	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合を除く)
・検体検査管理加算(IV)	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る)
・国際標準検査管理加算	・コンピューター断層撮影(CT撮影)
・遺伝カウンセリング加算	・冠動脈CT撮影加算
・遺伝性腫瘍カウンセリング加算	・磁気共鳴コンピューター断層撮影(MRI撮影)
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・心臓MRI撮影加算
・時間内歩行試験	・乳房MRI撮影加算
・シャトルウォーキングテスト	・小児鎮静下MRI撮影加算
・胎児心エコー法	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・ヘッドアップティルト試験	・外来化学療法加算1
・人工臓臓検査	・無菌製剤処理料
・皮下連続式グルコース測定	・心大血管疾患リハビリテーション料(I)
・長期継続頭蓋内脳波検査	・心大血管疾患リハビリテーション料の初期加算及び急性期リハビリテーション加算
・光トポグラフィー	・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)
・脳波検査判断料1	・脳血管疾患等リハビリテーション料の初期加算及び急性期リハビリテーション加算
・神経学的検査	・運動器リハビリテーション料(I)
・補聴器適合検査	・運動器リハビリテーション料の初期加算及び急性期リハビリテーション加算
・全視野精密網膜電図	・呼吸器リハビリテーション料(I)
・ロービジョン検査判断料	・呼吸器リハビリテーション料の初期加算及び急性期リハビリテーション加算
・内服・点滴誘発試験	・がん患者リハビリテーション料
・センチネルリンパ節生検(片側)	・集団コミュニケーション療法料
・画像診断管理加算1	・経頭蓋磁気刺激療法
・画像診断管理加算2	・通院・在宅精神療法 療養生活継続支援加算

## (様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・認知療法・認知行動療法1	・頭蓋内腫瘍摘出術 脳腫瘍覚醒下マッピング加算
・精神科作業療法	・内視鏡下脳腫瘍生検術
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料 (治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・内視鏡下脳腫瘍摘出術
・医療保護入院等診療料	・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・処置の休日加算1、時間外加算1、深夜加算1	・角結膜悪性腫瘍切除術
・多血小板血漿処置	・緑内障手術(流出路再建術(眼内法))
・エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)	・緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
・人工腎臓 慢性維持透析を行った場合1	・緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))
・導入期加算2	・網膜再建術
・透析液水質確保加算	・植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術
・慢性維持透析濾過加算	・経外耳道的内視鏡下鼓室形成術
・血漿交換法 注2 難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法	・人工中耳植込術
・血漿交換法 注3 移植後抗体関連型拒絶反応治療	・人工内耳植込術
・人工膵臓療法	・植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・ストーマ処置 ストーマ合併加算	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うもの)
・一酸化窒素吸入療法	・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
・手術の休日加算1、時間外加算1、深夜加算1	・内喉頭筋内注入術(ボツリヌス毒素によるもの)
・皮膚悪性腫瘍切除術 センチネルリンパ節加算	・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
・皮膚移植術(死体)	・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法
・組織拡張器による再建手術(一連につき) (乳房(再建手術)の場合に限る。)	・乳房切除術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者)
・四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術 及び骨悪性腫瘍手術 処理骨再建加算	・乳がんセンチネルリンパ節加算1、乳がんセンチネルリンパ節加算2
・骨悪性腫瘍、類骨骨腫及び四肢軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法	・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・骨移植術(軟骨移植術を含む。) (同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る)))	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・乳腺悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法
・椎間板内酵素注入療法	・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)

## (様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・経静脈電極拔去術
・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)
・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除及び肺葉切除又は1肺葉を超えるものに限る)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・大動脈バルーンポンピング法(IABP法)
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)	・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
・肺悪性腫瘍及び胸腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法	・経皮的下肢動脈形成術
・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)
・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・骨盤内悪性腫瘍及び腹腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法
・腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
・腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
・腹腔鏡下胃全摘術(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	・腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・胆管悪性腫瘍手術(臍頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)(アテローム切除アブレーション式血管形成術用カテーテルによるもの)	・腹腔鏡下肝切除術
・胸腔鏡下弁形成術	・腹腔鏡下肝切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・胸腔鏡下弁置換術	・生体部分肝移植術
・経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的動脈弁置換術)	・同種死体肝移植術
・経カテーテル弁置換術(経皮的肺動脈弁置換術)	・腹腔鏡下腓腫瘍摘出術
・経皮的僧帽弁クリップ術	・腹腔鏡下腓中央切除術
・不整脈手術 4 左心耳閉鎖術 ロ 経カテーテル的の手術によるもの	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
・経皮的の中隔心筋焼灼術	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術(内視鏡支援機器を用いる場合)
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・腹腔鏡下腓頭部腫瘍切除術
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)	・腹腔鏡下腓頭部腫瘍切除術(内視鏡支援機器を用いる場合)
・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)	・同種死体小腸移植術
・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剝離術
・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術(心筋リードの場合)	・内視鏡的小腸ポリープ切除術
・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いる場合又は皮下植込型リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(その他のもの)	・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)



(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・レーザー機器加算(医科)
・腎悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法	・麻酔管理料(Ⅰ)
・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・麻酔管理料(Ⅱ)
・同種死体腎移植術	・周術期薬剤管理加算
・生体腎移植術	・放射線治療専任加算
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	・外来放射線治療加算
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・高エネルギー放射線治療
・人工尿道括約筋植込・置換術	・高エネルギー放射線治療の1回線量増加加算
・精巣内精子採取術	・強度変調放射線治療(IMRT)
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	・強度変調放射線治療(IMRT)の1回線量増加加算
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・画像誘導放射線治療(IGRT)
・腹腔鏡下仙骨腫固定術	・体外照射呼吸性移動対策加算
・腹腔鏡下仙骨腫固定術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・定位放射線治療
・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	・画像誘導密封小線源治療加算
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)	・保険医療機関間の連携による病理診断
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製
・腹腔鏡下子宮癒痕部修復術	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細胞診
・体外式膜型人工肺管理料	・病理診断管理加算2
・子宮附属器腫瘍摘出術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者)	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・医科点数表第2章第10部手術通則第16号に掲げる手術(胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。))	・看護職員処遇改善評価料
・輸血管理料Ⅰ	・外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)
・コーディネート体制充実加算	・入院ベースアップ評価料
・同種クリオプレシピテート作製術	・歯科治療時医療管理料

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・医療機器安全管理料(歯科)	・
・口腔細菌定量検査	・
・有床義歯咀嚼機能検査1の口	・
・有床義歯咀嚼機能検査2の口	・
・咀嚼能力検査	・
・咬合圧検査	・
・精密触覚機能検査	・
・歯科口腔リハビリテーション料2	・
・がん患者リハビリテーション料(歯科)	・
・手術用顕微鏡加算	・
・口腔粘膜処置	・
・手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	・
・手術時歯根面レーザー応用加算	・
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	・
・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法(歯科)	・
・レーザー機器加算(歯科)	・
・クラウン・ブリッジ維持管理料	・
・う蝕歯無痛の窩洞形成加算	・
・CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー(1歯につき)	・
・歯科外来・在宅ベースアップ評価料(I)	・
・入院時食事療養費(1)	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・



(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
1 臨床現場での多重課題における意思決定要因の解明	松井 邦彦	病院	200,000	(補) 独立行政法人日本学術振興会
2 拘縮と廃用性筋力低下の問題を解決に導く次世代型療養支援体系の構築	掃本 誠治	病院	100,000	(補) 独立行政法人日本学術振興会
3 疲労度遷移ネットワークを用いた子どもの抗疲労介入因子の同定	上土井 貴子	病院	1,700,000	(補) 独立行政法人日本学術振興会
4 心腎連関におけるインドキシル硫酸及び産生責任酵素Sult1a1の毒性学的役割究明	齋藤 秀之	病院	4,000,000	(補) 独立行政法人日本学術振興会
5 CYLD依存的形質転換が導く分子標的薬感受性向上を軸とした治療不応癌患者への治療提供	城野 博史	病院	4,050,000	(補) 独立行政法人日本学術振興会
6 腫瘍間質に依存したシェアストレス抵抗性の獲得と血行性が転移機構の解明	石本 崇胤	病院	4,200,000	(補) 独立行政法人日本学術振興会
7 肝移植時の好中球動態と癌転移促進メカニズムの解析	本田 正樹	病院	5,450,000	(補) 独立行政法人日本学術振興会
8 microRNA-21の敗血症に対する制御活性を用いた新たな診断・治療法の開発	江嶋 正志	病院	23,430	(補) 独立行政法人日本学術振興会
9 悪性脳腫瘍におけるポリグルタミン化制御による新規治療法の開発	篠島 直樹	病院	327,938	(補) 独立行政法人日本学術振興会
10 遺伝子改変マウスを用いた頭頸部扁平上皮癌動物モデルの作成	伊勢 桃子	病院	802,024	(補) 独立行政法人日本学術振興会
11 舌癌におけるマクロファージマンノースレセプターの発現に関する研究	竹本 梨紗	病院	2,245,223	(補) 独立行政法人日本学術振興会
12 医療行為の結果を質向上する多施設共同カイゼン研究デザインの確立に関する研究	近本 亮	病院	33,293	(補) 独立行政法人日本学術振興会
13 非コードRNAによる転写活性なクロマチン高次構造形成機構の解明	山本 達郎	病院	1,100,000	(補) 独立行政法人日本学術振興会
14 膠芽腫における遺伝子「翻訳」調節機構の解明と治療への応用	山本 隆広	病院	1,599,817	(補) 独立行政法人日本学術振興会
15 仮性認知症としてのLate-onset AD/HDに関する臨床的研究	佐々木 博之	病院	4,140	(補) 独立行政法人日本学術振興会
16 逐次近似法再構成冠動脈C20K07988Tが臨床転帰に与える影響に関する多施設無作為化比較試験	尾田 済太郎	病院	14,117	(補) 独立行政法人日本学術振興会
17 心臓CTを用いた心筋組織性状評価:心アミロイドーシス診断ストラテジーの確立	尾田 済太郎	病院	1,134,440	(補) 独立行政法人日本学術振興会

17 件

小計 26,984,422円

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
18	神経型ゴーシェー病における新規の病態解析と治療薬の開発	城戸 淳	病院	730,168	(補) 独立行政法人日本学術振興会
19	ドミノ肝移植レシピエントの心機能評価を利用した心アミロイドーシス早期診断法の開発	宇宿 弘輝	病院	450,000	(補) 独立行政法人日本学術振興会
20	電子カルテ情報を利用した血液培養実施状況及び菌血症患者予後の網羅的解析	岡本 真一郎	病院	542,870	(補) 独立行政法人日本学術振興会
21	肺癌に対する放射線療法と免疫療法の有効性の関連解析および最適な治療法の開発	坂田 晋也	病院	2,326,292	(補) 独立行政法人日本学術振興会
22	膵α細胞におけるHSP72によるグルカゴン分泌調節機構の解明	北野 さやか	病院	300,779	(補) 独立行政法人日本学術振興会
23	4次元コーンビームCTを利用した体内線量分布計算システムの確立	下東 吉信	病院	387,567	(補) 独立行政法人日本学術振興会
24	βラクタム系薬の効果最大化が切り開く耐性菌の個別MICを活用した感染症治療新展開	尾田 一貴	病院	1,029,605	(補) 独立行政法人日本学術振興会
25	革新的治療法開発を目指した膵癌のKRAS遺伝子変異subtypeの網羅的解析	近本 亮	病院	1,766,345	(補) 独立行政法人日本学術振興会
26	粒子状物質による急性心筋梗塞や院外心停止の発症および発症メカニズムの解明	小島 淳	病院	1,275,340	(補) 独立行政法人日本学術振興会
27	ALアミロイドーシスにおける線溶系マーカーPAPの重要性とメカニズム解析	上野 志貴子	病院	3,225,140	(補) 独立行政法人日本学術振興会
28	食物繊維サプリメントによる腸内細菌叢と代謝産物TMAO、動脈硬化改善効果の検討	松澤 泰志	病院	2,791,890	(補) 独立行政法人日本学術振興会
29	手根管症候群手術症例を対象としたアミロイドーシスの早期発見に関する研究	高潮 征爾	病院	1,000,834	(補) 独立行政法人日本学術振興会
30	呼吸器疾患におけるXa因子阻害薬の出血リスク因子の解析	濱田 昌平	病院	1,066,780	(補) 独立行政法人日本学術振興会
31	浸透圧応答転写因子NFAT5による腎間質の微小環境と血圧の調節機序の検討	泉 裕一郎	病院	1,000,000	(補) 独立行政法人日本学術振興会
32	成人T細胞白血病におけるプロウイルス、ゲノム解析に関連する免疫学的研究	野坂 生郷	病院	2,087,673	(補) 独立行政法人日本学術振興会
33	骨髄異形成症候群に対する治療標的としてのSALL4の機能的解析	立津 央	病院	2,004,922	(補) 独立行政法人日本学術振興会
34	抗糖尿病効果を発揮する熱ストレス応答経路の多臓器間クロストーク解明	近藤 龍也	病院	905,554	(補) 独立行政法人日本学術振興会

17 件

小計 22,891,759円

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
35 胆管発生と胆汁うっ滞性障害肝の病態進展におけるSOX9関連シグナル経路の機能解析	吉井 大貴	病院	1,300,763	(補) 独立行政法人日本学術振興会
36 革新的治療法開発を目指した食道胃接合部腺癌の網羅的ゲノム解析	原田 和人	病院	296,832	(補) 独立行政法人日本学術振興会
37 網羅的遺伝子解析に基づいた肺癌に対する新規バイオマーカー及び分子標的治療の開発	中川 茂樹	病院	1,928,890	(補) 独立行政法人日本学術振興会
38 麻酔薬による脳虚血患者周術期の血液脳関門の機能変化の解明と治療応用	賀来 泰之	病院	1,097,299	(補) 独立行政法人日本学術振興会
39 HAO1とビタミンDシグナルを介した後縦靭帯骨化症の病態解明と治療法の開発	谷脇 琢也	病院	900,000	(補) 独立行政法人日本学術振興会
40 治療抵抗性口腔癌に対するmt-tRNA修飾を標的とした新たな治療戦略の構築	高橋 望	病院	661,214	(補) 独立行政法人日本学術振興会
41 拡張不全心不全(HFpEF)における新規線維化関連因子の関与の検討	山本 正啓	病院	1,274,788	(補) 独立行政法人日本学術振興会
42 全ゲノム関連解析による免疫チェックポイント阻害剤の有害事象予測因子の同定	宮本 英明	病院	1,380,983	(補) 独立行政法人日本学術振興会
43 非アルコール性脂肪肝炎に伴うサルコペニアの対策及び予後予測マーカーの開発	瀬戸山 博子	病院	3,053,560	(補) 独立行政法人日本学術振興会
44 強皮症関連肺高血圧症における病態細分化と治療反応群の特定についての検討	平川 今日子	病院	1,032,810	(補) 独立行政法人日本学術振興会
45 左室リバースリモデリングを目指したHFrEFの新規治療ガイド指標の確立	花谷 信介	病院	969,808	(補) 独立行政法人日本学術振興会
46 HIV-1タンパク質とRNAによるウイルス粒子形成メカニズムの解明	中村朋文	病院	1,510,831	(補) 独立行政法人日本学術振興会
47 マクロファージ増殖抑制を介したGPR43による糖尿病心筋症発症抑制の検討	花谷 聡子	病院	902,490	(補) 独立行政法人日本学術振興会
48 スキルス胃がん間質ダイバーシティの解明と治療標的の創出	石本 崇胤	病院	4,114,033	(補) 独立行政法人日本学術振興会
49 子どもの生活習慣改善に導く個別化研究	上土井 貴子	病院	1,675,820	(補) 独立行政法人日本学術振興会
50 小血管の老化から解明するトランスサイレチンアミロイドーシスの病態	三隅 洋平	病院	50,000	(補) 独立行政法人日本学術振興会
51 早産児血液炎症マーカーと母体情報の組み合わせによる胎児炎症反応症候群評価法の開発	岩井 正憲	病院	1,489,481	(補) 独立行政法人日本学術振興会

17 件

小計 23,639,602円

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
52 高齢心不全患者のフレイルに対する鉄補充療法の効果の検証	松澤 泰志	病院	100,000	(補) 独立行政法人日本学術振興会
53 血管内皮機能に着目した肺動脈性肺高血圧症への新たな治療法確立のための研究	山本 英一郎	病院	1,363,157	(補) 独立行政法人日本学術振興会
54 酪酸菌製剤と免疫チェックポイント阻害剤を併用した新規肺癌治療戦略の開発	富田 雄介	病院	996,436	(補) 独立行政法人日本学術振興会
55 糸球体機能における恒常性維持とその破綻の分子基盤解明	森永 潤	病院	1,100,000	(補) 独立行政法人日本学術振興会
56 セリンプロテアーゼによる尿濃縮メカニズムの解明	安達 政隆	病院	950,000	(補) 独立行政法人日本学術振興会
57 クロウン性造血を介した炎症性免疫疾患の機序の解明	平田 真哉	病院	2,041,010	(補) 独立行政法人日本学術振興会
58 HIV感染におけるケモカイン受容体の動態解析とその多量体形成を標的とした薬剤開発	中田 浩智	病院	1,876,676	(補) 独立行政法人日本学術振興会
59 食道癌手術後の呼吸器合併症減少を目指した革新的リスク評価法の確立	吉田 直矢	病院	1,280,387	(補) 独立行政法人日本学術振興会
60 妊娠糖尿病における血管内皮障害メカニズムの解明 DPP-4阻害薬の治療戦略	杉田 道子	病院	715,220	(補) 独立行政法人日本学術振興会
61 患者検体由来膠芽腫オルガノイド培養による膠芽腫個別化治療法の開発	竹崎 達也	病院	1,315,989	(補) 独立行政法人日本学術振興会
62 加齢による音声障害に対するSirt1を介した新たな治療法の開発	宮丸 悟	病院	2,282,337	(補) 独立行政法人日本学術振興会
63 疾患マーカーとしての爪中microRNAの検討	伊方 敏勝	病院	900,000	(補) 独立行政法人日本学術振興会
64 口腔癌の可塑的エピゲノム機構の解明	中元 雅史	病院	904,280	(補) 独立行政法人日本学術振興会
65 糖尿病性腎症における低血糖誘導ミトコンドリア由来活性酸素種の寄与解析	梶原 伸宏	病院	757,234	(補) 独立行政法人日本学術振興会
66 頭頸部癌の緩和的放射線治療における臨床レディオミクス治療効果予測システムの開発	甲斐 祐大	病院	1,459,426	(補) 独立行政法人日本学術振興会
67 網羅的ゲノム・エピゲノムプロファイリングによる表在型食道癌新規リスク因子の検索	具嶋 亮介	病院	2,488,866	(補) 独立行政法人日本学術振興会
68 エネルギー代謝補酵素に着目した胆道癌・膵癌化学療法抵抗性機序の解明	長岡 克弥	病院	2,422,580	(補) 独立行政法人日本学術振興会

17 件

小計 22,953,598円

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
69 新規デバイスを用いた血液内cfDNA解析による食道癌化学放射線療法の効果予測	山崎 明	病院	2,089,484	(補) 独立行政法人日本学術振興会 委
70 低分子化合物で誘導したヒト肝前駆細胞を用いた先天性肝代謝疾患モデルの創出	稲田 浩気	病院	1,929,655	(補) 独立行政法人日本学術振興会 委
71 急性腎障害に対するセリンプロテアーゼを標的とした新規治療法の開発	中川 輝政	病院	1,200,000	(補) 独立行政法人日本学術振興会 委
72 皮膚悪性腫瘍におけるcell-free DNAの解析	澤村 創一郎	病院	1,000,000	(補) 独立行政法人日本学術振興会 委
73 HBZ-宿主タンパク質結合のATL発がん機序における役割の解明	樋口 悠介	病院	2,210,018	(補) 独立行政法人日本学術振興会 委
74 腰椎椎間板変性メカニズムにおけるアミロイドタンパク沈着の影響の解析	中村 孝幸	病院	343,856	(補) 独立行政法人日本学術振興会 委
75 マクロファージのヘモグロビン処理と卵巣チョコレート嚢胞の炎症・発がんとの関連	楠木 慎	病院	2,537,834	(補) 独立行政法人日本学術振興会 委
76 ヒト早発卵巣不全の発症に関わる減数分裂制御遺伝子の探索	小寺 千聡	病院	2,300,180	(補) 独立行政法人日本学術振興会 委
77 利尿薬スピロラクトンの口腔癌治療への応用および新規治療法の開発	坂田 純基	病院	1,088,051	(補) 独立行政法人日本学術振興会 委
78 災害時の洗面所環境・機能確保のための事業継続計画とその実践に関する研究	内藤 久貴	病院	1,159,821	(補) 独立行政法人日本学術振興会 委
79 生命予後因子CYLDの病態解析を突破口とした難治性卵巣癌の新規薬物療法の開発	三宅 俊介	病院	1,905,343	(補) 独立行政法人日本学術振興会 委
80 メラノーマに対する4-1BBL遺伝子改変iPS細胞を用いた細胞医薬開発	栗山 春香	病院	1,100,000	(補) 独立行政法人日本学術振興会 委
81 インドキシル硫酸の産生・蓄積阻害による慢性腎臓病血栓塞栓症に対する予防戦略の確立	成田 勇樹	病院	1,000,000	(補) 独立行政法人日本学術振興会 委
82 がん免疫の個人差をリンパ節マクロファージの観点から明らかにする	塩田 拓也	病院	650,000	(補) 独立行政法人日本学術振興会 委
83 血漿Lyso-Gb3と血管内皮細胞解析を駆使した新しいファブリー病診断システムの構築	城戸 淳	病院	859,134	(補) 独立行政法人日本学術振興会 委
84 ATTRwt型心アミロイドーシスの心房性不整脈に対するアブレーション治療法の確立	金澤 尚徳	病院	1,400,000	(補) 独立行政法人日本学術振興会 委
85 生物学的製剤を用いた粘液栓に対する治療アプローチの確立	穴井 盛靖	病院	700,000	(補) 独立行政法人日本学術振興会 委

17 件

小計 23,473,376円



(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
86	尿中セリンプロテアーゼによる ENaC、AQP2活性化機序の解明と臨床応用	柿添 豊	病院	1,300,000	(補) 独立行政法人日本学術振興会 委
87	遺伝子改変iPS細胞由来ミエロイドラインを用いた進行期メラノーマの免疫療法	宮下 梓	病院	1,500,000	(補) 独立行政法人日本学術振興会 委
88	内在性Scx/Sox9共陽性細胞の動員促進を介した腱板修復促進治療の開発	徳永 琢也	病院	1,400,000	(補) 独立行政法人日本学術振興会 委
89	転写因子Stat3の阻害薬の大規模スクリーニングと慢性炎症及び関節破壊の治療法の確立	宮本 佳奈	病院	1,200,000	(補) 独立行政法人日本学術振興会 委
90	加齢による腱板修復能の低下メカニズムの解析および腱板修復促進治療への応用	唐杉 樹	病院	700,000	(補) 独立行政法人日本学術振興会 委
91	分子基盤に基づいた HPV 関連子宮頸部腺癌の治療選択基準の提唱ー子宮温存のために	三上 芳喜	病院	400,000	(補) 独立行政法人日本学術振興会 委
92	生体イメージングと網羅的解析によるミトコンドリア面からみた緑内障とその治療法探索	瀧原 祐史	病院	1,000,000	(補) 独立行政法人日本学術振興会 委
93	カルシウムとミトコンドリアの形態制御は口腔癌における治療抵抗性に関与するのか？	川原 健太	病院	1,200,000	(補) 独立行政法人日本学術振興会 委
94	乳癌における治療後免疫微小環境の変化と新たな標的分子の探索	宮里 祐子	病院	1,200,000	(補) 独立行政法人日本学術振興会 委
95	膠芽腫における免疫微小環境の理解と新たな標的分子の探索	甲斐 恵太郎	病院	800,000	(補) 独立行政法人日本学術振興会 委
96	乳癌術前内分泌療法の効果予測因子の臨床的意義と機能解析	後藤 理沙	病院	1,100,000	(補) 独立行政法人日本学術振興会 委
97	長期高脂肪食負荷によるインスリン抵抗性と肝線維化におけるマクロファージ増殖の意義	前田 沙梨恵	病院	900,000	(補) 独立行政法人日本学術振興会 委
98	高齢者の小径線維ニューロパチーに潜む野生型ATTRアミロイドーシスの解析	中原 圭一	病院	500,000	(補) 独立行政法人日本学術振興会 委
99	脳髄膜リンパ管に着目した、ATTR型脳アミロイド血管症の病態解析	野村 隼也	病院	900,000	(補) 独立行政法人日本学術振興会 委
100	地域在住高齢者における脳脊髄液動態の加齢性変化とその臨床的意義	日高 洋介	病院	1,200,000	(補) 独立行政法人日本学術振興会 委
101	デジタルオミクス・空間的シングルセル解析による痔瘻先行型クローン病診断体系の探索	古田 陽輝	病院	1,500,000	(補) 独立行政法人日本学術振興会 委
102	口腔細菌・代謝物解析による食道癌内視鏡切除後再発・頭頸部癌重複の新規危険因子同定	松野 健司	病院	1,900,000	(補) 独立行政法人日本学術振興会 委

17 件

小計 18,700,000円

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
103	腫瘍微小環境の空間的オミックス解析を用いた肝細胞癌に対する複合免疫療法の効果予測	徳永 堯之	病院	800,000	(補) 独立行政法人日本学術振興会
104	Exosomal miRNA・細菌叢解析が拓く肝臓免疫関連有害事象予測バイオマーカーの確立	檜原 哲史	病院	1,100,000	(補) 独立行政法人日本学術振興会
105	血栓形成能及び鎮静深度を用いた心房細動治療後の無症候性脳塞栓予測モデルの開発	金子 祥三	病院	900,000	(補) 独立行政法人日本学術振興会
106	肺線維化を修飾する"腸肺軸(the gut-lung axis)"を解明するための基盤研究	岡林 比呂子	病院	600,000	(補) 独立行政法人日本学術振興会
107	皮膚悪性腫瘍の悪性化メカニズムの解明	金澤 早織	病院	1,900,000	(補) 独立行政法人日本学術振興会
108	NAPIL4を標的とした新規短鎖核酸を用いたメラノーマに対する治療開発	水橋 寛	病院	700,000	(補) 独立行政法人日本学術振興会
109	全身性強皮症におけるcircRNAの役割の解明	島田 秀一	病院	900,000	(補) 独立行政法人日本学術振興会
110	HTLV-1感染造血幹細胞の細胞分化異常とATL発癌機序の解明	古田 梨愛	病院	1,800,000	(補) 独立行政法人日本学術振興会
111	B型慢性肝炎治療を齎すと思われるE-CFCP等のリン酸化効率・細胞内滞留等の解析	青木 宏美	病院	9,652	(補) 独立行政法人日本学術振興会
112	miR-222のβ細胞増殖制御機序の解析と糖尿病病態マーカーとしての意義	小野 薫	病院	1,200,000	(補) 独立行政法人日本学術振興会
113	肝障害・再生時における好中球サブタイプの時空間的変化と変換機構の解明	嶋田 圭太	病院	1,100,000	(補) 独立行政法人日本学術振興会
114	大腸癌の抗腫瘍免疫におけるニュートリエピジェネティクスについて	大内 繭子	病院	1,800,000	(補) 独立行政法人日本学術振興会
115	新規視床下部タンパクSRPX2がくも膜下出血後の視床下部障害に果たす役割の解明	岳元 裕臣	病院	1,900,000	(補) 独立行政法人日本学術振興会
116	子宮頸部分葉状頸管腺過形成の悪性化リスク評価のための網羅的分子遺伝学的解析研究	川上 史	病院	2,000,000	(補) 独立行政法人日本学術振興会
117	中咽頭扁平上皮癌におけるYes-associated protein1(YAP1)の機能解析	齋藤 陽元	病院	2,100,000	(補) 独立行政法人日本学術振興会
118	毛様体無色素上皮細胞のCD44経路と眼圧制御に関する研究	松村 智世	病院	1,100,000	(補) 独立行政法人日本学術振興会
119	口腔扁平上皮癌に特有な腫瘍微小環境における抗腫瘍免疫応答の解明	岩本(高島) 明日香	病院	1,800,000	(補) 独立行政法人日本学術振興会

17 件

小計 21,709,652円

## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
120	血中循環腫瘍細胞の力覚応答に基づくクローン選択メカニズムの解明と治療法の開発	前城 学	病院	1,055,886	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
121	身体機能と認知機能の虚弱状態における遺伝子発現制御基板の解明と新規評価法 の開発	吉浦 和宏	病院	1,500,000	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
122	分娩のエピゲノム記憶に基づいた子宮頸管熟化機構の解明	中村 美和	病院	1,700,000	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
123	アミロイド線維の立体構造解析から紐解くTTRアミロイドーシスの病態解明	水谷 浩徳	病院	1,100,000	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
124	口腔扁平上皮癌におけるIGF1Rを起点とした放射線耐性機構解明と新規治療法の開発	竹下 尚志	病院	1,100,000	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
125	「HTLV-1 総合対策」推進におけるキャリア対策の基盤整備と適正な研究開発の推進に資する包括的評価と提言のための研究	野坂 生郷	病院	100,000	(補) 委 厚生労働省
126	輸血医療の安全性向上のためのデータ構築研究	米村 雄士	病院	600,000	(補) 委 厚生労働省
127	スモンに関する調査研究	中原 圭一	病院	800,000	(補) 委 厚生労働省
128	肝炎ウイルス検査受検率の向上及び受診へ円滑につなげる方策の確立に資する研究	瀬戸山 博子	病院	400,000	(補) 委 厚生労働省
129	指標等を活用した地域の実情に応じた肝炎対策均てん化の促進に資する研究	瀬戸山 博子	病院	3,000,000	(補) 委 厚生労働省
130	「E-CFCPによる肝内cccDNA減衰・枯渇効果のメカニズム解析」	青木 宏美	病院	16,246	補 (委) 国立研究開発法人国立国際医療研究センター
131	デュシェンヌ型筋ジストロフィーを対象とした新たな患者レジストリを構築するための研究 (Remudy-DMD)	小篠 史郎	病院	62,991	補 (委) 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
132	再発又は難治性の成人T細胞白血病・リンパ腫に対するニボルマブの第II相医師主導治験	野坂 生郷	病院	50,967	補 (委) 国立大学法人鹿児島大学
133	線維化腫瘍に対する複合がん免疫療法の効果予測バイオマーカー確率	石本 崇胤	病院	863,005	補 (委) 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
134	進展型小細胞肺癌患者に対する初回治療カルボプラチン/エトポシド/アテゾリズマブ併用両方の実地診療における有効	坂田 晋也	病院	67,692	補 (委) 公立大学法人和歌山県立医科大学
135	1型糖尿病におけるイブラグリフロジン補助療法による腎機能変化の検討	小野 薫	病院	7,997	補 (委) 国立大学法人長崎大学
136	医師主導治験の実施(症例登録及びプロトコル遂行)	山口 宗影	病院	63,000	補 (委) 国立大学法人千葉大学

17 件

小計 12,487,784円

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
137 シングルセル・マルチオミクス解析による線維化シグナルネットワークの全貌解明	石本 崇胤	病院	2,411,237	補 委 国立研究開発法人 科学技術振興機構
138 B型肝炎再活性化に対する、費用対効果に優れた予防および治療法の開発	野坂 生郷	病院	400,000	補 委 国立大学法人九州 大学
139 リボソームの新機軸・リプログラミング能を突破口としたがん幹細胞に対する従来にない治療薬の創製	城野 博史	病院	2,219,928	補 委 国立大学法人九州 大学
140 新規作用型抗真菌薬の開発	中村 朋文	病院	2,209,091	補 委 国立大学法人九州 大学
141 HTLV-1水平感染の動向と検査法・検査体制の整備	野坂 生郷	病院	500,000	補 委 国立大学法人長崎 大学
142 アグレッシブ成人T細胞白血病リンパ腫を対象とした全国一元化レジストリ・バイオレポジトリ研究	野坂 生郷	病院	250,000	補 委 国立研究開発法人 国立がん研究セン ター
143 統合型ヘルスケアシステムの構築	中村 太志	病院	25,240,000	補 委 国立大学法人東京 大学
144 北部九州における分散型臨床試験のための医療機関ネットワーク構築と倫理審査の効率化を目指した研究	野坂 生郷	病院	1,000,000	補 委 国立大学法人佐賀 大学
145 カルシウム・リン代謝制御からの骨恒常性および老化制御	宮本 健史	生命科学研究部	3,900,000	補 委 独立行政法人 日本学術振興会
146 ATTRアミロイドーシスを真に克服する病態解明とアミロイド・クリアランス療法	植田 光晴	生命科学研究部	3,900,000	補 委 独立行政法人 日本学術振興会
147 ヒトT細胞白血病ウイルス1型がコードするHBZによる発がん機構の解明	松岡 雅雄	生命科学研究部	4,500,000	補 委 独立行政法人 日本学術振興会
148 消化器癌の革新的治療法開発を目指したハダカデバネズミ腸内細菌のマルチオミクス解析	馬場 秀夫	生命科学研究部	3,900,000	補 委 独立行政法人 日本学術振興会
149 リプリン脂質代謝障害を基盤としたうつ病の層別化および新規抗うつ薬の革新的開発	竹林 実	生命科学研究部	4,900,000	補 委 独立行政法人 日本学術振興会
150 ライソゾーム栄養感知機構を標的としたNASH肝がん抑止を目指した創薬研究	田中 靖人	生命科学研究部	6,100,000	補 委 独立行政法人 日本学術振興会
151 HTLV-1による免疫疲弊・ATL発がんの分子機構解明と治療ワクチンの開発	安永 純一郎	生命科学研究部	5,400,000	補 委 独立行政法人 日本学術振興会
152 褐色脂肪活性化因子による筋代謝調節機序の解明とバイオマーカーとしての意義	荒木 栄一	生命科学研究部	5,400,000	補 委 独立行政法人 日本学術振興会
153 脳腫瘍の免疫血管微小環境と放射線画像radiomics解析の融合を基にした新規治療開発	武笠 晃丈	生命科学研究部	5,200,000	補 委 独立行政法人 日本学術振興会

17 件

小計 77,430,256円

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
154 胎盤形成不全に対する先制医療開発のための基盤研究	近藤 英治	生命科学研究部	4,800,000	(補)委 独立行政法人 日本学術振興会
155 Sirt7によるIRE1アセチル化を介したHFpEF病態形成機構の解明	山村 智	生命科学研究部	800,000	(補)委 独立行政法人 日本学術振興会
156 腎細胞癌におけるMicroRNA-204-5pおよびTRPM3の機能解析	倉橋 竜磨	生命科学研究部	600,000	(補)委 独立行政法人 日本学術振興会
157 細胞移植による内耳有毛細胞再生	竹田 大樹	生命科学研究部	300,000	(補)委 独立行政法人 日本学術振興会
158 ドラッグ・リポジショニングによるLPA1受容体を標的とした新規抗うつ薬の開発	梶谷 直人	生命科学研究部	1,100,000	(補)委 独立行政法人 日本学術振興会
159 人工知能を用いて多層検出器CT画像より疑似的なMR画像を作成する研究	中浦 猛	生命科学研究部	300,000	(補)委 独立行政法人 日本学術振興会
160 EOB-MRIとディープラーニングを用いたHCC切除後の予後予測システムの確立	中川 雅貴	生命科学研究部	700,000	(補)委 独立行政法人 日本学術振興会
161 心房細動治療前心臓CTによる心筋組織性状評価:撮像・評価法確立と臨床的意義の解明	木藤 雅文	生命科学研究部	400,000	(補)委 独立行政法人 日本学術振興会
162 新規エピゲノム解析技術による新しいHBV-cccDNA制御メカニズムの解明	渡邊 丈久	生命科学研究部	900,000	(補)委 独立行政法人 日本学術振興会
163 栄養環境がもたらすエピゲノム制御変化の解明に基づく肝発癌増殖進展の制御	佐々木 裕	生命科学研究部	900,000	(補)委 独立行政法人 日本学術振興会
164 空間的遺伝子発現解析が拓くCdh1介在性の炎症性発癌機構の解明と新規予防戦略	直江 秀昭	生命科学研究部	500,000	(補)委 独立行政法人 日本学術振興会
165 腫瘍微小環境の制御を目指したiPS細胞由来マクロファージ療法	福島 聡	生命科学研究部	1,200,000	(補)委 独立行政法人 日本学術振興会
166 褐色脂肪組織再生に関与する臓器間関連因子の分子機序の解明	阪口 雅司	生命科学研究部	1,300,000	(補)委 独立行政法人 日本学術振興会
167 褐色脂肪細胞活性調節におけるマクロファージの役割の解明	瀬ノ口 隆文	生命科学研究部	900,000	(補)委 独立行政法人 日本学術振興会
168 西洋型食生活に関連する腸内フローラによる発癌リスクとそのメカニズム解明	有馬 浩太	生命科学研究部	1,100,000	(補)委 独立行政法人 日本学術振興会
169 ドラッグリポジショニングによる腫瘍微小環境を標的とした革新的治療法の開発	小澄 敬祐	生命科学研究部	1,200,000	(補)委 独立行政法人 日本学術振興会
170 FusobacteriumによるNOD/NF-κBを介した食道癌進展機序の解明	野元 大地	生命科学研究部	1,000,000	(補)委 独立行政法人 日本学術振興会

17 件

小計 18,000,000円

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
171 周術期心筋傷害の分子機序の解明と制御法の検討	平田 直之	生命科学研究部	200,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
172 Xp11.2転座腎細胞癌多段階発がん機序の解明	神波 大己	生命科学研究部	1,000,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
173 緑内障術後創傷治癒におけるエピゲノム変化とメモリー効果に関する研究	井上 俊洋	生命科学研究部	1,300,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
174 エクソソームによる前転移ニッチ形成を標的とした口腔がん転移の革新的治療法開発	吉田 遼司	生命科学研究部	900,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
175 口腔扁平上皮癌の免疫チェックポイント阻害薬耐性機序の解明と新規治療戦略	永田 将士	生命科学研究部	900,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
176 HTLV-1 Taxの間歇的発現に伴うエピゲノム変容および発がん機序解明	栗田 大輔	生命科学研究部	500,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
177 緑内障術後創傷治癒過程におけるMCP-1/CCR2の役割の解明	小島 祥	生命科学研究部	1,200,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
178 口腔扁平上皮癌における放射線耐性機序解明とスルファサラジン併用療法の有効性の検討	中嶋 光	生命科学研究部	1,300,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
179 インスリン受容体β鎖と転写因子FoxK1/2の核内共移行機序と標的遺伝子の解析	荒木 栄一	生命科学研究部	2,000,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
180 胎児腸管免疫プライミングを標的とした脳および腸の機能障害の発生機序の解明	近藤 英治	生命科学研究部	1,100,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
181 大腸癌に対する革新的治療戦略構築を目指した患者体組成に関する網羅的解析	徳永 竜馬	生命科学研究部	1,200,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
182 海馬アストロサイトに着目した電気けいれん療法の作用機序解明	朴 秀賢	生命科学研究部	700,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
183 統合的MRI解析を用いたCOVID-19神経学的後遺症に関する脳病態解明	上谷 浩之	生命科学研究部	500,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
184 急性心筋梗塞におけるLAG-3の関連性の解明	藤末 昂一郎	生命科学研究部	1,100,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
185 トレハロースによる腸-脳-心連関の解明	荒木 智	生命科学研究部	1,000,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
186 心内微小環境に着目したトランスサイレチン型心アミロイドーシス病態解明	辻田 賢一	生命科学研究部	1,300,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
187 腫瘍関連マクロファージをターゲットとした小細胞肺癌の新規治療戦略	入来 豊久	生命科学研究部	1,000,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会

17 件

小計 17,200,000円

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
188 自己免疫性肺胞蛋白症に対する全肺洗浄の作用機序を理解するための基盤研究	坂上 拓郎	生命科学研究部	1,100,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
189 糖尿病性腎症進展抑制を目指したエクソソーム阻害薬投与効果の検討	水本 輝彦	生命科学研究部	1,100,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
190 細胞性免疫による急性腎障害進展機序に果たすMRP8の役割	栞原 孝成	生命科学研究部	1,000,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
191 膵腺房細胞におけるインスリン作用の意義と新規糖代謝調節機序の解明	福田 一起	生命科学研究部	1,000,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
192 がんーストローマ代謝物クロストークによる膵癌進展メカニズムの解明	北村 文優	生命科学研究部	900,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
193 肝細胞癌切除新鮮組織からの細胞分離による腫瘍免疫細胞クロストークの解明	遊佐 俊彦	生命科学研究部	1,000,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
194 胃切除後の血糖変動を考慮した個別化栄養介入によるダンピング症候群の克服	井田 智	生命科学研究部	2,000,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
195 非小細胞肺癌における腫瘍関連好中球浸潤の分子メカニズムとその臨床的意義の解明	池田 公英	生命科学研究部	1,300,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
196 肉腫の転移に関わる免疫微小環境を標的とした新規治療法の開発	白石 大偉輔	生命科学研究部	1,000,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
197 マクロファージのITAMシグナルを介したインプラントへの生体応答制御	岡元 信和	生命科学研究部	1,100,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
198 線維柱帯細胞の圧ストレス応答と房水流出抵抗の関係	藤本 智和	生命科学研究部	1,100,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
199 メカノセレクション仮説から迫る循環腫瘍細胞クラスターの特性解明	神力 悟	生命科学研究部	1,100,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
200 肝癌におけるC5aRとPD-L1阻害剤との相互作用を介した革新的治療の開発	甲斐田 剛圭	生命科学研究部	1,900,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
201 MYCとPGC1 $\alpha$ が制御する癌代謝と腫瘍免疫を標的とした新規肝細胞癌治療法の開発	北野 雄希	生命科学研究部	1,900,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
202 新規免疫治療標的やバイオマーカー同定のための胃癌腹膜播種の動的免疫微小環境の解析	山下 晃平	生命科学研究部	1,700,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
203 総合的血栓形成能を用いたDOACs内服患者の塞栓症/出血性合併症予測モデルの開発	伊藤 美和	生命科学研究部	500,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
204 糖尿病性腎臓病における糸球体病変形成機序解明を目指した細胞連関の解析	藤本 大介	生命科学研究部	1,500,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会

17 件

小計 21,200,000円

## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
205 tRNA 修飾酵素CDKAL1による糸球体足細胞機能制御の分子メカニズム解明	永芳 友	生命科学研究部	1,800,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
206 遺伝子改変iPS由来ミエロイドラインと免疫チェックポイント阻害薬併用療法の開発	木村 俊寛	生命科学研究部	700,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
207 大腸癌に対するがん免疫療法における革新的治療予測バイオマーカーの探索	清住 雄希	生命科学研究部	1,800,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
208 糖・アミノ酸代謝シフトによる膵がん代謝制御機構の解明	伊東山 瑠美	生命科学研究部	1,600,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
209 アセトアミノフェンの鎮痛機序の解明	中村 真吾	生命科学研究部	1,300,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
210 メントレキサート耐性中枢神経原発悪性リンパ腫に対する新規治療標的の探索	藤本 健二	生命科学研究部	1,000,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
211 上皮性卵巣癌の治療過程におけるマクロファージ制御の有用性に関する検討	坪木 純子	生命科学研究部	1,000,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
212 口腔がんの転移制御実現のための革新的診断法・治療法の開発	山名 啓介	生命科学研究部	1,300,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
213 免疫チェックポイント阻害薬投与時の栄養管理に関する研究	猿渡 功一	生命科学研究部	600,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
214 口腔扁平上皮癌における抗腫瘍ウイルスを用いた新規治療開発に関する研究	郷原 俊輔	生命科学研究部	700,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
215 F. nucleatumによる大腸癌進展と鉄代謝の関連	山根 大侍	生命科学研究部	900,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
216 リキッドバイオプシーを用いた膵癌個別化治療のための腹膜播種予測miRNAパネルの開発	山村 謙介	生命科学研究部	1,400,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
217 定量的磁化率マッピングを用いた膠芽腫の免疫微小環境の画像化の開発	平井 俊範	生命科学研究部	1,200,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
218 転移性脳腫瘍に対する定位放射線治療の新たな試みBED-basedSRTにおけるLQCmodelの導入	大屋 夏生	生命科学研究部	1,000,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
219 脊髄性筋萎縮症とポンペ病の遺伝子解析とELISA法を用いた早期診断治療体制の確立	中村 公俊	生命科学研究部	1,200,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
220 遺伝子改変マウスを用いたグルタル酸尿症の病態解析	松本 志郎	生命科学研究部	1,500,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
221 DPP4によるM2マクロファージ分極化抑制と動脈硬化進展の機序解明	松村 剛	生命科学研究部	1,000,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会

17 件

小計 20,000,000円



(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
222	全身性強皮症の皮膚線維化に関与する長鎖ノンコーディングRNAの機能解明	牧野 雄成	生命科学研究部	1,200,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
223	皮膚悪性腫瘍におけるリキッドバイオプシー臨床応用への基盤確立	梶原 一亨	生命科学研究部	1,400,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
224	切除不能な肝門部領域胆管癌に対する生体肝移植で治癒に至る分子生物学的特性の解明	日比 泰造	生命科学研究部	700,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
225	脳常在型マクロファージのCD36を介した殺腫瘍作用による再発悪性神経膠腫の新規治療	植川 顕	生命科学研究部	700,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
226	Scx発現細胞を標的としたACL再建術後移植腱の早期再靱帯化についての研究	舛田 哲朗	生命科学研究部	1,300,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
227	ヒト原発性性腺機能不全の原因探索	大場 隆	生命科学研究部	1,200,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
228	エクソソームmiRNAによる房水循環の制御	高橋 枝里	生命科学研究部	1,300,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
229	スマートホスピタルに実装する脳神経疾患急性期患者の状態急変監視システムの開発	浜崎 禎	生命科学研究部	1,200,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
230	超解像技術を活用した小児CTの被ばく線量最適化	永山 泰教	生命科学研究部	2,300,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
231	ボンベ病の新生児スクリーニングにおける乳児型ボンベ病のリスク評価システムの構築	澤田 貴彰	生命科学研究部	1,000,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
232	新型コロナウイルス感染症による急性心筋梗塞の病態および循環器救急診療へ及ぼす影響	石井 正将	生命科学研究部	1,200,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
233	HTLV-1の適応進化不全によるATL発がん機構の解明と新規治療薬の探索	七條 敬文	生命科学研究部	1,800,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
234	Fusobacteriumが癌関連線維芽細胞と関連して消化器癌へ及ぼす影響のメカニズム解析	岡留 一雄	生命科学研究部	1,900,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
235	革新的治療法開発を目指したサルコペニアと腫瘍免疫の統合的解析	大徳 暢哉	生命科学研究部	1,800,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
236	3Dプリンターを用いた実践的かつ量産可能な手術トレーニングキットの作成	沼口 亮介	生命科学研究部	700,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
237	膠芽腫におけるtRNA修飾機構の解明と新たな治療アプローチの創造	山本 隆広	生命科学研究部	1,100,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
238	酪酸によるエピゲノム変化を介した口腔癌の進展機序の解明と新規治療法の創出	永尾 優果	生命科学研究部	1,900,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会

17 件

小計 22,700,000円

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
239 修飾ヌクレオシドが織りなす生体制御と腎不全に伴う変化から紐解く新規心腎連関機序	向山 政志	生命科学研究部	3,000,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
240 トランスサイレチン型心アミロイドーシスにおけるタフファミジス長期投与の経時変化	九山 直人	生命科学研究部	1,000,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
241 医師の労働時間短縮のための手法に関する検討	馬場 秀夫	生命科学研究部	2,017,000	(補) 委 厚生労働省
242 多彩な自然災害発災時における循環器病発症・再発予防に資する注意喚起ツールの開発	辻田 賢一	生命科学研究部	3,850,000	(補) 委 厚生労働省
243 新生児スクリーニング対象疾患等の先天代謝異常症の成人期にいたる診療体制構築と提供に関する研究	中村 公俊	生命科学研究部	17,600,000	(補) 委 厚生労働省

5 件

小計 27,467,000円

243 件

合計 376,837,449円

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Sakagami T	呼吸器内科	Evolution of asthma treatment goals.	Respir Investig. 2023 May;61(3):333-334.	Others
2	Mito R, Iriki T, Fujiwara Y, et al.	呼吸器内科	Onionin A inhibits small-cell lung cancer proliferation through suppressing STAT3 activation induced by macrophages-derived IL-6 and cell-cell interaction with tumor-associated macrophage.	Hum Cell. 2023 May;36(3):1068-1080	Original Article
3	Tomita Y, Sakata S, Imamura K, et al.	呼吸器内科	Association of Clostridium butyricum Therapy Using the Live Bacterial Product CBM588 with the Survival of Patients with Lung Cancer Receiving Chemoimmunotherapy Combinations.	Cancers (Basel). 2023 Dec 21;16(1):47.	Original Article
4	Anai M, Saruwatari K, Imamura K, et al.	呼吸器内科	Negative impact of ratio of the microvascular area to tumor area on the response to EGFR-TKI in non-small cell lung cancer with an EGFR mutation.	J Thorac Dis. 2024 Feb 29;16(2):1151-1160.	Original Article
5	Hamada S, Muramoto K, Akaike K, et al.	呼吸器内科	The impact of factor Xa inhibitors on bleeding risk in patients with respiratory diseases.	Sci Rep. 2024 Feb 19;14(1):4039.	Original Article

6	Kugiyama N, Hashigo S, Nagaoka K, et al.	消化器内科	Clinical usefulness of inside stents in anastomotic biliary strictures after liver transplantation.	DEN Open. 2023 Oct 27;4(1):e305.	Original Article
7	Fukase H, Honda M, Miyamoto H, et al.	消化器内科	Narrow-band imaging with magnification for the diagnosis of colorectal adenoma in a patient with Cronkhite-Canada syndrome.	DEN Open. 2023 Jun 15;4(1):e257.	Case report
8	Waki K, Matsuno K, Miyamoto H, et al.	消化器内科	Pharyngeal endoscopic submucosal dissection for a pyriform sinus lesion extending beyond the arytenoid to the vocal folds.	Endoscopy. 2023 Dec;55(S01):E242-E243.	Original Article
9	Fujimoto N, Nagaoka K, Tatsuno I, et al.	消化器内科	Wavelength dependence of ultraviolet light inactivation for SARS-CoV-2 omicron variants.	Sci Rep. 2023 Jun 15;13(1):9706.	Original Article
10	Furuta Y, Gushima R, Naoe H, et al.	消化器内科	Possible Association of Mutations in the MEFV Gene with the Intestinal Phenotype of Behçet's Disease and Refractoriness to Treatment.	J Clin Med. 2023 Apr 26;12(9):3131.	Original Article

小計 5

11	Matsuno K, Miyamoto H, Shono T, et al.	消化器内科	Efficacy of a new traction method using ring-shaped thread for endoscopic submucosal dissection in the pharynx.	Esophagus. 2023 Apr;20(2):256-263.	Original Article
12	Nagaoka K, Bai X, Liu D, et al.	消化器内科	Elevated 2-oxoglutarate antagonizes DNA damage responses in cholangiocarcinoma chemotherapy through regulating aspartate beta-hydroxylase.	Cancer Lett. 2024 Jan 1;580:216493.	Original Article
13	Setoyama H, Nishida N, Nagashima S, et al.	消化器内科	Dried blood spot-based host genome analysis technique targeting pathological associations with hepatitis B: Development and clinical application in the Cambodian population.	Hepatol Res. 2023 Dec;53(12):1147-1155.	Original Article
14	Shichijo T, Yasunaga JI, Sato K, et al.	血液・膠原病・感染症内科	Vulnerability to APOBEC3G linked to the pathogenicity of deltaretroviruses	Proc Natl Acad Sci U S A.2024 Mar 26;121(13):e2309925121.	Original Article
15	Yamada A, Yasunaga JI, Liang L, et al.	血液・膠原病・感染症内科	Anti-HTLV-1 immunity combined with proviral load as predictive biomarkers for adult T-cell leukemia-lymphoma.	Cancer Sci. 2024 Jan;115(1):310-320.	Original Article

小計 5

16	Yasunaga JI.	血液・膠原病・感染症内科	Viral, genetic, and immune factors in the oncogenesis of adult T-cell leukemia/lymphoma.	Int J Hematol. 2023 Apr;117(4):504-511.	Review
17	Kawano Y, Kim K, Min CK, et al.	血液・膠原病・感染症内科	Isatuximab Plus Carfilzomib and Dexamethasone in East Asian Patients with Relapsed Multiple Myeloma: Updated IKEMA Subgroup Analysis	Clin Lymphom Myeloma Leuk.2023 Oct;23(10):e360-e367.	Original Article
18	Furuta R, Tatetsu H, Yasunaga JI, et al.	血液・膠原病・感染症内科	Waldenstrom's macroglobulinemia-like B cell lymphoma with MYD88 L265P mutation and t(14;18)(q32;q21) involving IGH-MALT1.	Leuk Res Rep . 2023 Aug 28;20:100389.	Original Article
19	Hirano T, Tatetsu H, Ueno S, et al.	血液・膠原病・感染症内科	Significant response of patients with transformed follicular lymphoma with rapid disease progression to CAR-T therapy.	J Clin Exp Hematop . 2023 Dec 26;63(4):266-269.	Original Article
20	Shichijo T, Tatetsu H, Nosaka K, et al.	血液・膠原病・感染症内科	Robust prognostic value of histologic transformation in patients with early progression of follicular lymphoma.	Leuk Lymphoma.2023 Oct;64(10):1706-1710.	Original Article

21	Tatetsu H, Higuchi Y, Shichijo T, et al.	血液・膠原病・感染症内科	Prophylactic effect of tixagevimab-cilgavimab on COVID-19 infection and death in Japanese patients with B cell lymphoma.	Int J Hematol.2023 Aug;118(2):303-305.	Original Article
22	Tatetsu H, Watanabe M, Liu J, et al.	血液・膠原病・感染症内科	Dissecting the cell of origin of aberrant SALL4 expression in myelodysplastic syndrome	Clin Transl Med. 2023 Aug;13(8):e1327.	Original Article
23	Nakamura T, Okumura M, Takamune N, et al.	血液・膠原病・感染症内科	Conversion of raltegravir carrying a 1,3,4-oxadiazole ring to a hydrolysis product upon pH changes decreases its antiviral activity.	PNAS Nexus.2023 Dec 18;3(1):pgad446.	Original Article
24	Mizuhashi Y, Hirata S, Sakata K, et al.	血液・膠原病・感染症内科	Overlap syndrome involving anti-OJ antibody-positive polymyositis, systemic lupus erythematosus and Sjogren's syndrome: A case report and literature review.	Mod Rheumatol Case Rep. 2023 Jun 19; 7(2):399-403.	Original Article
25	Izumi Y, Date R, Mizumoto T, et al.	腎臓内科	A case of chyluria with nephrotic-range proteinuria caused by lymphatic malformation, leading to a diagnosis of Klippel-Trenaunay syndrome	'CEN case rep. 2023 May ;12(2):205209	Case report

26	Miyasato Y, Hanna RM, Miyagi T, et al.	腎臓内科	Associations of interdialytic weight gain in the long intervals with mortality and residual kidney function decline	Hemodial Int. 2023 Jul;27(3):326-338	Original Article
27	Fujimoto D, Kuwabara T, Mukoyama M.	腎臓内科	Need to continue or discontinue RAS inhibitors as CKD stage advances? Any alternative?	Hypertens Res. 2023 Aug;46(8):2048-2050	Review
28	Morinaga J, Kashiwabara K, Torigoe D, et al.	腎臓内科	Plasma ANGPTL8 Levels and Risk for Secondary Cardiovascular Events in Japanese Patients With Stable Coronary Artery Disease Receiving Statin Therapy	Arterioscler Thromb Vasc Biol. 2023 Aug;43(8):1549-1559	Original Article
29	Yoshikazu Miyasato, Masashi Mukoyama	腎臓内科	More delicate blood pressure management in patients with chronic kidney disease: is lower not the better?	Hypertens Res. 2023 Dec;46(12):2757-2758	Review
30	Fukami H, Morinaga J, Nakagami H, et al.	腎臓内科	Efficacy and safety in mice of repeated, lifelong administration of an ANGPTL3 vaccine	NPJ Vaccines. 2023 Nov;8(1):168	Original Article

小計 5



31	Mukoyama M, Kuwabara T	腎臓内科	Pre-dialysis blood pressure and cardiovascular mortality in Japan: need for much stricter control?	Hypertens Res. 2024 Mar;47(3):811-812	Review
32	Sakaguchi M*	代謝内科学	Adipose tissue plasticity and insulin signaling in the pathogenesis of type 2 diabetes.	Diabetology Int. 2023 Dec 18;15(1):28-33,	Review
33	Murata Y, Haneda M, Miyakawa N, et al.	代謝内科学	A Case of Autoimmune Polyglandular Syndrome Type 3 Complicated with IgG4-related Disease.	Intern Med. 2024 Feb 1; 63(3):425-431.	Case report
34	Yamamoto E, Usuku H, Sueta D, et al.	循環器内科	Efficacy and Safety of Esaxerenone in Hypertensive Patients with Left Ventricular Hypertrophy (ESES-LVH) Study: A Multicenter, Open-Label, Prospective, Interventional Study.	Adv Ther. 2024Mar;41(3):1284-1303.	Original Article
35	Ishii M, Marume K, Nakai M, et al.	医療情報経営企画部、循環器内科	Risk Prediction Score for Cancer Development in Patients With Acute Coronary Syndrome.	Circ J. 2024Jan 25;88(2):234-242.	Original Article

小計 5

36	Otsuka Y, Ishii M, Ikebe S, et al.	医療情報経営企画部、循環器内科	BNP level predicts bleeding event in patients with heart failure after percutaneous coronary intervention.	Open Heart. 2023Dec. 7;10(2):e002489(オンライン)	Original Article
37	Kuyama N, Kaikita K, Ishii M, et al.	循環器内科	Periprocedural Thrombogenicity Change Is Associated with Subclinical Leaflet Thrombosis Progression in Patients Undergoing Transcatheter Aortic Valve Implantation.	Circ Rep.2023 Nov30;5(12):450-458.	Original Article
38	Tsujita K, Yokote K, Ako J, et al.	循環器内科	Efficacy and Safety of Pitavastatin/Ezetimibe Fixed-Dose Combination vs. Pitavastatin: Phase III, Double-Blind, Randomized Controlled Trial.	J Atheroscler Thromb. 2023Nov 1; 30(11):1580-1600.	Original Article
39	Takashio S, Morioka M, Ishii M, et al.	循環器内科	Clinical characteristics, outcome, and therapeutic effect of tafamidis in wild-type transthyretin amyloid cardiomyopathy.	ESC Heart Fail. 2023Aug 10;10(4):2319-2329.	Original Article
40	Takashio S, Kato T, Tashima H, et al.	循環器内科、整形外科	Prevalence of cardiac amyloidosis in patients undergoing carpal tunnel release with amyloid deposition.	Circ J. 2023Jul 25;87(8):1047-1055.	Original Article

小計 5

41	Ikebe S, Ishii M, Otsuka Y, et al.	医療情報経営企画部、循環器内科	Impact of heart failure severity and major bleeding events after percutaneous coronary intervention on subsequent major adverse cardiac events.	Int J Cardiol Cardiovasc Risk Prev. 2023Jun25;18:200193.(オンライン)	Original Article
42	Usuku H, Yamamoto E, Sueta D, et al.	中央検査部、循環器内科	Usefulness of automatic assessment for longitudinal strain to diagnose wild-type transthyretin amyloid cardiomyopathy.	Int J Cardiol Heart Vasc. 2023Jun 22; 47:101227.	Original Article
43	Kawahara Y, Kanazawa H, Takashio S, et al.	循環器内科	Clinical, electrocardiographic, and echocardiographic parameters associated with the development of pacing and implantable cardioverter-defibrillator indication in patients with	Europace. 2023May 19;5(5):105	Original Article
44	Ishii M, Kaikita K, Yasuda S, et al.	医療情報経営企画部、循環器内科	Risk prediction score for clinical outcome in atrial fibrillation and stable coronary artery disease.	Open Heart. 2023May;10(1):e002292.(オンライン)	Original Article
45	Usuku H, Yamamoto E, Sueta D, et al.	中央検査部、循環器内科	Prognostic value of right ventricular global longitudinal strain in patients with immunoglobulin light-chain cardiac amyloidosis.	Eur Heart J Open. 2023May 9;3(3):oead048.(オンライン)	Original Article

小計 5

46	Ikebe S, Ishii M, Otsuka Y, et al.	医療情報経営企画部、循環器内科	Current Overview of Diagnostic and Treatment Strategies for Ischemia with Non-obstructive Coronary Artery Disease.	J Coron Artery Dis. 2024Mar 25;30(1):1-12.	Others
47	Otsuka Y, Ishii M, Ikebe S, et al.	医療情報経営企画部、循環器内科	Current Overview of Myocardial Infarction with Non-Obstructive Coronary Arteries.	J Coron Artery Dis. 2024Mar 25;30(1):13-20.	Others
48	Matsuzawa Y, Tsujita K.	循環器内科	Mitigating secondary disaster triggered by fear of COVID-19: the role of professional medical societies.	Hypertens Res.2024 Feb;47(2):559-561.	Others
49	Ishii M, Nakamura T, Tsujita K.	医療情報経営企画部、循環器内科	Intravascular Imaging and Coronary Microvascular Dysfunction After Percutaneous Coronary Intervention in ST-Segment Elevation Myocardial Infarction.	Circ J. 2023Oct 25;87(11):1633-1634.	Others
50	Ishii M, Nakamura T, Tsujita K.	医療情報経営企画部、循環器内科	Impact of veno-arterial extracorporeal membrane oxygenation on mortality in cardiogenic shock after acute myocardial infarction: Real-world evidence.	Int J Cardiol. 2023Aug 1; 384:112-113.	Others

小計 5

51	Nomura T, Misumi Y, Tasaki M, et al.	脳神経内科	Origin of Transthyretin in Cerebral Amyloid Angiopathy	JAMA Neurol. 2024 Feb 26;81(4):421-3.	Original Article
52	Ueda M, Misumi Y, Nomura T, et al.	脳神経内科	Disease-Modifying Drugs Extend Survival in Hereditary Transthyretin Amyloid Polyneuropathy	Ann Neurol. 2024 Feb;95(2):230-236.	Original Article
53	Shindo S, Uchida K, Yoshimura S et al.	脳神経内科	Intravenous alteplase before endovascular therapy for acute large vessel occlusion with large ischemic core: subanalysis of a randomized clinical trial	J Neurointerv Surg. 2023 Oct 27;jnis-2023-020846.	Original Article
54	Ikenoshita S, Matsuo K, Yabuki Y, et al.	脳神経内科	A cyclic pyrrole- imidazole polyamide reduces pathogenic RNA in CAG/CTG triplet repeat neurological disease models	J Clin Invest. 2023 Nov 15;133(22):e164792.	Original Article
55	Nomura T, Fujiki F, Ueda M.	脳神経内科	Popeye Sign in Hereditary Transthyretin Amyloidosis	JAMA Neurol. 2023 Sep 1;80(9):998-999.	Letter

小計 5

56	Nakajima M, Oki K, Koyama T, et al.	脳神経内科	A nationwide survey for the provision of acute stroke rehabilitation in Japan: initial dose and weekend/holiday rehabilitation	J Stroke Cerebrovasc Dis. 2024 Feb;33(2):107550.	Original Article
57	Araki N, Hirota T, Hidaka H, et al.	心臓血管外科	Factors Affecting Recovery of 6-Minute Walk Distance After Coronary Artery Bypass Grafting	Circ Rep . 2023 Jul 11;5(8):317-322.	Original Article
58	Horibe T, Hidaka H, Numaguchi R, et al.	心臓血管外科	Mitral valve replacement with annuloplasty in a patient with infected mitral annular calcification	Clin Case Rep . 2023 Aug 15;11(8):e7802.	Case report
59	Nishigawa K, Horibe T, Hidaka H, et al.	心臓血管外科	Do chronic total occlusive lesions affect patency of coronary bypass grafts to the right coronary artery?	Asian Cardiovasc Thorac Ann . 2023 Nov;31(9):768-774.	Original Article
60	Numaguchi R, Takaki J, Nishigawa K, et al.	心臓血管外科	Outcomes of mitral valve replacement with complete annular decalcification	Asian Cardiovasc Thorac Ann . 2023 Nov;31(9):775-780.	Original Article

小計 5

61	Matsubara E, Yano H, Pan C, et al.	呼吸器外科	The Significance of SPP1 in Lung Cancers and Its Impact as a Marker for Protumor Tumor-Associated Macrophages	Cancers 2023 Apr 12;15(8), 2250.	Review
62	Nishi W, Wakamatsu E, Machiyama H, et al.	呼吸器外科	Evaluation of therapeutic PD-1 antibodies by an advanced single-molecule imaging system detecting human PD-1 microclusters	Nat Commun. 2023 Jun 6;14(1):3157.	Original Article
63	Hinokuma H, Kanamori Y, Ikeda K, et al.	呼吸器外科	Distinct functions between ferrous and ferric iron in lung cancer cell growth	Cancer Sci. 2023 Nov;114(11):4355-4364.	Original Article
64	Matsubara E, Shinchi Y, Komohara Y, et al.	呼吸器外科	PD-L2 overexpression on tumor-associated macrophages is one of the predictors for better prognosis in lung adenocarcinoma	Med Mol Morphol. 2023 Dec;56(4):250-256.	Original Article
65	Shirakami C, Ikeda K, Hinokuma H, et al.	呼吸器外科	NUF2 Expression in Cancer Tissues and Lymph Nodes Suggests Post-Surgery Recurrence of Non-Small Cell Lung Cancer	Diagnostics (Basel). 2024 Feb 21;14(5):471.	Original Article

小計 5

66	Nishi Y, Wakamatsu E, Machiyama H, et al.	呼吸器外科	Molecular Imaging of PD-1 Unveils Unknown Characteristics of PD-1 Itself by Visualizing “PD-1 Microclusters”	Adv Exp Med Biol. 2024 Mar;1444:197-205	Others
67	Kitano Y, Inoue Y, Sato Y, et al.	消化器外科	Management of potential portal vein thrombus during laparoscopic right hemihepatectomy following portal vein embolization	Langenbecks Arch Surg. 2024 Feb 9;409(1):56. doi: 10.1007/s00423-024-03250-x.	Original Article
68	Kitano Y, Ono Y, Kobayashi K, et al.	消化器外科	Neoadjuvant chemotherapy for borderline resectable colorectal cancer liver metastases: a single-institution retrospective study	HPB (Oxford). 2024 Feb;26(2):282-290. doi: 10.1016/j.hpb.2023.10.015. Epub 2023 Oct 28.	Original Article
69	Kato M, Sawayama H, Komohara Y, et al.	消化器外科	Complete pathologic response after laparoscopic hepatectomy following treatment with nivolumab and ipilimumab for anticancer drug-resistant MSI-high colon cancer liver metastasis consisting of poorly	Clin J Gastroenterol. 2024 Feb;17(1):57-64. doi: 10.1007/s12328-023-01855-1. Epub 2023 Oct 24.	Case report
70	Mima K, Hayashi H, Maruno M, et al.	消化器外科	Perioperative disabilities in activities of daily living are associated with worse prognosis after hepatectomy for colorectal liver metastasis	HPB (Oxford). 2024 Feb;26(2):203-211. doi: 10.1016/j.hpb.2023.09.014. Epub 2023 Sep 14.	Original Article

小計 5



71	Baba Y, Yasuda N, Bundo M, et al.	消化器外科	LINE-1 hypomethylation, increased retrotransposition and tumor-specific insertion in upper gastrointestinal cancer	Cancer Sci. 2024 Jan;115(1):247-256. doi: 10.1111/cas.16007. Epub 2023 Nov 27.	Original Article
72	Mima K, Hayashi H, Adachi Y, et al.	消化器外科	Patient vulnerability is associated with poor prognosis following upfront hepatectomy for colorectal liver metastasis	Int J Clin Oncol. 2024 Jan;29(1):47-54. doi: 10.1007/s10147-023-02429-4. Epub 2023 Nov 9.	Original Article
73	Mima K, Baba H.	消化器外科	Outcomes of patients with frailty and metastatic cancer admitted to the intensive care unit	Lancet Healthy Longev. 2023 Dec;4(12):e655-e656. doi: 10.1016/S2666-7568(23)00240-4.	Letter
74	Mima K, Hamada T, Inamura K, et al.	消化器外科	The microbiome and rise of early-onset cancers: knowledge gaps and research opportunities	Gut Microbes. 2023 Dec;15(2):2269623. doi: 10.1080/19490976.2023.2269623. Epub 2023 Oct 30.	Review
75	Baba Y, Hara Y, Toihata T, et al.	消化器外科	Relationship between gut microbiome Fusobacterium nucleatum and LINE-1 methylation level in esophageal cancer	Esophagus. 2023 Oct;20(4):704-712. doi: 10.1007/s10388-023-01009-9. Epub 2023 May 12.	Review

76	Yoshida N, Eto K, Horinouchi T, et al.	消化器外科	Prognostic value of (18)F-fluorodeoxyglucose uptake in the bone marrow on pretreatment positron emission tomography/computed tomography in patients with esophageal cancer who underwent	Esophagus. 2023 Oct;20(4):660-668. doi: 10.1007/s10388-023-01011-1. Epub 2023 May 2.	Original Article
77	Iwatsuki M, Matsumoto C, Mimori K, et al.	消化器外科	The comprehensive review of gastric adenocarcinoma and proximal polyposis of the stomach (GAPPS) from diagnosis and treatment	Ann Gastroenterol Surg. 2023 Jun 21;7(5):725-732. doi: 10.1002/ags3.12708. eCollection 2023 Sep.	Review
78	Hayashi H, Miyamoto H, Nakagawa S, et al.	消化器外科	Distinct approaches (antecolic and retrocolic) according to tumor location in laparoscopic and endoscopic cooperative surgery for non-ampullary duodenum tumors	Surg Endosc. 2023 Sep;37(9):6718-6726. doi: 10.1007/s00464-023-10114-w. Epub 2023 May 22.	Original Article
79	Kitano Y, Inoue Y, Takeda T, et al.	消化器外科	Clinical Efficacy of Neoadjuvant Chemotherapy with Gemcitabine plus S-1 for Resectable Pancreatic Ductal Adenocarcinoma Compared with Upfront Surgery	Ann Surg Oncol. 2023 Aug;30(8):5093-5102. doi: 10.1245/s10434-023-13534-z. Epub 2023 May 4.	Original Article
80	Kawata A, Miyamoto Y, Fukubayashi K, et al.	消化器外科	Conversion Surgery After Encorafenib Plus Cetuximab for Chemorefractory BRAF V600E-mutated Colorectal Cancer With Para-aortic Lymph Node Metastases	In Vivo. 2023 Jul-Aug;37(4):1797-1801. doi: 10.21873/invivo.13269.	Case report

81	Ogawa K, Shiraishi Y, Karashima R, et al.	消化器外科	Prolonged door-to-antibiotics time is associated with high hospital mortality in patients with perforated colorectal peritonitis	Langenbecks Arch Surg. 2023 Jun 1;408(1):220. doi: 10.1007/s00423-023-02966-6.	Original Article
82	Kosumi K, Baba Y, Yamamura K, et al.	消化器外科	Intratumour Fusobacterium nucleatum and immune response to oesophageal cancer	Br J Cancer 128:1155-1165, 2023 Apr	Original Article
83	Miyamoto Y, Akiyama T, Kato R, et al.	消化器外科	Prognostic significance of systemic inflammation indices by K-ras status in patients with metastatic colorectal cancer.	Dis Colon Rectum 66:e809-e817, 2023 Aug	Original Article
84	Ishii M, Ibuki S, Morinaga J, et al.	小児外科・移植外科	Elevated Alfa-Fetoprotein and Des-Gamma-Carboxy Prothrombin Levels Predict Poor Outcomes After Liver Transplantation for Hepatocellular Carcinoma Beyond the Japan Criteria.	Transplant Proc. 2023 Apr;55(3):606-612.	Original Article
85	Sambommatsu Y, Hirukawa K, Shimata K, et al.	小児外科・移植外科	Hepatic venous outflow obstruction after adult living donor liver transplantation.	Liver Transpl. 2023 Dec 1;29(12):1292-1303.	Original Article

小計 5

86	Honda M, Isono K, Hirukawa K, et al.	小児外科・移植外科	Reappraisal of anatomical liver resection for hepatoblastoma in children.	Surg Open Sci. 2023 Nov 20;16:215-220.	Original Article
87	Ishii M, Hirukawa K, Shimata K, et al.	小児外科・移植外科	The First Successful Living Donor Liver Transplantation for Acute-on-Chronic Liver Failure Caused by Severe Acute Necrotizing Pancreatitis: A Case Report.	Transplant Proc. 2024 Jan-Feb;56(1):239-243.	Case report
88	Kadohisa M, Inomata Y, Shimata K, et al.	小児外科・移植外科	Donor Complications Following Living Donor Hepatectomy: 17-Year Experience of a Single Team in One Institution of Japan.	Exp Clin Transplant. 2024 Mar;22(3):223-228.	Original Article
89	Yamaguchi Takahiro, Goya M, Higashijima K, et al.	泌尿器科	Real-world treatment outcomes of patients with penile cancer in the Kyushu-Okinawa area of Japan in the pre-guideline era.	Jpn J Clin Oncol. 2023 Aug30;53(9):837-844.	Original Article
90	Kadomatsu T, Hara Chiaki, Kurahashi R, et al.	泌尿器科	ANGPTL2-mediated epigenetic repression of MHC-I in tumor cells accelerates tumor immune evasion.	Mol Oncol. 2023 Dec;17(12):2637-2658.	Original Article

小計 5

91	Anami Toshiki, Pan C, Fujiwara Y, et al.	泌尿器科	Dysfunction of sinus macrophages in tumor-bearing host induces resistance to immunotherapy.	Cancer Sci. 2024 Jan;115(1):59-69.	Original Article
92	Anami Toshiki, Ibe Y, Li L, et al.	泌尿器科	Overexpression of SerpinB9 in non-seminomatous germ cell tumors.	Med Mol Morphol. 2024 Mar;57(1):68-75.	Original Article
93	Yamaguchi M, Mikami Y, Kusunoki M, et al.	産婦人科	Mismatch repair protein deficiency in endometriosis: Precursor of endometriosis-associated ovarian cancer in women with lynch syndrome	Taiwan J Obstet Gynecol. 2023 May;62(3):448-452	Case report
94	Munekage Yamaguchi, Akiho Nishimura, Takeshi Motohara, et al.	産婦人科	Efficacy of estrogen-progestogen therapy for women with vascular retained products of conception following miscarriage or abortion	Taiwan J Obstet Gynecol. . 2023 Sep;62(5):661-666.	Original Article
95	Hiroshi Tamura	小児科	Acute renal failure with severe loin pain and patchy renal ischemia after anaerobic exercise	World Journal of Nephrology 2023 May25;12(3):56-65	Original Article

小計 5

96	Kenichi Tanaka,Shiro u Matsumoto,Y ouhei Minamitani, et al.	小児科	Change over time in internal cerebral vein pulsation in premature infants at risk of intraventricular hemorrhage.	Early human development 2023 Apr;179:105747	Original Article
97	Yusuke Hattori,Taka aki Sawada,Jun Kido,	小児科	Frequency of iduronate-2-sulfatase gene variants detected in newborn screening for mucopolysaccharidosi s type II in Japan	Molecular Genetics and Metabolism Reports 2023 Aug 28;37:101003	Original Article
98	Yusuke Noda,Jun Kido,Yohei Misumi,	小児科	Heterozygous c.175C>T variant in PURA gene causes severe developmental delay.	Clinical case reports 2023 Sep 7;11(9):e7779	Case report
99	Hiroshi Tamura	小児科	IgA nephropathy associated with Crohn's disease	World Journal of Methodology 2023 Jun 20;13(3):67-78	Original Article
100	Jun Kido,Johanne s Hä berle,Toju Tanaka, et al.	小児科	Improved sensitivity and specificity for citrin deficiency using selected amino acids and acylcarnitines in the newborn screening	Journal of Inherited Metabolic Disease 2023 Sep 8	Original Article

小計 5

101	Hidetaka Yoshimatsu, Masanori Iwai, Yasuji Kitabatake, et al.	小児科	Prediction scores based on neonatal inflammatory markers for chorioamnionitis and funisitis in extremely low gestational age neonates	Acta Paediatrica 2023 Apr;112(4):726-733	Original Article
102	Jun Kido, Kimiyasu Egami, Yohei Misumi, et al.	小児科	X-linked intellectual disability related to a novel variant of KLHL15.	Human genome variation 2023 Jul 14;10(1):21	Original Article
103	Takaaki Sawada, Jun Kido, Yukako Yae, et al.	小児科	Gene therapy for spinal muscular atrophy is considerably effective when administered as early as possible after birth	Mol Genet Metab Rep. 2023 Apr 5:35:100973.	Case report
104	Hijiri Watanabe, Hiroshi Tamura, Keishiro Furuie, et al.	小児科	Three Pediatric Patients with Congenital Nephrogenic Diabetes Insipidus due to AVPR2 Nonsense Mutations and Different Clinical Manifestations: A Case Report	Case Rep Nephrol Dial. 2023 Oct 18;13(1):162-172.	Case report
105	Maki Oyama, Hiroshi Tamura, Yuko Hidaka, et al.	小児科	Renal arteriovenous fistula discovered ~2 years after renal biopsy: A case report	Clin Case Rep. 2023 Jun 17;11(6):e7538.	Case report

小計 5

106	Okamoto N, Nakamura E, Masuda T, et al.	整形外科	Lateral Laxity in Flexion Influences Patient-Reported Outcome After Total Knee Arthroplasty.	J Orthop. 2023 Dec 7;58(1):24-29	Original Article
107	Kusaba Y,Kajihara I,Sakamoto R, et al.	皮膚科・形成外科	PIK3CA mutations in cutaneous squamous cell carcinoma.	Intractable & rare diseases research 2023 Aug;12(3):206-207	Letter
108	Ishino T,Mijiddorj T,Sawamura S, et al.	皮膚科・形成外科	Elevation of cell-free DNA in patients with clinically amyopathic dermatomyositis.	The Journal of dermatology 2023 Jun;50(6):e189-e191	Letter
109	Shimada S,Mijiddorj T,Kajihara I, et al.	皮膚科・形成外科	Increased circulating exosomal Janus kinase 2 messenger RNA levels in psoriasis.	The Journal of dermatology 2023 Sep;50(9):e301-e302	Letter
110	Sawamura S,Mijiddorj T,Kajihara I, et al.	皮膚科・形成外科	Clinical significance of circulating exosomal interleukin- 23 and tumour necrosis factor-alpha messenger RNA in psoriasis.	Journal of the European Academy of Dermatology and Venereology : JEADV 2023 Jun;37(6):e815-e817	Letter

小計 5



111	Higuchi S, Noguchi H, Matsumoto T, et al.	皮膚科・形成外科	Dermatophyte antigen kit in diagnosis of onychomycosis caused by <i>Fusarium solani</i> .	J Dermatol . 2023 May;50(5):e162-e163.	Letter
112	Miyamaru S, Nishimoto K, Murakami D, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	The timing and method for detection of recurrence in patients with head and neck cancer.	Acta Otolaryngologica. 2023 Jul-Aug;143(7):617-622.	Original Article
113	Miyamaru S, Sanuki T, Miyamoto Y, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Human papillomavirus-related multiphenotypic sinonasal carcinoma: A report of two patients and review of the literature.	Auris Nasus Larynx. 2023 Jun;50(3):473-477.	Review
114	Nishimoto K, Yumoto E, Sanuki T, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Effect of Aging on Vocal Outcomes After Laryngeal Reinnervation Combined With Arytenoid Adduction	J Voice. 2023 Oct 11:S0892-1997(23)00282-5	Original Article
115	Takeshita H, Yoshida R, Inoue J, et al.	歯科口腔外科	FOXO1-Mediated Regulation of Reactive Oxygen Species and Radioresistance in Oral Squamous Cell Carcinoma Cells.	2023 May;103(5):100060.	Original Article

小計 5

116	Yamana K, Kawahara K, Kawakami F, et al.	歯科口腔外科	Hyalinizing clear cell carcinoma with EWSR1 rearrangement in an 11-year-old girl.	Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology. 35(3): 258-263, 2023 May	Case report
117	Uetani H, Azuma M, Khant ZA, et al.	画像診断・治療科	Importance of Age and Noncontrast-Enhancing Tumor as Biomarkers for Isocitrate Dehydrogenase-Mutant Glioblastoma: A Multicenter Study	J Comput Assist Tomogr. 2023 Jul-Aug;47(4):659-665.	Original Article
118	Nagayama Y, Hirai T.	画像診断・治療科	Diagnostic Performance of Contrast-Enhanced Dual-Energy CT Metrics for Differentiating Adrenal Adenomas From Nonadenomas Can Be Affected by Inclusion Criteria	AJR Am J Roentgenol. 2023 Aug;221(2):285.	Letter
119	Hayashi H, Oda S, Kidoh M, et al.	画像診断・治療科	Myocardial extracellular volume quantification in cardiac amyloidosis: a comparative study between cardiac computed tomography and magnetic resonance imaging	Eur Radiol. 2024 Feb;34(2):1016-1025.	Original Article
120	Hirai T, Kondo Y, Sakazaki Y, et al.	画像診断・治療科	Drug-drug interaction signals between loop diuretics and teicoplanin during acute kidney injury evaluated using Japanese spontaneous adverse drug event reports	Sci Rep. 2023 Aug 26;13(1):13989.	Original Article

121	Nakaura T, Yoshida N, Kobayashi N, et al.	画像診断・治療科	Preliminary assessment of automated radiology report generation with generative pre-trained transformers: comparing results to radiologist-generated reports	Jpn J Radiol. 2024 Feb;42(2):190-200.	Original Article
122	Nakaura T, Naganawa S.	画像診断・治療科	Response to "Striking a balance: embracing LLMs while upholding scientific integrity"	Jpn J Radiol. 2024 Feb;42(2):210-211.	Original Article
123	Shiraishi K, Nakaura T, Uetani H, et al.	画像診断・治療科	Deep learning-based reconstruction and 3D hybrid profile order technique for MRCP at 3T: evaluation of image quality and acquisition time	Eur Radiol. 2023 Nov;33(11):7585-7594.	Original Article
124	Uetani H, Kitajima M, Ohmori Y, et al.	画像診断・治療科	Intracranial aneurysms treated with stent-assisted coil embolization: evaluation with four-dimensional ultrashort-TE MR angiography	Eur Radiol. 2023 Nov;33(11):7923-7933.	Original Article
125	Nagayama Y, Emoto T, Hayashi H, et al.	画像診断・治療科	Coronary Stent Evaluation by CTA: Image Quality Comparison Between Super-Resolution Deep Learning Reconstruction and Other Reconstruction Algorithms	AJR Am J Roentgenol. 2023 Nov;221(5):599-610.	Original Article

小計 5

126	Morita K, Uetani H, Nakaura T, et al.	画像診断・治療科中央放射線部	Accelerating TOF-MRA: The impact of the combined use of compressed sensitivity encoding and spiral imaging	Magn Reson Imaging. 2023 Nov;103:28-36.	Original Article
127	Matsuo K, Nakaura T, Morita K, et al.	画像診断・治療科中央放射線部	Feasibility study of super-resolution deep learning-based reconstruction using k-space data in brain diffusion-weighted images	Diagnostic Neuroradiology.Vol.65,pages1619-1629.2023 Nov	Original Article
128	Nakaura T, Kobayashi N, Yoshida N, et al.	画像診断・治療科	Update on the Use of Artificial Intelligence in Hepatobiliary MR Imaging	Magn Reson Med Sci. 2023 Apr 1;22(2):147-156.	Original Article
129	Kidoh M, Oda S, Takashio S, et al.	画像診断・治療科	Cardiac MRI-derived Extracellular Volume Fraction versus Myocardium-to-Lumen R1 Ratio at Postcontrast T1 Mapping for Detecting Cardiac Amyloidosis	Radiol Cardiothorac Imaging. 2023 Apr 13;5(2):e220327.	Original Article
130	Hirai T, Abe O, Nakamura M, et al.	画像診断・治療科	Brain structural changes in patients with chronic methylmercury poisoning in Minamata	Brain Res. 2023 Apr 15;1805:148278.	Original Article

小計 5

131	Nagayama Y, Iwashita K, Maruyama N, et al.	画像診断・治療科	Deep learning-based reconstruction can improve the image quality of low radiation dose head CT	Eur Radiol. 2023 May;33(5):3253-3265.	Original Article
132	Nakaura T, Naganawa S.	画像診断・治療科	Writing medical papers using large-scale language models: a perspective from the Japanese Journal of Radiology	Jpn J Radiol. 2023 May;41(5):457-458.	Original Article
133	Nagayama Y, Hirai T.	画像診断・治療科	Letter to the editor on "diagnostic value of the relative enhancement ratio of the portal venous phase to unenhanced CT in the identification of lipid-poor adrenal tumors"	Abdom Radiol (NY). 2023 May;48(5):1841-1842.	Letter
134	Hayashi H, Oda S, Kidoh M, et al.	画像診断・治療科	Pulmonary arterial hypertension associated with portal hypertension: Noninvasive comprehensive assessment using computed tomography	Radiol Case Rep. 2023 Nov 25;19(2):671-674.	Case report
135	Nagayama Y, Emoto T, Kato Y, et al.	画像診断・治療科	Improving image quality with super-resolution deep-learning-based reconstruction in coronary CT angiography	Eur Radiol. 2023 Dec;33(12):8488-8500.	Original Article

小計 5

136	Hokamura M, Uetani H, Nakaura T, et al.	画像診断・治療科	Exploring the impact of super-resolution deep learning on MR angiography image quality	Neuroradiology. 2024 Feb;66(2):217-226.	Original Article
137	Oda S.	画像診断・治療科	Preprocedural Evaluation of Ventricular Functional Mitral Regurgitation Upon Transcatheter Edge- to-Edge Repair by Noninvasive Imaging - An Emerging Clinical Standard.	Circ J. 2024 Mar;88(4):528-530	Others
138	Tetsuo Saito, Naoto Shikama, Takeo Takahashi, et al.	放射線治療科	Factors associated with quality of life in patients receiving palliative radiotherapy for bone metastases: a secondary cross- sectional analysis of data from a prospective multicenter observational study	The British Journal of Radiology. 2023 Nov ; 96(1151) : 20230351	Original Article
139	Tadashi Matsumoto, Ryo Toya, Yoshinobu Shimohigashi, et al.	放射線治療科	Influence of Respiratory Motion on Dose Distribution in Gastric Mucosa- associated Lymphoid Tissue Lymphoma Radiotherapy	Anticancer Research, 2024 Feb ; 44 (2) : 687-694	Original Article
140	Shigeo Yamada, Yoshiyuki Fukugawa, Takahiro Otsuka, et al.	放射線治療科	Radiation-Induced Myonecrosis: A Case Report of a Cervical Cancer Patient With a History of Systemic Lupus Erythematosus.	Cureus, 2024 Feb 28 ; 16(2) : e55134	Case report

小計 5

141	Yuuki S, Hashimoto M, Koyama A, et al.	神経精神科	Comparison of caregiver burden between dementia with Lewy bodies and Alzheimer's disease	Psychogeriatrics : the official journal of the Japanese Psychogeriatric Society. 2023 Jul;23(4):682-689.	Original Article
142	Ichiki T, Koyama A, Imai M, et al.	神経精神科	The trajectory of non-depressed suicidal ideation in community-dwelling older people in a rural area in Japan: A prospective longitudinal study with a 3-year follow-up	Psychogeriatrics. 2023 Sep;23(5):831-837	Original Article
143	Shinojima N, Ozono K, Yamamoto H, et al.	脳神経外科	Lynch syndrome-associated chordoma with high tumor mutational burden and significant response to immune checkpoint inhibitors.	Brain Tumor Pathology 2023 Jul; 40(3):185-190	Case report
144	Hamasaki T, Uchikawa H, Kawano T, et al.	脳神経外科	A Consideration of Optimal Head Position in Transsylvian Selective Amygdalohippocampectomy.	Neurologia medico-chirurgica 2023 Jul 15; 63(7): 265-272	Original Article
145	Takemoto Y, Ohmori Y, Kaku Y, et al.	脳神経外科	A Case of Cavernous Sinus Dural Arteriovenous Fistula Draining Solely to the Superior Ophthalmic Vein with Normal Cerebral Venous Flow from the Superficial Middle Cerebral Vein to the Inferior Petrosal Sinus due to a	Journal of Neuroendovascular Therapy 2023 Jul; 17(7):145-152	Case report

146	Harada K, Shinojima N, Yamamoto H, et al.	脳神経外科	A Rare Case of Adult Poorly Differentiated Chordoma of the Skull Base With Rapid Progression and Systemic Metastasis: A Review of the Literature	Cureus 2024 Jan 3; 16(1):e51605 (オンライン)	Case report
147	Shinojima N, Yano S, Uchida D, et al.	脳神経外科	Long-term outcomes of multidisciplinary treatment combining surgery and stereotactic radiotherapy with Novalis for craniopharyngioma	Journal of Clinical Neuroscience 2024 Feb; 120:138-146	Original Article
148	Izumi S, Takezaki T, Takeshima Y, et al.	脳神経外科	A Case of Trigeminal Neuralgia in an Adult Patient With Lambdoid Synostosis	Cureus 2024 Mar 25; 16(3):e56918. (オンライン)	Case report
149	Miyazaki A, Makino K, Shinojima N, et al.	脳神経外科	Spinal Dissemination of Pineal Parenchymal Tumors of Intermediate Differentiation Over 10 Years After Initial Treatment: A Case Report	Cureus .2024 Mar28; 16(3):e57147. (オンライン)	Case report
150	Oyoshi T, Maekawa K, Mitsuta Y, et al.	麻酔科	Predictors of early postoperative cognitive dysfunction in middle-aged patients undergoing cardiac surgery: retrospective observational study.	J Anesth. 2023 Jun; 37(3):357-363.	Original Article

小計 5



151	Ishimura T, Ikuta Y, Hirata N	麻醉科	Discrepancy between set and displayed PEEP values.	J Anesth. 2023 Aug; 37(4):652-653-363.	Letter
152	Hirata N	麻醉科	Remimazolam for cardiovascular anesthesia.	J Anesth. 2023 Dec; 37(6): 825-827.	Others
153	Kawasaki T, Hirata N	麻醉科	Interference with high-frequency variability index	J Anesth. 2023 Aug Online ahead of print.	Letter
154	Oyoshi T, Mitsuta Y, Uemura Y, et al.	麻醉科	Anesthetic management with remimazolam in very elderly patients undergoing hybrid surgery of transcatheter aortic valve implantation plus off-pump coronary artery bypass grafting: report of two cases	JA Clin Rep. 2023 Oct 25;9(1):69	Case report
155	Kawasaki T, Sugita M, Kodera C, et al.	麻醉科	Anesthetic Management of a Cesarean Delivery in a Patient With MYH11 Mutation Who Underwent Aortic Replacemen	Cureus. 2023 Nov 6;15(11):e48391.	Case report

小計 5

156	Sugita M, Shimiza K, Hirata N	麻酔科	Continuous Spinal Anesthesia for Labor Analgesia and Cesarean Delivery in a Parturient With Familial Dilated Cardiomyopathy: A Case Report	Cureus. 2023 Nov 16;15(11):e48877	Case report
157	Yoshinouchi T, Yamamoto K, Migita M, et al.	中央検査部	Diagnosis and clinical management of Exophiala dermatitidis pneumonia in a patient with anorexia nervosa: A case report.	Medical Mycology Case Reports. 2023 Nov 10;42:100617.	Case report
158	Kawakami F, Yamaguchi K, Minamiguchi S, et al.	病理診断科	Endometrial gastric-type mucinous carcinoma: A clinicopathological study of an unfavorable histological type of endometrial carcinoma.	Pathol Int. 2023 Dec;73(12):609-611.	Letter
159	Kasaoka S, Naito H, Uchigashima Y	災害医療教育研究センター	Poor Environmental Conditions Created the Acute Health Deteriorations in Evacuation Shelters after the 2016 Kumamoto Earthquake	Tohoku Journal of Experimental Medicine 2023 Dec; 261(4): 309-315	Original Article
160	Ishii M, Tsujita K, Seki T, et al.	医療情報経営企画部、循環器内科	Sex- and age-based disparities in public access defibrillation, bystander cardiopulmonary resuscitation, and neurological outcome in cardiac arrest.	JAMA Netw Open. 2023 Jul 3;6(7):e2321783.	Original Article

161	Oda K, Yamada T, Matsumoto K, et al.	薬剤部	Model-informed precision dosing of teicoplanin for the rapid achievement of the target area under the concentration-time curve: A simulation study.	Clin Transl Sci. 2023 Apr;16(4):704-713	Original Article
162	Hashiguchi Y, Matsumoto N, Oda K, et al.	薬剤部	Population Pharmacokinetics and AUC-Guided Dosing of Tobramycin in the Treatment of Infections Caused by Glucose-Nonfermenting Gram-Negative Bacteria.	Clin Ther. 2023 May;45(5):400-414.e2	Original Article
163	Oda K, Saito H, Jono H.	薬剤部	Bayesian prediction-based individualized dosing of anti-methicillin-resistant Staphylococcus aureus treatment: Recent advancements and prospects in therapeutic drug monitoring.	Pharmacol Ther. 2023 Jun;246:108433	Review
164	Oda K, Yamada T, Matsumoto K, et al.	薬剤部	Model-informed precision dosing of vancomycin for rapid achievement of target area under the concentration-time curve: A simulation study.	Clin Transl Sci. 2023 Nov;16(11):2265-2275	Original Article
165	Oda K, Yamaguchi A, Matsumoto N, et al.	薬剤部	Dose Individualization of Cefepime for Febrile Neutropenia in Patients With Lymphoma or Multiple Myeloma: Implications for Therapeutic Drug Monitoring.	Ther Drug Monit. 2024 Feb 1;46(1):80-88.	Original Article

小計 5

計 165 件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること  
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。  
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

## (2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Ishimaru Y, Masunaga A, Komatsu T, et al	呼吸器内科	胸膜被覆術が気胸の 再発防止に有効だっ たBirt-Hogg-Dube症 候群の4症例	日本呼吸器学会誌(2186- 5876)12巻3号 Page164- 169(2023.05)	Case report
2	大保 宏允, 稲田 浩気, 瀬戸山 博子	消化器内科	抗凝固療法が著効し たCOVID-19合併急 性肝不全の2例	肝臓(0451-4203)64巻6号 Page270-279(2023.06)	Original Article
3	吉田 瞳, 川 西 幸洋, 宮 本 英明	消化器内科	食道ESD切除時間短 縮に向けての工夫	日本消化器内視鏡技師会 会報(2436-9012)71号 Page57-59(2023.09)	Original Article
4	平島 美幸, 宮本 英明, 岡崎 菜紗	消化器内科	経時的な形態変化を 観察しえた胃血管肉 腫の1例	Gastroenterological Endoscopy(0387-1207)65 巻10号 Page2180- 2186(2023.10)	Original Article
5	Shichijo T, Matsuoka M.	血液・膠原病・感染症内科	HTLV-1感染と成人T 細胞白血病による免 疫不全	臨床免疫・アレルギー科 79(6) 607-612, 2023.06.	Review

小計 5

6	Nishimura N, Kawano Y	血液・膠原病・感染症内科	多発性骨髄腫の症候 と支持療法	日本内科学会雑誌 112(7):1210- 1215.2023.07	Review
7	Tokunaga K, Asou N	血液・膠原病・感染症内科	先天性無トランスフェ リン血症	日本臨牀 別冊 血液症候 群(第3版) I 152-155, 2023.09	Review
8	Tokunaga K, Asou N	血液・膠原病・感染症内科	後天性無トランスフェ リン血症	日本臨牀 別冊 血液症候 群(第3版) I 156-158, 2023.09	Review
9	Iwanaga K, 'Tokunaga K	血液・膠原病・感染症内科	非白血性白血病	日本臨牀 別冊 血液症候 群(第3版) IV 192-195, 2024.02	Review
10	Ucniba M	血液・膠原病・感染症内科	COVID-19と凝固異 常. 検査と技術	検査と技術 51(9) 増大号 匠から学ぶ 血栓止血検査ガイド pp.1151-1155, 2023.09.	Review

小計 5

11	Ucniba M	血液・膠原病・感染症内科	$\alpha$ 2-アンチプラスミン	日本血栓止血学会雑誌 34(3):299-303,2023.06.	Review
12	Hirata S	血液・膠原病・感染症内科	特集/関節リウマチ治療薬をどう使いこなすか？－副作用とその対策、テーマ:ブシラミン、	リウマチ科 70(3) 247-251, 2023年9月	Review
13	Miyagawa E	血液・膠原病・感染症内科	妊娠中のベリムマブの使用:ベリムマブの臨床試験, 妊娠登録, 市販後レポートからの出生異常と流産の概要、	リウマチ科 70(1) 79-86, 2023年7月	Review
14	中村 優理菜, 梶原 健吾, 矢野 裕子	腎臓内科	粘液水腫性昏睡を伴う亜急性腎障害に血液透析を行うも甲状腺ホルモン補充により透析離脱しえた1例	日本透析医学会雑誌, 2023年5月, P 177-181	Case report
15	Yoshinaga T, Hidaka H, Horibe T, et al	心臓血管外科	左房壁に発生した可動性乳頭状弾性線維腫の1手術例	心臓(0586-4488)55巻10号 Page1030-1034(2023.10)	Case report

小計 5

16	Nakata K, Moriyama S, Hirota T, et al	心臓血管外科	90歳以上の超高齢者 に対する心臓大血管 手術6症例の検討	胸部外科(0021-5252)76巻 12号 Page1005- 1009(2023.11)	Case report
17	Hidaka H, Horibe T, Nakata K, et al	心臓血管外科	肺動脈内疣贅を合併 した動脈管開存症に 抗菌薬治療と根治術 を施行した1例	胸部外科(0021-5252)76巻 12号 Page1016- 1019(2023.11)	Case report
18	Yamaguchi Takahiro, Goya M, Higashishima K	泌尿器科	九州沖縄地区におけ るガイドライン出版以 前の陰茎癌診療の実 態調査.	西日本泌尿器科86, 98- 107, 2024.2.	Original Article
19	Kiyota Asuka, Segawa T, Kurahashi R	泌尿器科	酸性尿酸アンモニウ ム結石の一例.	西日本泌尿器科 86, 136- 139, 2024.2.	Case report
20	Manabe Shinnosuke, Murakami Y, Segawa T	泌尿器科	下大静脈内への伸展 を伴った腎血管筋脂 肪腫の1例.	西日本泌尿器科 86, 28- 32, 2023.10.	Case report

小計 5



21	Aiko Izumi, Kurahashi R, Segawa T	泌尿器科	画像上腎細胞癌が疑われた後腹膜リンパ脈管筋腫症(LAM)の一例.	西日本泌尿器科 85, 381-385, 2023.06.	Case report
22	Ozaki Yojiro, Motoshima T, Yamanaka K	泌尿器科	前立腺癌肉腫の診断で骨盤内臓全摘術後, 最初に対してイホスファミド・ドキシソルビシン併用療法を行い病勢安定した1例.	西日本泌尿器科 85, 376-380, 2023.06.	Case report
23	Kudaka R, Uekawa A, Kurahashi R	泌尿器科	腎細胞癌骨転移に伴うAAアミロイドーシスを発症した一例.	西日本泌尿器科 85, 366-370, 2023.06.	Case report
24	Yatsuda Junji, Kamba T	泌尿器科	RARPにおける術前評価を活かしたトラブル予防及び術中リカバリー.	Jpn J Endourol Robot. 2023.12;36(2):170-174.	Original Article
25	Kurahashi Ryoma, Segawa T, Motoshima T	泌尿器科	ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術におけるポートサイトヘルニアへの予防的措置の実践.	Jpn J Endourol Robot. 2023.07;36(1):146-150.	Original Article

小計 5

26	Seo Y, Kodera C, Nishimura A	産婦人科	非癒痕子宮の下部側壁に生じた不全子宮破裂の一例	日本周産期・新生児医学会雑誌 2023.05; 59: 132-137	Case report
27	伊方敏勝,松本健吾	皮膚科・形成外科	【ICTが支えるフットケアの連携診療】遠隔連携ソフト「足ケアナビ」の使用経験	日本フットケア・足病医学会誌2023.09;4(3)132-138	Review
28	坂本佳奈, 伊方敏勝, 茅嶋理絵 他	皮膚科・形成外科	外陰部犬咬傷により両側精巣欠損をきたした1例	日本形成外科学会雑誌 2023.12,43(12) 739-744	Case report
29	金子彰良,梶原一亨,田中憲一郎 他	皮膚科・形成外科	セクキヌマブ投与中に潰瘍性大腸炎を生じた尋常性乾癬の1例	臨床皮膚科 2023.06,77(7)509-512	Case report
30	Hidetaka Arita, Ryoji Yoshida, Mayumi Hirayama	歯科口腔外科	下顎歯肉癌に重複しVirchow転移を認めた子宮頸癌の1例	日口外誌 69(5): 260-265, 2023.05	Case report

小計 5

31	三角 雅裕, 増田 一樹, 宮川 雄介	神経精神科	レビー小体病の関与 が疑われECTが有効 であった治療抵抗性・ 不耐性の老年期うつ 病の一例	精神科治療学, 38(9);1093-1097, 2023.09	Case report
32	平田直之	麻酔科	レミマゾラムを使いこ なそう. 心臓血管麻酔	臨床麻酔 47巻8号 911-916(2023.09)	Review
33	松原 光希, 宮崎 直樹, 大石 将之 他	麻酔科	全身麻酔中に無脈性 心室頻拍を来した人 工膝関節置換術の1 症例	麻酔 72巻10号 933-937(2023.10)	Case report
34	Hashimukai K, Ishihara M, Kakinuma H, et al	病理部	耳下腺に発生した分 泌癌の1例	J. Kyushu-Okinawa Soc. Clin. Cytol. 54:55-60, 2023.08	Case report

小計 4  
計 34 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。  
2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 研究者、研究責任者、研究部長及び病院長の責務 人を対象とする生命科学・医学系研究倫理審査申請の受付から審査までの業務手順 研究開始から終了に係る業務手順 研究の倫理、研究実施に必要な知識および技術に関する教育・研修	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年10回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 熊本大学大学院生命科学研究部等医学系研究利益相反委員会の設置 臨床研究に係る利益相反申告書の提出 委員会による審査結果、指導・勧告、異議申し立て、情報開示	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年690回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年1回
・ 研修の主な内容 臨床研究について ～「観察研究」と「介入研究」の違い～ 「指針を遵守する研究」と「法律を遵守する研究」について 臨床研究を実施する上での注意点	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

<ul style="list-style-type: none"><li>・ 英語論文の抄読会</li><li>・ 新患カンファレンス</li><li>・ 手術カンファレンス</li><li>・ 病理カンファレンス</li><li>・ 画像診断カンファレンス</li><li>・ リサーチカンファレンス</li><li>・ 症例検討会</li><li>・ 実習トレーニング</li><li>・ スキルアップセミナー</li><li>・ 各種勉強会</li><li>・ 教員レクチャー など</li></ul>
---

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	172,750人
-------------	----------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
坂上 拓郎	呼吸器内科	教授	26年	
田中 靖人	消化器内科	教授	32年	
安永 純一朗	血液内科	教授	28年	
安永 純一朗	膠原病内科	教授	28年	
向山 政志	腎臓内科	教授	40年	
窪田 直人	糖尿病・代謝・内分泌内科	教授	29年	
辻田 賢一	循環器内科	教授	25年	
植田 光晴	脳神経内科	教授	24年	
福井 寿啓	心臓血管外科	教授	29年	
鈴木 実	呼吸器外科	教授	34年	
宮本 裕士	消化器外科	准教授	25年	
山本 豊	乳腺・内分泌外科	教授	32年	
日比 泰造	小児外科	教授	25年	
日比 泰造	移植外科	教授	25年	
神波 大己	泌尿器科	教授	31年	
近藤 英治	婦人科	教授	25年	
中村 公俊	小児科	教授	33年	
近藤 英治	産科	教授	25年	
宮本 健史	整形外科	教授	35年	
福島 聡	皮膚科	教授	25年	
増口 信一	形成外科	講師	25年	
井上 俊洋	眼科	教授	25年	
折田 頼尚	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	教授	27年	

中山 秀樹	歯科口腔外科	教授	27年	
平井 俊範	画像診断・治療科	教授	34年	
大屋 夏生	放射線治療科	教授	36年	
竹林 実	神経精神科	教授	31年	
武笠 晃丈	脳神経外科	教授	29年	
平田 直之	麻酔科	教授	23年	
田中 靖人	中央検査部	教授	32年	
入江 弘基	救急部	教授	28年	
三上 芳喜	病理部	教授	33年	
安永 純一朗	感染免疫診療部	教授	28年	
宮本 健史	リハビリテーション部	教授	35年	
松井 邦彦	地域医療・総合診療実践学 寄附講座(地域医療支援セ ンター)	教授・センター長	34年	総合診療

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

【薬剤部】

職員研修を目的として、定期的に新薬説明会、薬の勉強会、薬剤管理指導検討会、病棟業務関連研修等を開催している。

【看護部】

教育理念・教育方針のもと、毎年院内教育計画を策定し、実施している。

【中央検査部】

特定機能病院として高度な臨床検査体制を構築するため、別紙の研修を実施しており、臨床検査の精度保証の向上に努めている。

【中央放射線部】

特定機能病院としての高度な救急医療や高精度な放射線治療に対応できるよう、研修を実施している。

【ME 機器センター】

特定機能病院として高度で特に研修が必要な機器について、1年間の計画を立て研修を実施している。ME 機器センターが実施している機種は、以下の5機種である。

- 1) 人工心肺装置及び補助循環装置
- 2) 人工呼吸器
- 3) 血液浄化装置
- 4) 除細動器
- 5) 閉鎖式保育器

・研修の期間・実施回数

- |             |           |
|-------------|-----------|
| 【薬剤部】       | 別紙（1）のとおり |
| 【看護部】       | 別紙（2）のとおり |
| 【中央検査部】     | 別紙（3）のとおり |
| 【ME 機器センター】 | 別紙（4）のとおり |
| 【中央放射線部】    | 別紙（5）のとおり |

・研修の参加人数

- |             |           |
|-------------|-----------|
| 【薬剤部】       | 別紙（1）のとおり |
| 【看護部】       | 別紙（2）のとおり |
| 【中央検査部】     | 別紙（3）のとおり |
| 【ME 機器センター】 | 別紙（4）のとおり |
| 【中央放射線部】    | 別紙（5）のとおり |

<p>② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修の主な内容・・・「個人情報保護」、「院内感染対策」、「医療安全管理」及び「医療機器の安全な使用について」について、医療業務に携わる上で、各職員が必ず習得しておくべき基本的かつ重要な事項について周知徹底させる</li> <li>・研修の期間・実施回数・・・令和5年4月3日（月） 外  <ul style="list-style-type: none"> <li>※採用者があり次第、随時実施</li> </ul> </li> <li>・研修の参加人数・・・314名  <ul style="list-style-type: none"> <li>（内訳：4月1日採用者122名、中途採用者130名、復職者62名）</li> </ul> </li> </ul>
<p>③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修の主な内容</li> <li>・研修の期間・実施回数</li> <li>・研修の参加人数</li> </ul>

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。



## 高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

## 4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

## 令和5年度の実績

【薬剤部】

NO	研修名	期間	実施回数	参加数
1	2023年度育児休業取得後の復職者に対する集中講義	令和5年4月1日(土) ~ 令和6年3月31日(日)	復職時1日間	2名
2	2023年度新採用職員に対する集中講義・研修	令和5年4月1日(土) ~ 令和6年3月31日(日)	随時 採用後 3日間	7名
3	薬剤管理指導検討会	令和5年4月1日(土) ~ 令和6年3月31日(日)	10回	268名
4	病棟薬剤業務スキルアップ研修	令和5年4月1日(土) ~ 令和6年3月31日(日)	10回	242名
5	病院薬剤師業務フォローアップ研修会	令和5年4月1日(土) ~ 令和6年3月31日(日)	3回	18名
6	新薬説明会	令和5年4月1日(土) ~ 令和6年3月31日(日)	26回	679名
7	くすりの勉強会	令和5年4月1日(土) ~ 令和6年3月31日(日)	4回	61名
8	医療安全研修	令和4年4月1日(金) ~ 令和5年3月31日(金)	10回	496名
9	熊本大学病院薬剤部・地域医療連携研修会	令和5年4月1日(土) ~ 令和6年3月31日(日)	2回	保険薬局外部を含め90名

2023年度 看護部 院内教育計画表

研修名	対象	目標	内容	方法	日時	講師	場所	研修生人数	研修時間
新規採用者 オリエンテーション	2023年度新規採用者 2022年度中途採用者 (2023年4月採用者)	病院・看護部の組織と機能を学び、看護師としての心構えを習得できる	病院・看護部の組織・方針、病棟と各部門との関係、看護支援システムの概念および看護記録、院内教育、医療業務及び関係法令、病院全体の組織、就業規則、中央部門の看護関連部門、接遇	講義 e-ラーニング	4/3(月)～4/7 (金)	医療の質・安全管理部、感染制御部、事務職員、看護部、教育支援室、中央部門看護師長	東病棟12階多目的ホール	新規採用者:70人 中途採用者:4名 (一部参加)	26時間25分
社会人としての基本姿勢と コミュニケーション I	2023年度新規採用看護師	1) 社会人として自覚と責任ある行動が取れる 2) 社会人として「報告・連絡・相談」を実施できる 3) 組織における役割、心構えを理解する	1) 社会人としての心構えと組織における役割 2) コミュニケーションのとり方 3) 専門職業人としての基本的姿勢と態度 4) 医療者にとって必要な接遇について	講義 グループワーク	4/4(火) 10:10～12:10	看護教育支援室 牛島輝美看護師長	東病棟12階多目的ホール	70人	2時間
病院長講話	2023年度新規採用看護師	熊本大学病院の理念、目標を共通理解し、目標に向かって行動できる	熊本大学病院の理念・方針	講義	4/4(火) 14:15～14:45	熊本大学病院病院長 馬場秀夫先生	東病棟12階多目的ホール	70人	30分
看護倫理	2023年度新規採用看護師	看護者の倫理とは何かを理解し、日常の看護ケアの中で看護師としてどのように行動すべきかを学ぶ	1) 看護者の倫理綱領 2) 看護ケアにおける倫理的問題 実践事例の検討	講義 グループワーク	4/5(水) 9:40～11:40	がん看護専門看護師 岡本泰子看護師長	東病棟12階多目的ホール	71人	2時間
新人看護師のためのバイタルサイン 測定研修	2023年度新規採用看護師	1) バイタルサインの意義が理解できる 2) バイタルサイン測定の正しい手技を獲得できる 3) 臨床実践に活かすことができる	1) バイタルサインの意義 2) バイタルサイン測定	講義 演習	4/5(水) 13:00～14:30	看護教育支援室 上坂智子	東病棟12階多目的ホール	70人	1時間30分
現場における医療安全	2023年度新規採用者 2022年度中途採用者	医療安全管理に関する基本的な考え方を理解する	組織における医療安全	講義 演習	4/6(木) 8:30～10:30	熊本大学病院GRM 森山嘉子看護師長	東病棟12階多目的ホール	70人	2時間

基礎研修

2023年度 看護部 院内教育計画表

研修名	対象	目標	内容	方法	日時	講師	場所	研修生人数	研修時間
メンタルヘルス研修	2023年度新規採用看護師	メンタルヘルスとは何かを知り、自身の心の健康状態に気づきストレスに対応できる	1) ストレスとメンタルヘルス不調 2) セルフケア(ストレス対処法、考え方のくせなど) 3) 話すことの効果	講義 グループワーク	4/6(木) 10:40~11:40	医療の質・安全管理部 臨床心理士 一美奈緒子先生	東病棟12階多目的ホール	70人	1時間
感染対策基礎研修	2023年度新規採用看護師	感染対策の基本を理解し、感染予防のための手指衛生と个人防护具の着脱の実践ができる	1) 院内感染対策の基本 2) 標準予防策と感染経路別予防策 3) 針刺し・血液体液曝露防止対策 4) 医療廃棄物の分別方法・取り扱い方法 5) 演習(个人防护具の着脱方法・手指消毒)	講義 演習 小テスト	4/7(木) 8:30~12:00	藤本陽子 手塚美奈 吉田真由美 感染管理認定看護師	東病棟12階多目的ホール	70人	3時間30分
情報システム関連 パソコン操作研修	2023年度新規採用者	KAIJUの基本操作を学び、日常業務に活用できる	・KAIJUの基本操作 ・診療録参照のデモンストレーション ・操作演習 ・サイボーズの掲示板、共有フォルダBの閲覧方法とメールの送受信方法	講義 演習	4/11(火)~4/13 (木) 部署にて 2時間程度	看護情報リンクナース	各部署	70名	2時間
新規採用看護師基礎研修 (注射与薬・輸液ポンプ)	2023年度新規採用看護師	1) 注射与薬のプロセスを理解し、実践に活かす 2) 輸液ポンプ・シリンジポンプの原理と使用方法を理解し、実践に活かす	注射与薬プロセスおよび輸液ポンプ・シリンジポンプ使用方法	講義 演習	4/15(土) 8:00~16:45	各部署の副看護師長、 実地指導者 看護部安全対策委員会	東病棟12階多目的ホール 各部署演習室	新規採用者 70人 指導者61人 (副看護師長23人、 実地指導者38人)	7時間45分
看護記録基礎研修 (STEP1)	2023年度新規採用者の 新卒看護師	看護記録の意義と重要性を理解し、観察した患者状態を記録できる	・看護記録の目的、意義の講義 ・写真を用いた事例の看護記録記載 ・研修生と指導者(看護情報リンクナース)で討議を行い、回答例を用いた振り返りの実施	e-ラーニング 演習	4/19(火) 部署にて 1時間	野田道代看護師長、 看護情報委員	各部署	63名	1時間

基礎研修

2023年度 看護部 院内教育計画表

研修名	対象	目標	内容	方法	日時	講師	場所	研修生人数	研修時間	
基礎研修	糖尿病看護基礎研修	2023年度採用看護師(任期付看護師除く)	糖尿病に対する知識・技術を身につけ、安全な看護が提供できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・糖尿病とは</li> <li>・インスリン療法の基礎知識</li> <li>・糖尿病治療薬について</li> <li>・糖尿病看護とリスクマネージメント</li> <li>・実技演習</li> </ul>	講義 演習	4/27(木) 全体講義 8:30～10:00 演習 ・10:10～11:20 ・11:30～12:40 ・13:00～14:10 いずれかの時間に参加	藤本美枝糖尿病看護認定看護師 日本糖尿病療養指導士13名	東病棟12階多目的ホール 患者多目的室 セミナー室2 セミナー室3	66人	2時間40分
	心電図モニター基礎研修	2023年度新規採用看護師	心電図モニタ使用時の取り決めと安全管理について理解できる	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) セントラルモニターとベッドサイドモニター、送信機について</li> <li>2) 心電図モニターとナースコールの連動について</li> <li>3) 心電図モニター装着時の取り決めについて</li> <li>4) 心電図モニター装着中の管理について</li> </ol>	e-ラーニング 部署での演習	5月11日(木)～5月19日(金)	安全対策委員会	各部署	69人	2時間
	IV基礎研修	2023年度新規採用看護師(任期付看護師除く)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全な静脈注射を実施するための知識、基本的な技術・態度を習得する</li> <li>・本院の静脈注射実施基準を理解し、倫理的側面を考慮した行動がわかる</li> <li>・静脈注射に必要な薬理作用・解剖生理を理解し実践にいかすことができる</li> <li>・静脈注射に必要な安全・感染管理の知識を習得し、実践に活用できる</li> <li>緊急時の報告・連絡ができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・静脈注射実施基準と法的責任・教育計画</li> <li>・静脈注射に必要な解剖・生理</li> <li>・看護師に必要な薬理作用の基礎知識</li> <li>・静脈注射に必要な緊急時の看護</li> <li>・静脈注射に必要な感染管理</li> <li>・静脈注射に必要な安全管理</li> </ul>	講義(e-ラーニングを含む) 筆記試験	6/1(木) 9:00～15:40	脳神経内科 植田明彦先生  薬剤部部長 齋藤秀之先生  業務委員会 感染管理認定看護師 藤本陽子看護師長 医療の室・安全管理部  GRM 森山嘉子看護師長  救急看護認定看護師 村上志穂副看護師長	東病棟12階多目的ホール	70人	5時間40分

2023年度 看護部 院内教育計画表

研修名	対象	目標	内容	方法	日時	講師	場所	研修生人数	研修時間	
基礎研修	社会人としての基本姿勢とコミュニケーションⅡ	2023年度新規採用看護師	1) 社会人として自覚と責任ある行動が取れる 2) 社会人として「報告・連絡・相談」を実施できる 3) 組織における役割、心構えを理解する	1) 看護職としての社会人基礎力とは 2) 看護部理念をふまえた社会人としての基本姿勢について	講義 グループワーク	6/15(木) 10:40～12:00	看護教育支援室 牛島輝美看護師長	東病棟12階多目的ホール	67人	1時間
	メンタルヘルスフォローアップ・新人ピアカウンセリング研修	2023年度新規採用看護師	1) 自分が抱えているストレスの存在を認知する 2) 考え方の傾向を知り、客観的に物事を認知していく力を身に付ける 3) ピアカウンセリングを行うことで、リアリティショックを緩和する	・現在のストレス度チェック ・ストレスの現れ方とその対処方法 ・3ヶ月間の振り返り ・気持ちの共有	講義 グループワーク	6/20(月) 8:30～10:30	熊本大学病院 医療の質・安全管理部 臨床心理士 一美奈緒子先生	東病棟12階多目的ホール	67人	2時間
	PNS研修	2023年度新規採用看護師	PNS(パートナーシップ・ナーシング・システム)について正しく理解し臨床実践看護に活かすことができる	・PNSの基本 ・パートナーシップ理論とは ・パートナーシップ・マインドの3つの心 ・パートナーシップに必要な3要素	講義 グループワーク	7/7(金) 14:00～16:00	パートナーシップ・システム・マネジメント 代表 上山香代子先生	東病棟12階多目的ホール	67人	2時間
	看護記録基礎研修 「情報収集の仕方と整理 (ステップⅡ)」	2023年度新規採用看護師	看護過程の概念を学び、NANDA-Iの13領域にそった情報収集と整理ができる	・看護過程とは ・NANDA-Iの13領域にそった情報収集の仕方と整理 ・グループワーク(ペーパーペイシエント事例を用いた情報の整理)	講義 グループワーク	7/14(金) 13:00～16:45	野田 道代看護師長 (看護情報委員会)	東病棟12階多目的ホール	43名	3時間45分

2023年度 看護部 院内教育計画表

研修名	対象	目標	内容	方法	日時	講師	場所	研修生人数	研修時間
フィジカルアセスメント基礎研修/BLS研修	2023年度新規採用看護師	<p>【フィジカルアセスメント基礎研修】</p> <p>1)フィジカルイグザミネーション技術を修得し正常と異常のアセスメントができる</p> <p>2)呼吸・循環・意識・腹部のフィジカルアセスメントに必要な知識を学ぶ</p> <p>【BLS研修】</p> <p>1)一次救命処置の概要を理解し技術を修得する</p> <p>2)AEDを正しく理解し、使用できる</p>	<p>・フィジカルアセスメント基礎研修</p> <p>1)問診・視診・触診・聴診に必要な講義</p> <p>2)フィジカルイグザミネーション技術の演習</p> <p>3)シミュレーションを活用した正常と異常の判断</p> <p>・BLS研修</p> <p>1)BLS・AEDに関する講義</p> <p>2)シミュレーターを使用しBLS・AEDの演習</p>	講義 演習 グループワーク	8/25(金) 8/28(月) 8/29(火) (いずれか1日に参加) 8:00～16:45	集中ケア認定看護師 田中貴子副看護師長  救急看護認定看護師 村上志穂看護師長	中央診療棟7階 総合臨床研修センター カンファレンス室・演習室	66人	7時間45分
つなげよう！ コミュニケーションの輪	2023年度採用の看護部・薬剤部・医療技術部職員	チーム内でのコミュニケーションの必要性について理解し、部署でのチーム実践に活かす	「チームの鎖」を行いチーム内のコミュニケーションについて考える	講義 グループワーク	7/14(金) 17:15～18:00	近本亮 (医療の質・安全管理部長)	東病棟12階多目的ホール	47名 (看護部30名、中央検査部6名、中央放射線部4名、薬剤部8名)	45分
新人看護師のためのメンタルヘルスフォローアップ研修	2023年度 新規採用看護師	自己のストレスに気づき、ストレスに対する対処力を高めることができる	職場におけるメンタルヘルス対策	講義 グループワーク 演習	10/13(金) 13:30～16:30	福岡女学院看護大学 准教授 白井ひろ子先生	東病棟12階多目的ホール	63人	2時間30分
新人研修 「看護の中の気づき～患者から学ぶ～」	2023年度新規採用看護師	事例の振り返りやグループディスカッションを通して、自己の課題を明確にし、看護実践に活かせる	看護の中の気づき ・事例を通して看護の振り返りをする ・自己の課題を見いだす	講義 グループワーク	11/25(土) 9:00～13:00	聖マリアンナ学院大学 教授 日高艶子先生 グループワークファシリテーター:教育担当副看護師長、教育委員	東病棟12階多目的ホール・患者多目的室・セミナー室2・中央診療棟7階カンファレンス室・演習室(1～9)・シミュレーション室1	69人	3時間
看護OSCE	2023年度新規採用看護師	基本的臨床実践能力を客観的に評価し、自己の課題を明確にする	設定した模擬患者で課題を実施し、評価を受ける	OSCE(客観的臨床能力試験)	1/22(月) 13:30～16:00  1/23(火) ～1/26(金) 9:30～16:00	教育委員会が評価表に基づいて行う	中央診療棟7階 演習室1～3、シミュレーション室1	62人	30分

基礎研修

2023年度 看護部 院内教育計画表

研修名		対象	目標	内容	方法	日時	講師	場所	研修生人数	研修時間
基礎 研修	新人看護師のスキルアップ研修	2023年度新規採用看護師	1)2年目の看護職として必要とされる看護を自立的に判断し行動に移すことができる 2)専門職業人として自分の課題を認識し課題に取り組むことができる	1)看護師1年間の自分の看護業務,看護ケアの展開について振り返る 2)2年目看護師として必要とされる判断と行為を明確にし、2年目に向けた自分自身の課題と目標を明確にする。	講義 グループワーク	3/11日(月) 13:00~16:00	日本看護キャリア 開発センター 江藤節代 先生	東病棟12階 多目的ホール	58名	3時間

2023年度 看護部 院内教育計画表

研修名	対象	目標	内容	方法	日時	講師	場所	研修生人数	研修時間
ラダー I	2年目看護師のためのメンタルヘルス研修	2022年度新規採用看護師	ストレスへの対処方法を獲得し2年目看護師としてセルフケア能力の向上を図る	講義 GW	6/15(金) 14:30～16:30	熊本大学病院医療の質・安全管理部 臨床心理士 一美奈緒子先生	東病棟12階 多目的ホール	40人	2時間
	がん看護(基礎編)	レベル I 以上	がん看護の基礎的知識を理解し、実践に活かすことができる	講義 ロールプレイ	7/21(金) 8:30～16:45	がん看護専門看護師 岡本泰子 がん看護専門看護師 石坂暁子 がん性疼痛看護認定看護師 前田望花 緩和ケア認定看護師 内田新	東病棟12階 多目的ホール	31人	7時間15分
	看護過程研修	レベル I 以上	看護過程を理解し、事例を展開することができる	講義 GW	10/6(金) 9:00～16:00	熊本大学大学院生命科学研究部准教授 松本智晴先生	東病棟12階 多目的ホール	40人	6時間
	急変時の対応	レベル I	1)急変対応に必要な知識とスキルを修得する 2)急変対応時のコミュニケーション、チームワークの必要性について理解し行動できる 3)緊急性と優先度の判断が理解できる	講義 演習	1/13(土) ①8:00～12:00 ②13:00～17:00 ①②のどちらかに参加	救急・総合診療 入江弘基教授 救急認定看護師 村上志穂 集中ケア認定看護師 田中貴子	中央診療棟7階臨床研修センター カンファレンス室 演習室 シミュレーション室	41人	4時間



2023年度 看護部 院内教育計画表

研修名	対象	目標	内容	方法	日時	講師	場所	研修生人数	研修時間	
ラダーⅡ-1	看護管理	レベルⅡ-1	1)看護管理を理解し、部署の運営に参画できる 2)チームメンバーとして主体的に行動できる	1)看護管理とは 2)コンプライアンスとは	事前に看護補助者体験 講義 GW	9/15(金) 13:30～16:30	井原国代副看護部長	東病棟12階 多目的ホール	28人	3時間
	第30回事例研究発表会	レベルⅡ-1	1)事例研究の意義を理解し、発表を通じて研究的視点を習得する 2)看護理論を活用しながら、実践において個別的な看護展開を発揮する	・事例研究発表 ・事例討議	発表 検討	10/28(土) 8:00～11:45	座長及びファシリテーター 看護師長	中央診療棟7階 カンファレンス室 東病棟12階多目的ホール セミナー室2	33人	3時間45分
ラダーⅡ-1以上	がん看護(実践編)	レベルⅡ-1以上	がんやがんの治療に伴う症状へのケアについて理解し実践に活かすことができる	事前e-ラーニング 研修当日 症状マネジメント 事例を使用した症状マネジメント の実際 事例検討(GW)	講義 GW	11/10(金) 8:30～16:30	がん看護専門看護師 安達美樹 がん性疼痛看護認定看護師 坂口まみ がん化学療法看護認定看護師 森奈緒美	東病棟12階 多目的ホール	18人	7時間
	アドバンス・ケア・プランニング	レベルⅡ-1以上	ACPの基本知識と導入時のコミュニケーションスキルを獲得し、患者の意思決定支援ができる	・ACPの基本的知識 ・もしばなゲーム ・コミュニケーション演習	講義 GW	6/29(木) 13:30～16:30	緩和ケアセンター がん看護専門看護師 安達美樹看護師長	東病棟12階 多目的ホール	31人	3時間
	プリセプターフォローアップ研修: 6ヶ月	2023年度プリセプター	1)新人の半年間の成長度合いを評価し、今後の指導内容や方法を検討する 2)プリセプターの体験を通して自己の関わり方や自己成長を再確認する	・新人の成長度合いの評価と今後の指導のあり方 ・自己の振り返りと指導者としての成長過程の確認	講義 GW	9/6(水) 13:30～15:30	看護教育支援室 牛島輝美看護師長	東病棟12階 多目的ホール	30人	2時間
	災害看護研修	レベルⅡ-1以上	・災害看護の基礎と特殊性について理解する ・災害発生時の対応について理解する ・施設内の災害対応を理解する	・災害看護に必要な基礎的事項 ・災害看護の特殊性 ・災害発生時の対応 ・救護活動に必要な技術 ・トリアージについて	講義	9/21(木) 8:30～12:00	災害医療教育研究センター長 笠岡俊志教授 災害医療教育研究センター 内賀嶋由梨看護師 防災専門員 奥村聡一	東病棟12階 多目的ホール	23人	3時間30分

2023年度 看護部 院内教育計画表

研修名	対象	目標	内容	方法	日時	講師	場所	研修生人数	研修時間	
リーダーⅡ-1以上	プリセプターシップ研修	2024年度 実地指導者(プリセプター)(レベルⅡ-1以上)副看護師長の希望者	プリセプターシップについて理解し、実践する	1)プリセプターシップの概念 2)実地指導者に求められる能力と役割 3)効果的な指導方法	講義 GW	2/9(金) 13:00~17:00	NPO法人日本看護キャリア開発センター 下山節子先生	東病棟12階 多目的ホール	43人	4時間
	臨地実習指導者研修	2023年度臨地実習指導者	1)臨地実習指導者の役割を理解し、効果的な実習指導を実践する 2)実習指導教員と協働し、実習指導を展開することができる	1)看護教育における臨地実習について 2)実習指導教員との情報交換会	講義 GW	6/2(金) 14:00~16:00	熊本大学大学院生命科学研究所保健学科教授 前田ひとみ先生	東病棟12階 多目的ホール	22人	2時間
	臨床推論入門編	レベルⅡ-1以上	1)患者の重症化兆候となるバイタルサインの変化とその機序について理解する 2)患者の変化を臨床推論につなげる	急変につながるバイタルサインの見方 急変の予測について	講義	10/19(木) 13:30~16:30	急性・重症患者看護専門看護師 吉里孝子看護師長	東病棟12階 多目的ホール	13人	3時間
	中堅看護師としてのクリニカルリーダーシップとマネジメント研修	クリニカルリーダーレベルⅡ-1以上 これからリーダー業務、役割を担う看護師	1)中堅看護師として、リーダーシップを発揮するために必要な概念化能力を習得する 2)リーダーとしての対人能力(コミュニケーションスキル)を学び、実践に活かすことができる	1)業務マネジメント 2)対人関係マネジメント 3)問題発見型アプローチ	講義 GW	10/20(水) 12:45~16:45	福岡女学院看護大学准教授 白井ひろ子先生	東病棟12階 多目的ホール	22人	4時間
基礎研修	臨床推論実践編	レベルⅡ-2を取得後10年以内	ケアを決定するプロセスと根拠について理解し、看護が提供できる	臨床推論とは	講義 GW	12/15(金) 13:00~16:30	急性・重症患者看護専門看護師 吉里孝子看護師長	東病棟12階 多目的ホール	21人	3時間30分

2023年度 看護部 院内教育計画表

研修名	対象	目標	内容	方法	日時	講師	場所	研修生人数	研修時間
看護研究のすすめ	レベルⅡ-2以上	看護研究の基礎を学び、研究課題を明確にして、研究に取り組むことができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究倫理</li> <li>・看護研究概論</li> <li>・文献検索、文献レビュー</li> <li>・量的・質的研究の基本的な研究方法</li> <li>・文献検索の実際</li> </ul>	講義 演習	5/26(金) 8:30～16:45	がん専門看護師 岡本泰子 安達美樹 石坂暁子 精神看護専門看護師 江田由美子 急性・重症患者看護専門看護師 吉里孝子	管理棟3階第一会議室 医療情報パソコン室 東病棟12階多目的ホール	7人	7時間15分
フィジカルアセスメント ステップアップ研修	レベルⅡ-2以上	フィジカルアセスメント能力に必要な知識と技術を習得し、実践に活かす フィジカルアセスメントに必要なイグザミネーション技術を向上させ、フィジカルアセスメントを確実に行うと共に指導技術を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例を通して得られたデータから正常と異常、緊急性、優先度を判断する</li> <li>・敗血症を学ぶ</li> <li>・フィジカルイグザミネーションと事例の統合</li> </ul>	講義 演習 GW	6/30(木) ①8:30～12:00 ②13:15～16:45 ①②のどちらかに参加	集中ケア認定看護師 田中貴子 救急看護認定看護師 村上志穂	東病棟12階多目的ホール・ 患者多目的室	28人	3時間30分
療養支援	レベルⅡ-2以上	患者、家族が安心して退院後の療養環境に移行するための支援を学ぶ	主体的に療養支援に取り組むための看護師の役割について 急性期病院から地域への連携の実際について事例検討	講義 GW	11/29(水) 9:00～15:00	活水女子大学 教授 開田 ひとみ 先生	東病棟12階多目的ホール	24人	5時間
リーダー育成研修Ⅰ	レベルⅡ-2以上	リーダーに求められるマネジメントを習得することができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織で働くということ</li> <li>・リーダーに求められる役割と仕事の管理方法</li> <li>・先輩への指導方法</li> <li>・ナレッジマネジメント 徹底現場主義</li> <li>・パートナーシップ・ナーシング・システムについて</li> </ul>	講義 GW	7/7(金) 8:30～12:30	パートナーシップ・システム・マネジメント 代表 上山香代子先生	東病棟12階 多目的ホール	24人	4時間
リーダー育成研修Ⅱ	リーダー育成研修を受講した研修生	1)各部署でのPNSにおける取り組みについて発表することができる 2)他部署での取り組みを参考にしながら自部署に活用することができる	研修での学びを活かした実践報告	パワーポイントを用いたプレゼンテーション	11/17(金) 8:30～12:00	パートナーシップ・システム・マネジメント 代表 上山香代子先生	東病棟12階 多目的ホール	24人	4時間

ラダーⅡ-2・Ⅲ

2023年度 看護部 院内教育計画表

研修名	対象	目標	内容	方法	日時	講師	場所	研修生人数	研修時間	
ラダーⅡ・Ⅲ	家族看護	レベルⅡ-2以上	家族アセスメントに必要な基本的知識を身につけ、患者・家族への看護実践に活かすことができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族看護の基本的な考え方</li> <li>・家族理解に必要な視点と基盤となる理論</li> <li>・家族看護介入</li> <li>・事例を用いた家族看護の展開</li> <li>・急性期病院での家族との関わり</li> </ul>	講義 GW	12/7(木) 9:00～16:00	高知県立大学基礎看護学教授 瓜生浩子先生	東病棟12階 多目的ホール	18人	6時間
	事例検討 (ロイ看護論)	ラダーレベルⅢ相当の看護師	看護過程に看護理論を活用できる 1)ロイの看護理論をもとに看護を展開し事例にまとめることができる 2)看護実践における論理的思考ができる 3)ロイの看護理論を自部署に浸透できる	ロイの看護理論を用いた事例検討	講義 GW	1回目:9/4(月) 13:30～16:45 2回目:11/6(金) 14:00～16:45 3回目:12/4(月) 14:00～16:45	聖マリア学院大学教授 日高艶子先生	東病棟12階 セミナー室2	11人	8時間45分
	事例検討 (オレム看護論)	レベルⅡ-2以上	看護過程に看護理論を活用できる 1)オレムの看護理論をもとに看護を展開し事例にまとめる 2)看護実践における論理的思考を育てる 3)オレムの看護理論を自部署に浸透できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オレム看護理論について</li> <li>・オレムの看護理論を用いた事例検討</li> </ul>	講義 GW	1回目 9/22(金) 13:30～15:00 2回目 12/1(金) 13:30～16:30	兵庫県立看護大学看護学部 教授 川崎優子先生	東病棟12階 多目的ホール	15人	4時間30分
	認知症看護	レベルⅡ-2以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症に関する基本的知識を習得する</li> <li>・入院中に必要な認知症看護に関する専門的技術を習得し、患者の尊厳を尊重したケアが提供できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の基礎知識</li> <li>・認知症患者に対するアセスメントとケア</li> <li>・認知症患者に対するコミュニケーションと療養環境の調整</li> </ul>	講義 GW	2/19(月) 13:00～16:30	熊本大学病院認知症専門医 遊亀誠二先生 認知症看護認定看護師 市川麻紀	東病棟12階 多目的ホール	22人	3時間30分

2023年度 看護部 院内教育計画表

研修名	対象	目標	内容	方法	日時	講師	場所	研修生人数	研修時間	
管理者研修	新副看護師長昇進者研修	2023年4月1日付副看護師長昇進者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会情勢や当院の経営状況、看護管理に関して現状を把握したうえで、看護管理に役立てることができる</li> <li>・看護管理者として、副看護師長の役割を理解し組織運営ができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当院の経営状況・労務管理</li> <li>・看護管理</li> <li>・人材育成</li> </ul>	講義 質疑応答	5/10(水) 9:00～11:00	山本治美看護 田邊菜穂子副看護部 長 野田道代看護師長 谷口あゆみ副看護師長	東病棟12階 セミナー室2	7人	2時間
	看護師長研修	看護師長	部署における人材育成の課題を解決する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近年の新人の特徴とその教育方法</li> <li>・指導者への具体的な支援</li> <li>・部署における人材育成</li> </ul>	講義 GW	10/21(土) 9:00～15:00	長野県看護大学 教授 渋谷美香先生	東病棟12階 多目的ホール	35人	5時間
	看護師長研修Ⅱ	看護師長	看護師長としてハラスメントについて正しく理解し、その防止措置をとることができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハラスメントに関する基礎知識</li> <li>・ハラスメントの判断基準</li> <li>・看護の現場におけるハラスメントの実態</li> <li>・ハラスメント防止のための対策と発生時の対応</li> </ul>	講義	2/29(木) 15:00～16:30	加藤看護師社労士事務所 代表 加藤明子先生	東病棟12階 多目的ホール	33人	1時間30分
	副看護師長管理研修	副看護師長	コーチングスキルを身につけ、部署での看護マネジメントに活用することができる	コミュニケーションスキル 演習:アクティビスニング ヒーローインタビュー ブラインドウォーク	講義 GW	5/20(土) 10:00～16:00	京都芸術大学 教授 本間正人先生	臨床医学教育研究センター 奥窪記念ホール	72人	5時間
指導者研修	基本的日常生活援助技術指導者研修	2023年度実地指導者(プリセプター)で研修未受講者および新副看護師長	基本的日常生活援助技術を根拠に基づいて指導する方法が習得できる	日常生活援助技術の評価シナリオに基づいて演習 (臥床患者の排泄・清潔・更衣・体位変換技術)	演習 体験学習	3/7(木) 9:55～11:45 13:00～16:45  3/8(金) 8:00～11:45 13:00～14:50	副看護師長 教育委員	中央診療棟7階 総合臨床研修センター	実地指導者 46人 副看護師長 25人	1時間30分
	安全な注射・与薬の指導者研修	2023年度実地指導者(プリセプター)で研修未受講者および新副看護師長	指導者が安全な注射与薬方法および輸液関連ポンプ使用の指導方法を理解し、根拠に基づいた指導ができる	注射与薬プロセスと輸液ポンプ・シリンジポンプ使用方法マニュアルに基づいた指導と評価の演習 与薬の誤認防止について	演習	3/7(木) 13:00～14:50 14:55～16:45  3/8(金) 8:00～9:50 9:55～11:45 13:00～14:50 14:55～16:45	副看護師長 (安全リンクナースの経験を有する者) 安全対策委員会	部署	実地指導者 43人 安全リンクナース:25人	1時間45分

2023年度 看護部 院内教育計画表

研修名	対象	目標	内容	方法	日時	講師	場所	研修生人数	研修時間
看護倫理部署別事例検討会	毎回指定された研修参加部署の看護職員	事例を通して看護倫理について学び、倫理観を養い実践に活かすことができる	事例検討	GW	9/11(月) 10/16(月) 11/12(月) 12/11(月) 1/29(月) 17:15～18:15	院内専門看護師	東病棟12階 多目的ホール	9/11:32人 10/16:42人 11/12:55人 12/11:32人 1/29:36人 総数197人	1時間
医療用麻薬研修	全看護職員	医療用麻薬とは何かを正しく理解することができる	e-ラーニング 「医療用麻薬について」 確認テスト	医療用麻薬について「e-ラーニング」視聴 確認テスト	3/8(金)	安全対策委員会	各部署	807人	20分
多職種だから見えてくる、院内の転倒予防策を考えよう	熊本大学病院職員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・転倒予防に関する院内ラウンドを行い、多職種で転倒転落予防を考える</li> <li>・リーダーシップやメンバーシップ、タイムマネジメントを發揮して多職種で院内ラウンドを実践することができる</li> <li>・研修を通して各部署の転倒転落予防策を振り返る機会にする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・院内ラウンド、結果発表</li> <li>・講義</li> </ul>	講義 GW	8:00～9:50	医療の質・安全管理部長 近本亮先生	東病棟12階 多目的ホール	28名	1時間
あなたは胸腔ドレーン管理ができますか	胸腔ドレーン管理を行う診療科、部署スタッフ	胸腔ドレーンの構造について学び、胸腔ドレーンの管理について考える	胸腔ドレーン挿入の目的や管理についての講義	講義 演習	9:55～11:45	呼吸器外科医師 藤野孝介先生	東病棟12階 多目的ホール	看護師:42名 医師:2名	45分
重症度、医療・看護必要度研修	全看護職員	重症度、医療・看護必要度とは何かを正しく理解し、適切な評価ができる	重症度、医療・看護必要度とは何か、 2022年度改訂内容および評価方法について	動画視聴 確認テスト	7/18(火)～ 9/18(火)	業務委員会	各部署	全看護職員	1時間

全職員対象

2023年度 看護部 院内教育計画表

研修名	対象	目標	内容	方法	日時	講師	場所	研修生人数	研修時間	
看護補助者対象	看護補助者研修	看護補助者	1)看護補助者が医療制度の概要及び病院の組織を理解できる 2)看護補助者が医療チームおよび看護チームの一員として、看護補助者の役割を自覚し重要な役割を分担していることを認識できる 3)業務実施上必要な安全配慮を理解できる 4)看護師と協働することの重要性や方法について理解できる	急性期看護補助体制加算のための必須項目に加え、看護師と看護補助者の協働について行った。	講義  学生アルバイト ナースエイド 7/26(水) 7/28(金)  7/31(月) 8/3(木) 8/4(金) 8/21(月)  いづれかに参加	業務委員会	各部署	7/26:15人 7/28:11人 7/31:21人 8/3:20人 8/4:21人 8/21:13人  総数:101人	1時間	
	講演会 I 看護部長講話	看護部職員	看護部の理念、目標を共通理解し、看護部職員が目標に向かって行動できる	看護部の理念、方針、2023年度の目標、教育方針	講演	4/12(火) 17:30～18:30	山本治美 看護部長	東病棟12階多目的ホール セミナー室2 (ハイブリッド方式)	297人 会場参加106人 オンライン参加191人	1時間
	業務改善報告会	個人・部署・委員会等	他部署及び各委員会での取り組みを参考に自部署に応用できる	1)在室管理薬袋を患者に渡す前の確認をシングルチェックへ変更したことによる成果(東病棟7階) 2)保育士との協働～赤ちゃんの成長・発達のために～(NICU/GCU) 3)静脈確保と抜針関連業務におけるタスクシェア 第2弾(中央放射線部) 4)病棟での5S活動を行って(東病棟10階) 5)職務満足度向上に向けた取り組みについて(地域医療連携センター) 6)看護師によるCVポート穿刺の取り組みと成果(外来化学療法センター)	報告会	11/14(火) 17:30～18:30	業務委員会	東病棟12階 多目的ホール	研修希望者	1時間
活動報告会	看護部職員	他部署及び各委員会での取り組みを参考に自部署に応用できる	各部署及び各委員会、ワーキンググループの活動報告	報告会	3/8(金) 17:30～19:00	教育委員会	東病棟12階 多目的ホール Zoomによる配信	147人 会場参加:55人 オンライン:92人	1時間30分	

研修名	対象	目標	内容	方法	日時	講師	場所	研修生人数	研修時間	
I V 研 修	IVナース研修 (筆記試験)	看護部職員	静脈注射に必要な知識を備え、基本的実践能力を習得する	筆記試験 35分	(1回目) 6/9(金)  (2回目) 9/29(金)  (3回目) 1/26(金)	業務委員会	東病棟12階 多目的ホール	(1回目) 15人 合格者9名  (2回目) 24人 合格者20人  (3回目) 19人 合格者18名	35分	
	IVインストラクター研修	副看護師長または 看護師長が推薦する 看護師で各部署 から1~2名	看護師・助産師が本院 の実施基準に沿って静 脈注射を実施できるい ように指導出来る。注射 と薬プロセスのマニユ アル指導者用に沿って 実践、指導出来る	筆記試験 70分	(1回目) 7/3(月) 08:20~09:40  (2回目) 12/8(木) 08:20~09:40	業務委員会	東病棟12階 多目的ホール	(1回目) 15人 合格者5人  (2回目) 11人 合格者3人	1時間10分	
				技術評価 60分	(1回目) 7/8(金)10:00 ~16:45  (2回目) 12/9(金) 10:00~16:45			東病棟12階 多目的ホール セミナー室	(1回目) 7人 合格者5人  (2回目) 6人 合格者3人	1時間
	IVインストラクター 継続教育	IVナースイン ストラクター資格 取得者各部署か ら1人以上	IVナースインストラ クターとしての役割を 遂行する能力が向上 する	講義 グループワークと 全体講義	講義 GW 演習	2/13(火) 14:00~16:30	業務委員会	東病棟12階 多目的ホール	26人	2時間30分



研修名		対象	目標	内容	方法	日時	講師	場所	研修生人数	研修時間
C V 研 修	CVポート インストラクター研修	IVナースインストラ クター資格取得者	CVポートの穿刺、抜針 に必要な知識と技術を 習得し安全に実践し指 導できる	筆記試験 実技試験	筆記試験 20分	2/13(火) 8:30~8:45	業務委員会	東病棟12階 セミナー室2	10人	1時間20分
					技術評価 50分	(1回目) 2/13(火) 10:00~12:30  (2回目) 3/13(水) 13:30~15:45		東病棟12階 多目的ホール セミナー室2	1回目9人 2回目2人	50分

2023年度 看護部 院内教育計画表

研修名	対象	目標	内容	方法	日時	講師	場所	研修生人数	研修時間
精神看護	院内看護師	1) 発達特性や発達障害について理解できる 2) 発達特性が強い患者を理解し、コミュニケーション方法を工夫することができる	1) 発達特性と発達障害について 2) 発達特性が強い患者が入院生活に感じている困りごとについて 3) 発達特性が強い患者とのコミュニケーションの工夫について	講義	2/19(月) 17:15～18:15	江田由美子 精神看護専門看護師	東病棟12階セミナー室2	17名	1時間
不妊症看護	院内看護師	生殖医療、妊孕性温存について知識を深め、看護に活かす	・妊娠成立の条件 ・月経周期と不妊検査 ・不妊治療、高度生殖補助医療(ART)について ・高度生殖補助医療(ART)の統計 ・生殖医療における問題 ・不妊の悩み ・がんと生殖医療について	講義	2/9(金) 17:15～18:15	本田万里子 不妊症看護認定看護師	東病棟12階セミナー室2	24名	1時間
看護管理カフェ	次世代看護管理者	看護管理を身近なものに感じ、日々の事象から看護管理を学ぶ	日々現場で発生している事象を看護管理の視点で考える 参加者全員で事象に取り組み、相互支援する	講義 GW	(1回目) 10/20(金) (2回目) 11/24(金) (3回目) 12/22(金) (4回目) 1/27(金)  17:15～18:15	本田万里子 認定看護管理者	東病棟12階セミナー室3 セミナー室2	7名	4時間
認知症看護	ラダーⅡ-1以上で認知症患者に関わっている方	・認知機能が低下している方の特徴を理解できる ・認知機能が低下している方を意識したコミュニケーションを理解できる	・認知機能が低下している方の特徴について ・認知機能が低下している方の特徴を踏まえたコミュニケーションのポイントについて	講義 GW	12/13(水) 17:15～18:15	市川麻紀 認知症看護認定看護師	東病棟12階セミナー室2	16名	1時間
糖尿病看護	ラダーⅡ-1以上で糖尿病患者に関わっている方	・糖尿病患者のセルフケア行動に影響する心理・社会的要因について学ぶ ・糖尿病患者の行動変化を促進するための援助やコミュニケーションについて理解できる	・患者さんのセルフケアを困難にする背景及び血糖変動の考え方 ・患者さんのやる気を引き出すコミュニケーション方法	講義 GW	(1回目) 3/4(月)  (2回目) 3/5(火)  17:30～18:45	藤本美枝 糖尿病看護認定看護師	東病棟12階セミナー室2	(1回目) 2人  (2回目) 2人	1時間15分

認定看護師主催自主研修

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

【中央検査部】

研修名	期間（令和5年4月～令和6年3月）	実施回数	参加人数	備考
採用職員研修	令和5年4月3日	1	3名	入職時部内オリエンテーション
ISO集合教育	令和5年6月2日	1	60名	ISO15189に関する研修会
危機管理訓練	令和5年12月5日～令和5年12月15日	1	50名	災害等危機管理に関する研修会
検査業務習得トレーニング	令和5年5月1日～令和6年2月13日	6	6名	検査業務に関するトレーニング
生化学時間外トレーニング	令和5年10月3日～令和5年10月11日	1	38名	時間外生化学検査業務の再トレーニング
血液時間外トレーニング	令和5年8月7日～令和5年8月18日	1	29名	時間外血液検査業務の再トレーニング
緊急輸血対応トレーニング	令和5年12月5日～令和6年1月30日	1	39名	時間外輸血検査業務の再トレーニング



高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

【中央放射線部】

研 修 名	期 間	実施回数	参加人員	備 考
救急医療に関する研修（実技）	令和5年11月14日	1回	技師1名、看護師9名、消化器内科医師6名、内視鏡検査技師3名	透視室での患者急変時シミュレーション訓練
救急医療に関する研修（実技）	令和5年6月30日	1回	技師13名、看護師10名、放射線科医師6名	MRI患者急変時対応シミュレーション訓練
救急医療に関する研修（実技）	令和5年10月11日	1回	技師7名、看護師8名、放射線科医師3名	造影CT患者急変時シミュレーション訓練
救急医療に関する研修（実技）	令和6年2月6日	1回	技師5名、看護師7名、放射線科医師2名	RI検査室（PET/CT）での患者急変時シミュレーション訓練
救急医療に関する研修（実技）	令和5年11月28日	1回	技師4名、看護師11名、消化器内科医師7名	超音波検査室における患者急変時シミュレーション訓練
高精度放射線治療に関する研修（講義）	令和5年4月28日	1回	技師9名	第79回日本放射線技術学会総会学術大会の参加報告会
高精度放射線治療に関する研修（講義）	令和5年10月20日	1回	医師6名、技師9名	リニアックとその周辺装置および治療計画装置の安全使用に関する研修会
高精度放射線治療に関する研修（講義）	令和5年12月13日	1回	医師5名、技師3名、看護師1名	腔内照射と組織内照射のHybrid RALS治療に関する研修会
高精度放射線治療に関する研修（講義）	令和5年12月15日	1回	技師8名	JASTROの参加報告会
高精度放射線治療に関する研修（講義）	令和6年2月16日	1回	技師8名	第22回九州放射線治療システム研究会の参加報告
高精度放射線治療に関する研修（講義）	令和6年2月22日	1回	技師8名	第17回南九州地域放射線治療技術合同研究会の参加報告

## (様式第5)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2). 現状
管理責任者氏名	病院長 平井 俊範
管理担当者氏名	各診療科長、中央診療施設等の長、医療情報経営企画部長、薬剤部長、看護部長、医療技術部長、栄養管理部長、医療の質・安全管理部長、各課長

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十一条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	病院総務課	
		各科診療日誌	各診療科	
		処方せん	薬剤部	
		手術記録	中央手術部	
		看護記録	看護部	
		検査所見記録	中央検査部	
		エックス線写真	中央放射線部	
		紹介状 退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	各診療科 各診療科	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十一条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	病院総務課	
		高度の医療の提供の実績	医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課	
		高度の医療の研修の実績	病院総務課	
		閲覧実績	病院総務課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医療サービス課	
	規則第一条の十一第一項に掲げる事項	規則第一条の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医療サービス課 薬剤部
			医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医事課
			医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医事課
			医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医事課
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医事課	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医事課
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医事課
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	経理課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME機器センター
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME機器センター
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME機器センター		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医事課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医事課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医事課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医事課
		医療安全管理部門の設置状況	医事課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医事課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医事課
		監査委員会の設置状況	病院総務課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医事課
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医事課
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療サービス課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医事課
		職員研修の実施状況	病院総務課
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	病院総務課 医事課 薬剤部 経理課
		管理者が有する権限に関する状況	病院総務課
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	病院総務課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	病院総務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。



(様式第6)

## 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

### ○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 <input type="radio"/> 2. 現状 <input checked="" type="radio"/>
閲覧責任者氏名	病院事務部長 山下 恵太
閲覧担当者氏名	総務課長 立山 三雄
閲覧の求めに応じる場所	・管理棟3階 第二会議室
閲覧の手続の概要 病院事務部(総務課総務担当)へ閲覧の要求を行う。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

### ○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0	件
閲覧者別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容：           <p>熊本大学病院は、適切な安全安心で質の高い医療サービスを患者及びその家族に提供するために、医療事故、医薬品管理及び医療機器管理等を踏まえた医療に係る安全管理を目指す。</p> <p>また、「人間はエラーを犯す」ということを前提に、従業者一人一人が医療安全管理に対する高い意識を持ち、関係する各部署及び各委員会等が連携を図り、本院における医療安全管理を推進する。</p> </li> </ul>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 設置の有無 ( 有・無 )</li> <li>・ 開催状況：年14回</li> <li>・ 活動の主な内容：           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 医療安全管理に係る基本方針に関すること</li> <li>(2) 医療安全管理のための具体的措置に関すること</li> <li>(3) 医療安全に係る従業者の教育及び研修に関すること</li> <li>(4) 本院において重大な問題その他委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合における速やかな原因の究明のための調査及び分析に関すること</li> <li>(5) 前号の分析の結果を活用した医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の立案及び実施並びに従業者への周知に関すること</li> <li>(6) 前号の改善のための方策の実施の状況の調査及び必要に応じた当該方策の見直しに関すること</li> <li>(7) 医療事故発生時の患者や家族への説明及び公表に関すること</li> <li>(8) 本院が提供する医療の向上に関すること</li> <li>(9) その他医療に係る安全管理に関し必要な事項</li> </ol> </li> </ul>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年2回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の内容 (すべて)：           <p>新規採用者、中途採用者のオリエンテーションとは別に、医療に係る安全管理のための職員研修を全職員対象に年2回実施しており、医療の質・安全管理部からの重要な伝達事項 (例：高難度新規医療技術、未承認新規医薬品等を用いた医療の提供について) や、インシデントに関連したテーマの講演会 (例：患者誤認について、転倒転落について、鎮静について等) を実施している。</p> </li> </ul>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機関内における事故報告等の整備 ( 有・無 )</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容：</li> </ul>	

インシデントが発生した場合、各部署からのインシデントレポートにより医療の質・安全管理部へ報告がある。なお、重大なインシデントについては部署リスクマネージャーから即時にゼネラルリスクマネージャーへ連絡があり、ICに同席するなど初期対応から医療の質・安全管理部が介入して対応している。

インシデントレポートを基に要因分析と再発防止策の検討を医療の質・安全管理部と医療安全管理委員会で実施している。検討した再発防止策は、リスクマネージャー連絡会議において警鐘事例とともに各部署のリスクマネージャーに通達し、その後リスクマネージャーから全職員へ通達される。

また、部署リスクマネージャーによる自部署チェック、他部署間の相互チェックや、医療の質・安全管理部運営委員会委員による院内巡視、医療安全管理者によるラウンドなど、定期的な巡回や監査も実施している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 院内感染対策に関する基本的な考え方</li> <li>2. 感染対策委員会、その他の医療機関内の組織に関する基本的事項</li> <li>3. 院内感染対策のための職員に対する研修に関する基本方針</li> <li>4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針</li> <li>5. 抗微生物薬適正使用に関する基本方針</li> <li>6. 院内感染発生時の対応に関する基本方針</li> <li>7. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針</li> <li>8. その他の医療機関内における院内感染対策の推進のために必要な基本方針</li> </ol>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 院内感染防止対策に関する事項の審議</li> <li>2. 院内感染防止対策研修会の企画・審議</li> <li>3. 感染予防に関する事業の企画・実施</li> <li>4. MRS A 等の薬剤耐性菌の分離状況についての報告</li> <li>5. 抗MRS A薬適正使用報告</li> <li>6. 感染制御チーム（ICT）からの報告</li> </ol>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 2 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. (医療系)『昔の病気と思いませんか？まだまだ重要な「結核」の感染対策／AMR 対策アクションプランの改訂について 2016-2020 → 2023-2027へ』 (事務系)『大人もかかるウイルス感染症 ～麻疹・水痘・風疹・流行性耳下腺炎～』</li> <li>2. (医療系)『日常から感染対策の意識を高めよう～アウトブレイク・クラスター防止～／抗 菌薬供給制限に関する現状と対応策』 (事務系)『With コロナ？After コロナ？今知っておきたい新型コロナウイルス感染症』</li> </ol>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師等の多職種からなる ICT を組織し、病原感染対策マニュアルの制定、院内感染発生時の対応、院内ラウンド、抗菌薬適正使用の推進、病院感染防止の教育・啓発、職業感染防止対策などの活動を行っている。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年7回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p><b>【院内研修】</b></p> <p>(1) 令和5年4月3日・「2023年度新規採用職員研修」 「薬剤部の業務内容と院内における医薬品の取り扱いについて」・445名資料配布、必須科目のみWEB研修 (講師：副薬剤部長 対象：新採用職員)</p> <p>(2) 令和5年6月28日～7月27日・「令和5年度第1回新採用医師を対象とした医薬品安全使用等にかかる研修会」・191名（講師；薬剤部長・室長、対象；新採用医師）</p> <p>(3) 令和5年5月、6月・「看護師特定行為研修・臨床薬理学演習」・16名（看護師）</p> <p>(4) 令和5年6月9日、9月29日、令和6年度1月26日・2023年度新採用看護師IV基礎研修「看護師に必要な薬理作用の基礎知識」・59名（新採用看護師）</p> <p>(5) 令和5年8月1日～9月29日・2023（令和5）年度前期院内感染対策研修会及び医療安全のための講演会「未承認新規医薬品等を用いた医療の提供について」・2281名（講師：薬剤師 対象：全職員）</p> <p>(6) 令和5年10月26日～11月24日・「令和5年度第2回新採用医師を対象とした医薬品安全使用等にかかる研修会」・20名（講師；薬剤部長・室長、対象；新採用医師）</p> <p>(7) 令和5年12月20日～令和6年1月31日・2023（令和5）年度後期院内感染対策研修会及び医療安全のための講演会「医薬品の適応外使用について」「抗菌薬供給制限に関する現状と対応策」・2281名（講師：薬剤師 対象：全職員）</p> <p><b>【病棟別等の対象限定での研修】</b></p> <p>(1) 令和5年5月19日・「「ハイリスク」の薬剤に関する知識教育」・26名（対象：西病棟6階看護師）</p> <p>(2) 令和6年2月19日・「「ハイリスク」の薬剤に関する知識教育」・22名（対象：西病棟6階看護師）</p> <p>(3) 令和6年2月13日・「「制吐剤について」」・9名（対象：西病棟8階看護師）</p> <p>(4) 令和6年3月5日・「移植外科の免疫抑制剤について」・7名（対象：西病棟8階看護師）</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (有・無)</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</p> <p>医薬品安全管理責任者に薬剤部長を任命（平成19年4月）し、院内に医薬品安全管理専門委員会を設置した。『医薬品の安全使用のための業務手順書』（以下、業務手順書）は平成19年7月に作成した。</p> <p>令和5年8月に、医薬品安全管理専門委員会を開催し、業務手順書を改訂した（第19版）。今回の改訂内容については以下の通りである。</p> <p><b>令和5年 8月31日改正（第19版）</b></p> <p>3章2（4）：医薬品保管・管理場所への立ち入り制限について追記</p> <p>4章1（4）、6章1（3）：管理簿→特定薬剤管理システム ※実情にあった文言に訂正</p> <p>4章1（5）、6章1（4）：管理簿→管理簿かつ血液製剤管理システム ※実情にあった文言に訂正</p> <p>10章4（2）、11章4（2）：プレアボイド報告について追記</p> <p>13章3：院内フォーミュラリについてコメント表示区分を訂正 ※実情にあった文言に訂正</p>	

④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (  有 ・ 無 )
- ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例 (あれば) :  
新生児、小児の短腸症候群に対する $\omega$ 3系脂肪乳剤 (Omegaven) 治療
- ・ その他の改善のための方策の主な内容 :
  - 1) 医薬品安全管理責任者は、院内各部署における常備医薬品に関する管理状況、内用剤・外用剤・注射剤の調剤時における疑義照会内容、外来化学療法室、病棟薬剤業務における疑義照会事例および医薬品情報室にあった質疑応答事例等について、情報の収集・確認に努め、医療安全管理委員会において、その状況等を報告している。院内で発生した薬剤業務関連のインシデント事例について薬剤師への情報共有・周知を図り、再発防止のための注意喚起に努めている
  - 2) 院内各端末からは、病院情報管理システムを用いて、最新 (毎月1回更新) の添付文書情報を閲覧可能としており、また、新規採用医薬品については、毎月発行の院内情報誌「熊大病院・医薬品情報」にて概要と注意事項等の情報を発信すると共に、病院情報システム内の院内専用電子掲示板“医薬品情報”にも掲示している。
  - 3) 調剤 (注射剤調剤を含む) に際しては、質疑応答内容を記録し、処方鑑査、疑義照会および医薬品安全使用の目的に活用している。がん化学療法においては、処方ミスを回避し安全性を確保するため、注射用抗がん剤に対する処方には専用のレジメンオーダーリングシステムのみでの運用に限定している。注射用抗がん剤の無菌調製は休日も含め全て薬剤部で担当している。
  - 4) 治療域の狭い薬物や個体差の大きい薬物等については、薬物血中濃度モニタリング (TDM) による投与設計・管理を推奨し、特に抗MRSA薬については、毎月度開催される感染対策委員会においてTDM実施状況を報告し、TDMに基づいた適正投与を行うように医師に対し周知徹底を図っている。
  - 5) 未承認新規医薬品については、院内では「本院で使用したことのない医薬品であって、“医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律”における承認又は認証を受けていないもの」と定義した上で、薬剤部で調剤 (分包依頼、剤形変更などの特殊製剤依頼等も含む) する際には、未承認医薬品の使用が医療行為等適応審査委員会の承認を得ていることを書面にて確認している。医薬品安全管理責任者が指名した薬剤師 (担当薬剤師) は未承認新規医薬品の使用状況及び規程遵守状況等を月1回定期的に確認し、医薬品安全管理責任者へ報告している。報告された適応外使用をとりまとめ、月に一度、薬剤部長、副薬剤部長、医薬品情報室長、薬剤師GRM、医療安全支援室長等をメンバーとする「医薬品の適応外使用評価部会」を薬剤部内で開催している。リスク分類は、日本病院薬剤師会作成の「ハイリスク薬に関する業務ガイドラインVer. 2.2」を参考に適応外使用によるリスクとベネフィットを評価検討し、診療科に対して適応外使用の理由書提出または医療行為等適応審査委員会への申請依頼を行っている。
  - 6) 令和5 (2023) 年度の新規取組み事項
    - (1) 2023年4月13日に、院内医薬品情報誌にて「在宅自己注射製剤保管方法一覧表 (未開封時と使用後で保管方法が異なる製剤)」を作成し、医薬品適正使用に関する情報共有を行った。
    - (2) 2023年4月に、「尿酸生成抑制薬」に関して有効性、経済性並びに安全性の観点から評価した院内標準的薬物治療指針 (院内フォーミュラリ) を策定し、紙媒体およびガールーン掲載による推奨薬リストの周知、処方オーダー時のポップアップ改修等などの対応を行った。
    - (3) 2023年4月より、薬剤部での「プレアボイド報告実施要領」を策定し、運用を開始した。  
(2023年度報告件数 : 58件)
    - (4) 2023年6月に、「ロイコボリン注3mgのオーダー停止に伴うアイソボリン点滴静注用分割使用時の注意点について」を発出し、溶解・希釈後の安定性に関する情報や汚染リスクなどへの注意喚起を行った。

- (5) 2023年6月に、「インフルエンザ治療薬」に関して有効性、経済性並びに安全性の観点から評価・策定した院内標準的薬物治療指針（院内フォーミュラリ）の再評価を行い、推奨薬リスト・フローチャートの見直し、処方オーダー時のポップアップ変更等などの対応を行った。
- (6) 2023年6月に、「ビスホスホネート製剤（経口薬）」に関して有効性、経済性並びに安全性の観点から評価・策定した院内標準的薬物治療指針（院内フォーミュラリ）の再評価を行い、推奨薬リストの見直し、処方オーダー時のポップアップ変更等などの対応を行った。
- (7) 2023年7月13日に、院内医薬品情報誌にて「デュルバルマブ（遺伝子組換え）（商品名：イミフィンジ点滴静注）の注意点について」を作成し、医薬品適正使用に関する情報共有を行った。
- (8) 2023年7月13日に、院内医薬品情報誌にて「パキロビッドパック600/300処方時の注意点（相互作用等）について」を作成し、医薬品適正使用に関する情報共有を行った。
- (9) 2023年7月28日より、処方鑑査時等の視認性向上のため散剤の分包紙を白色（グリシン紙）から透明（セロハン+PP）に変更した。
- (10) 2023年8月に、「周術期に休薬を考慮する薬剤と休薬期間の目安」の改訂を行い、切替採用薬や糖尿病治療薬など新規対象群の追記・修正を行った。
- (11) 2023年8月10日に、院内医薬品情報誌にて「医薬品適正使用のお願い（DPP-4阻害薬による類天疱瘡への適切な処置について）」を作成し、医薬品適正使用に関する情報共有を行った。
- (12) 2023年9月に、「G-CSF製剤に関して有効性、経済性並びに安全性の観点から評価した院内標準的薬物治療指針（院内フォーミュラリ）を策定し、紙媒体およびガルーン掲載による推奨薬リストの周知、処方オーダー時のポップアップ改修等などの対応を行った。
- (13) 2023年9月14日に、院内医薬品情報誌にて「SGLT2阻害薬について」を作成し、医薬品適正使用に関する情報共有を行った。
- (14) 2023年10月より、半錠で服用すべきところ1錠服用していたインシデント報告を受け、外来院内処方を渡す際に、自身にて半錠にさせていただく必要がある薬がある場合には、説明を徹底できるように説明要のクリップを準備した。
- (15) 2023年11月に、「PPI+P-CAB（経口薬）」に関して有効性、経済性並びに安全性の観点から評価・策定した院内標準的薬物治療指針（院内フォーミュラリ）の再評価を行い、推奨薬リストの見直し、処方オーダー時のポップアップ変更等などの対応を行った。
- (16) 2023年11月9日に、院内医薬品情報誌にて「妊娠期・授乳期における抗アレルギー薬の使用について」を作成し、医薬品適正使用に関する情報共有を行った。
- (17) 2024年1月の病院情報システムリプレイスに伴い、「オーダー編集画面へのCCr値表示」、「薬剤付随情報表示」、「電子カルテからの質疑応答内容参照」、「準備登録時の配合変化チェック」などの機能追加を行い、医薬品情報を活用した医薬品適正使用推進に向けた対応を行った。また、調剤業務関連では「処方せんバーコードからの水薬・経腸栄養剤等のラベル発行（調剤時）」、「水薬調剤時の重量監査記録発行」、「軟膏剤（小分け、混合）調剤時の薬品照合、貼付ラベルの発行」、「お薬手帳用シールを薬袋バーコードから呼び出して発行」、「錠剤の半錠をオカダイ式分包→散剤・錠剤分包機に変更し、薬剤名を印字する」等、取り違え防止及び薬品照合の強化等の安全対策を行った。
- (18) 2024年1月11日に、院内医薬品情報誌にて「適正使用のお願い（エスワンタイホウ配合0D錠、オンデキサ静注用200mg）」を作成し、医薬品適正使用に関する情報共有を行った。
- (19) 2024年3月14日に、院内医薬品情報誌にて「当院採用の医療用漢方製剤一覧と注意点」を作成し、医薬品適正使用に関する情報共有を行った。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無																																	
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年37回																																	
<p>・ 研修の主な内容：            高度医療機器についてe-learning研修の実施            基本的操作・操作上の注意事項・インシデント事例等を内容とする</p> <p>【新規医療機器導入時研修】            26件の開催 158名の参加 (別紙(6)のとおり)</p> <p>【特定機能病院 定期研修】</p> <table border="0"> <tr><td>4月</td><td>閉鎖式保育器</td><td>49名</td></tr> <tr><td>5月</td><td>除細動器</td><td>36名</td></tr> <tr><td>6月</td><td>補助循環装置</td><td>52名</td></tr> <tr><td>7月</td><td>人工呼吸器</td><td>118名</td></tr> <tr><td>8月</td><td>人工心肺装置</td><td>70名</td></tr> <tr><td>9月</td><td>血液浄化装置</td><td>51名</td></tr> </table> <p>(研修方法を変更(対象者を決定し100%受講までリマインドを実施))</p> <table border="0"> <tr><td>11月</td><td>除細動器</td><td>242名(100%)</td></tr> <tr><td>12月</td><td>人工呼吸器</td><td>96名(100%)</td></tr> <tr><td>1月</td><td>補助循環装置</td><td>104名(99.1%)</td></tr> <tr><td>2月</td><td>閉鎖式保育器</td><td>80名(100%)</td></tr> <tr><td>3月</td><td>血液浄化装置</td><td>89名(100%)</td></tr> </table>		4月	閉鎖式保育器	49名	5月	除細動器	36名	6月	補助循環装置	52名	7月	人工呼吸器	118名	8月	人工心肺装置	70名	9月	血液浄化装置	51名	11月	除細動器	242名(100%)	12月	人工呼吸器	96名(100%)	1月	補助循環装置	104名(99.1%)	2月	閉鎖式保育器	80名(100%)	3月	血液浄化装置	89名(100%)
4月	閉鎖式保育器	49名																																
5月	除細動器	36名																																
6月	補助循環装置	52名																																
7月	人工呼吸器	118名																																
8月	人工心肺装置	70名																																
9月	血液浄化装置	51名																																
11月	除細動器	242名(100%)																																
12月	人工呼吸器	96名(100%)																																
1月	補助循環装置	104名(99.1%)																																
2月	閉鎖式保育器	80名(100%)																																
3月	血液浄化装置	89名(100%)																																
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況																																		
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無)</p> <p>・ 機器ごとの保守点検の主な内容：            医療機器保守・点検業務手順書に則り、人工心肺装置及び補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動装置、閉鎖式保育器、直線加速器、輸液ポンプ、シリンジポンプ、小型シリンジポンプ、経腸栄養ポンプ、低圧持続吸引器、空気除菌・脱臭装置、AED、麻酔器は保守点検に関する計画を策定し、医療機器安全管理専門委員会にて承認された後、ME機器センター臨床工学技士ならびに製造販売業者が保守点検を実施している。            保守点検実施状況は、実働報告として臨床工学技士長より医療機器安全管理責任者へ報告し、医療機器安全管理責任者は毎月開催される医療安全管理委員会に提出されている。            上記の医療機器は、始業点検・終業点検、使用中点検についても医療機器保守・点検業務手順書に則り実施している。</p>																																		



④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集  
その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (  有  無 )
- ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例 (あれば) :

- ・ その他の改善のための方策の主な内容 :

医療の質・安全管理部へ臨床工学技士が1名兼任している。

医療機器に関する安全情報については、医療の質・安全管理部を兼務する臨床工学技士GRMならびに臨床工学技士長がPMDAナビ等を利用し情報収集を行い共有している。対象機器があった際には、臨床工学技士GRMよりリスクマネージャー会議や部署リスクマネージャーへの直接の情報提供を行い、医療機器安全管理責任者に報告し、医療の室・安全管理委員会へ報告している。

今年度は、医療機器安全管理マニュアルを作成した。基本的操作や機器管理・操作に必要な事項を記載し、各機種 of 添付文書が簡単に閲覧できるようQRコードを掲載している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・ 責任者の資格（医師・歯科医師）</p> <p>・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>管理者を議長として毎週開催される「医療安全対策に関するカンファレンス」及び毎月開催される「医療の質・安全管理委員会」のメンバーとして医療安全管理責任者をはじめ、医療安全管理部門の医療安全管理者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者、医療放射線安全管理責任者が出席しており、各所掌事項の報告や検討事項について情報を共有している。特に組織横断的に病院全体での検討が必要な事項等においては、医療安全管理責任者と相談した上で、医療の質・安全管理委員会に諮り審議している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（12名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>○ 医薬品の安全使用のために必要となる医薬品の使用状況の確認及び関連情報の整理</p> <p>医薬品安全管理責任者が指名した薬剤師（担当薬剤師）は、病院情報システムから得られたデータ、薬剤部疑義照会システムに記録されたデータ並びに薬剤部病棟業務カンファレンスで報告された事例等を基に、院内における医薬品の使用状況を月1回定期的に確認している。その結果を踏まえて、医薬品安全管理責任者は、重要な添付文書情報、緊急安全性情報、安全性速報、適応外使用・禁忌医薬品使用・未承認医薬品使用（「適応外使用」、「禁忌医薬品使用」及び「未承認医薬品等」の医薬品安全管理に係る情報）を確認・整理している。</p> <p>○ 医薬品の適正使用に係る情報の院内周知及び周知状況の確認</p> <p>医薬品安全管理責任者は、担当薬剤師より報告された情報を医療安全管理委員会へ報告し、本委員会の判断の下に、必要に応じて医療安全管理部より院内全体に対し医薬品の適正使用のための注意喚起情報を周知している。“リスクマネージャー連絡会議の通達内容”および日本医療機能評価機構から発信される“医療事故情報収集等事業・医療安全情報”については、院内各部署に書面で配付し、署名にて周知状況を確認している。また、全職員が把握しておくべき医療安全・感染・薬剤に関する情報については令和6年6月よりガールーンTOP画面に「重要なお知らせ」として掲載し、閲覧状況を確認している。</p> <p>・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>○ 適応外使用及び禁忌医薬品使用に関する情報収集と確認</p> <p>担当薬剤師による適応外使用及び禁忌医薬品使用に関する情報を月1回定期的に収集した内容について、医薬品安全管理責任者が確認している。また、報告された適応外使用をとりまとめ、月に一度、薬剤部長（医薬品安全管理責任者）、副薬剤部長、医薬品情報室長、薬剤師GRM、医療安全支援室長等をメンバーとする「医薬品の適応外使用評価部会」を薬剤部内で開催している。リスク分類は、日本病院薬剤師会作成の「ハイリスク薬に関する業務ガイドライン Ver. 2.2」を参考に適応外使用によるリスクとベネフィットを評価検討し、診療科に対して適応外使用の理由書提出または医療行為等適応審査委員会への申請依頼を行っている。</p> <p>○ 未承認医薬品の使用状況の確認</p> <p>担当薬剤師による未承認医薬品の使用状況等を月1回定期的に確認した内容について、医薬品安全管理責任者が確認している。</p> <p>・ 担当者の指名の有無 <b>有</b>・無</p>	

・担当者の所属・職種： （所属：薬剤部，職種 医療安全支援室長） （所属：薬剤部，職種 調剤室長） （所属：薬剤部，職種 麻薬室長） （所属：薬剤部，職種 注射剤調剤室長） （所属：薬剤部，職種 製剤室長） （所属：薬剤部，職種 病棟薬剤業務支援室長） （所属：薬剤部，職種 医薬品情報室長） （所属：薬剤部，職種 リスクマネージャー）	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	(有)・無
・医療の担い手が説明を行う際の際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 ( (有)・無 ) ・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：各科監査担当医師、及び診療情報管理士が毎月実施する診療録記載監査の中から、患者への説明記録及び同意取得に関する結果をまとめて、院内諸会議にて報告している。またリスクマネージャー会議においても同結果をもとに、部署リスクマネージャー等を通じて規定の遵守について指導を行っている。	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	(有)・無
・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月実施する診療録の監査実施と集計結果報告              実施者：監査担当医師 225 名、診療情報管理士 9 名              量的点検：全入院診療録（入院診療計画書、退院時サマリ、手術記録、診療記録等）              医学管理料等及び質的点検：入院診療録 約 250 例／月平均、外来診療録 300 例／月</li> <li>・監査の集計結果について院内諸会議及び診療科（監査担当医師）へ報告、院内グループウェア内フォルダに掲載し公表する。監査結果の不備について主治医宛に症例別報告書に通知し、必要に応じ直接担当医師へ連絡する。</li> <li>・放射線検査及び病理検査の全報告書の既読状況について、毎週、各診療科へ報告、毎月、医療の質・安全管理部へ報告する。未読について医療の質・安全管理部が確認と指導を行う。</li> <li>・入職時のオリエンテーションにて「診療録等記載マニュアル」（本院作成）をもとに、診療録の記載の原則及び運用上のルール等を説明している。</li> </ul>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	(有)・無
・所属職員：専従（5）名、専任（1）名、兼任（18）名 うち医師：専従（1）名、専任（1）名、兼任（8）名 うち薬剤師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（1）名 うち看護師：専従（3）名、専任（0）名、兼任（4）名 （注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること ・活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 医療の安全性の確保及び向上に係る方策の立案、推進及び検証に関すること</li> <li>(2) 医療安全管理に係る教育・研修の実施に関すること</li> <li>(3) 医療に係る安全の確保に資する診療状況の把握及び従業者の医療安全に対する意識向上の状況確認に関すること</li> </ol>	

- (4) 事故その他医療の質・安全管理部において取り扱うことが必要なものとして病院長が認める事象が発生した場合における診療録その他診療に関する記録の確認、当該事象に関わる患者又はその家族への説明、当該事象発生の原因究明その他の対応状況の確認及び当該確認の結果に基づく従業者への必要な指導に関する事
- (5) 高難度新規医療技術の提供の適否等に関する事
- (6) 未承認新規医薬品等の提供の適否等に関する事
- (7) 医療安全管理に係る連絡調整業務に関する事
- (8) 医療安全管理マニュアルに関する事
- (9) 熊本大学病院医療の質・安全管理委員会に係る事務に関する事
- (10) その他医療の質及び医療安全管理に関し必要な事項

・医療安全に資する診療内容についてのモニタリングの具体例：

- ・手術室、内視鏡室、造影室、透視室のタイムアウト巡回、病棟の人工呼吸器巡回を GRM で実施した。結果はすべて部署にフィードバックした。
- ・画像診断所見と病理診断所見確認システムを導入しており、各診療科に結果をフィードバックした。また、令和元年度から、画像診断所見における、依頼内容以外の重要所見について診療の進捗を確認し主治医へフィードバックしている。重要なインシデントは発生していない。
- ・令和5年1月から、診療科により安全な手術を再認識してもらうことを目的とし、医療の質・安全管理部において、手術から24時間及び7日以内に行った再手術のモニタリングを開始し、毎月のモニタリング結果を該当の診療科へ通知している。
- ・令和5年6月から、中央検査部より算出された診療科毎のパニック値に基づき、医療の質・安全管理部がカルテ上で確認している。

・従事者の医療安全の認識についてのモニタリングの具体例：

「医療安全のための講演会」の受講状況について随時把握し、未受講者についてはeラーニングを受講するよう指導している。

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（7件）、及び許可件数（4件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・活動の主な内容：
  - (1) 診療科等の長から申請を受理した場合において、当該申請の内容を確認するとともに、高難度新規医療技術評価委員会に対し、高難度新規医療技術の提供の適否等について意見を求めること
  - (2) 前号の意見の求めに応じ、高難度新規医療技術評価委員会が述べた意見を踏まえ、高難度新規医療技術の提供の適否等について決定し、申請を行った診療科等の長に対し、その結果を高難度新規医療技術提供審査結果通知書により通知すること
  - (3) 高難度新規医療技術の適正な手続に基づく提供に関し、定期的に、及び術後に患者が死亡した場合その他必要な場合には、診療録等の記載内容の確認すること
  - (4) 高難度新規医療技術の適正な手続に基づく提供について、従業者の遵守状況の確認を行うこと

(5) 高難度新規医療技術の提供の適否等について決定したとき、及び前号の従業者の遵守状況の確認をしたときに、その内容について病院長に報告すること

(6) 高難度新規医療技術評価委員会に係る事務を行うこと

・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (  有 ・ 無 )

・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無 (  有 ・ 無 )

#### ⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数 ( 1 件 )、及び許可件数 ( 1 件 )

・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無 (  有 ・ 無 )

・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (  有 ・ 無 )

・ 活動の主な内容 :

(1) 診療科等の長から申請を受理した場合において、当該申請の内容を確認するとともに、未承認新規医薬品等評価委員会に対して、未承認新規医薬品等の使用の適否等について意見を求めること

(2) 前号の意見の求めに応じ、未承認新規医薬品等評価委員会が述べた意見を踏まえ、未承認新規医薬品等の使用の適否等について決定し、申請を行った診療科等の長に対し、その結果を未承認新規医薬品等使用審査結果通知書により通知すること

(3) 未承認新規医薬品等の適正な手続に基づく使用に関し、定期的に、及び使用後に患者が死亡した場合その他必要な場合には、診療録等の記載内容を確認すること

(4) 未承認新規医薬品等の適正な手続に基づく使用について、従業者の遵守状況の確認を行うこと

(5) 未承認新規医薬品等の適否等について決定したとき及び前号の従業者の遵守状況を確認したときに、その内容について病院長に報告すること

(6) 未承認新規医薬品等評価委員会に係る事務を行うこと

・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (  有 ・ 無 )

・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (  有 ・ 無 )

#### ⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況 : 年 234 件

・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況 : 年 155 件

・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

1. 報告の実施状況 ( 発生内容や頻度、その後の患者の転帰等 ) の確認と、確認結果の管理者への報告

2. 報告等の実施の状況が不十分な場合における適切な報告のための従業者への研修及び指導

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の特定機能病院等への立入り（<input checked="" type="radio"/>）（病院名：奈良県立医科大学）・無</li> <li>・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（<input checked="" type="radio"/>）（病院名：東京大学）・無</li> <li>・技術的助言の実施状況 特になし。</li> </ul>
⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>・体制の確保状況 患者様やご家族からの医療の安全管理に係る相談等に対応する窓口として「患者相談室・医療安全相談室」を設置しており、直接の相談や電話による相談に対して適切に応じる体制を整えている。</li> </ul>

⑫ 職員研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修の実施状況 新規採用者、中途採用者のオリエンテーションとは別に、医療に係る安全管理のための職員研修を全職員対象に年2回実施しており、医療の質・安全管理部からの重要な伝達事項（例：高難度新規医療技術、未承認新規医薬品等を用いた医療の提供について）や、インシデントに関連したテーマの講演会（例：患者誤認について、転倒転落について、鎮静について等）を実施している。</li> </ul>

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修の実施状況 <ul style="list-style-type: none"> <li>・管理者：令和5年度第4回特定機能病院管理者研修[継続] (R6. 1. 26) 受講済 ※現管理者については R7. 1. 15 に受講予定</li> <li>・医薬品安全管理責任者：令和5年度第5回特定機能病院管理者研修[継続] (R6. 2. 6) 受講済</li> <li>・医療安全管理責任者：令和5年度第2回特定機能病院管理者研修[継続] (R5. 12. 15) 受講済</li> <li>・医療機器安全管理責任者：令和5年度第3回特定機能病院管理者研修[継続] (R6. 1. 15) 受講済</li> </ul> </li> </ul>

（注）前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>・第三者による評価の受審状況 日本医療機能評価機構による病院機能評価一般病院3（3rdG：Ver. 3.0）の更新審査を令和6年8月に受審し、審査結果の通知を待っている状況である。</li> <li>・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況 熊本大学病院ホームページにて病院機能評価審査結果報告書（2019年度実施）を公表している。 掲載箇所：<a href="https://www.kuh.kumamoto-u.ac.jp/kuh/28.html">https://www.kuh.kumamoto-u.ac.jp/kuh/28.html</a></li> <li>・評価を踏まえ講じた措置 令和元年受審時に課題として取り組むことを推奨された事項については、院内会議体等で共有す</li> </ul>

るとともに定期的に各事項の進捗管理を行い、課題解決を図った。

今年度の更新受審後の中間報告は、10月頃に受領予定だが、改善すべき指摘事項はすみやかに院内に全体周知を行った上で、改善活動を行う予定である。その他、課題として改善が望まれる事項については、前回同様に院内会議体で共有するとともに、定期的な進捗確認と課題解決を図っていく予定としている。

(注) 記載時点の状況を記載すること

2023年度 新規医療機器導入時研修

	開催年月日	医療機器名	講師所属	開催場所	参加人数(名)
1	2023/4/17	Coro Flow	アボットメディカル	ME機器センター	6
2	2023/5/10	Rootモニター	マシモジャパン	ME機器センター	6
3	2023/5/11	加温加湿器 950	F&P	ME機器センター	3
4	2023/5/23	Rootモニター	マシモジャパン	ME機器センター	3
5	2023/6/12	サーボU	フクダ電子	ME機器センター	6
6	2023/7/3	エアロジェンシステム	コヴィディエン	ME機器センター	8
7	2023/7/4	エアロジェンシステム	コヴィディエン	ME機器センター	2
8	2023/7/19	Evita800 / PulmoVista500	ドレーゲル	ME機器センター	10
9	2023/8/8	経腸栄養ポンプ	テルモ	ME機器センター	7
10	2023/10/20	ベネット 980	ME機器センター	西10	12
11	2023/10/24	ベネット 980	ME機器センター	西10	4
12	2023/11/9	ベネット 980	ME機器センター	東3	10
13	2023/11/10	ベネット 980	ME機器センター	東3	6
14	2023/11/13	透析液供給装置・溶解装置	東レメディカル	血液浄化センター	2
15	2023/11/15	透析液供給装置・溶解装置	東レメディカル	血液浄化センター	2
16	2023/11/20	透析液供給装置・溶解装置	東レメディカル	血液浄化センター	6
17	2023/12/8	ベネット 980	ME機器センター	東10	11
18	2023/12/20	ベネット 980	ME機器センター	東10	6
19	2023/12/21	Prime Gaia	日本光電	ME機器センター	8
20	2023/12/22	ベネット 980	ME機器センター	東10	7
21	2023/12/26	Prime Gaia	日本光電	ME機器センター	4
22	2024/1/4	ACE	九州テン	ME機器センター	10
23	2024/1/5	ACE	九州テン	ME機器センター	6
24	2024/1/22	サーボU	フクダ電子	ME機器センター	4
25	2024/1/26	耳鼻科4Kカメラセット	ストルツ	中央手術部	5
26	2024/2/21	アクアマンティス	日本メドトロニック	中央手術部	4
					158

26件の開催、158名の参加



規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基準の主な内容                     <ul style="list-style-type: none"> <li>医師免許を有し、医療法（昭和23年法律第205号）の規定に則った者であるとともに、人格が高潔で学識に優れ、次世代の医療に貢献すべく先端医療研究の推進、優れた医療人の育成および病院の管理運営に関し識見を有し、以下の点に合致する者                             <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療安全管理業務に対する知見・経験</li> <li>2. 病院の管理運営・経営に必要な能力</li> <li>3. 熊本大学病院に求められるミッションの遂行</li> </ol> </li> </ul> </li> <li>・ 基準に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無）</li> <li>・ 公表の方法                     <ul style="list-style-type: none"> <li>国立大学法人熊本大学病院長候補者選考規則を熊本大学ホームページにて公表。</li> </ul> </li> </ul>

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無）</li> <li>・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無）</li> <li>・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無）</li> <li>・ 公表の方法                     <ul style="list-style-type: none"> <li>熊本大学ホームページにて公表。</li> </ul> </li> </ul>	

管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
富澤 一仁	熊本大学	○	学長が指名する理事	<input checked="" type="radio"/> 有・無
水元 豊文	熊本大学		学長が指名する理事	<input checked="" type="radio"/> 有・無
尾池 雄一	熊本大学 生命科学研究部		医学系研究部会議から選出された者	<input checked="" type="radio"/> 有・無
向山 政志	熊本大学病院		病院運営審議会から選出された者	<input checked="" type="radio"/> 有・無
福田 稠	熊本県医師会		熊本県医師会長として、熊本県の医療・保健・福祉全般に豊富な知見を有する	有・ <input checked="" type="radio"/> 無
高橋 毅	国立病院機構 熊本医療センター		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国立病院機構熊本医療センターの院長として、病院運営に精通している</li> <li>・ 医療安全管理委員会委員として、本院の医療安全管理体制等について深い理解を有する</li> </ul>	有・ <input checked="" type="radio"/> 無
沼川 敦彦	熊本県健康福祉部		熊本県の医療に係る担当責任者として、熊本県の医療・保健・福祉全般に豊富な知見を有する	有・ <input checked="" type="radio"/> 無
山本 治美	熊本大学病院		学長が必要と認める者	<input checked="" type="radio"/> 有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無		(有)・無	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 合議体の主要な審議内容 病院の管理運営・経営等に関する重要事項及び病院長候補適任者の選考に関する事項</li> <li>・ 審議の概要の従業者への周知状況 院内コミュニケーションシステム（ガルーン）により、資料・議事録を掲載し周知</li> <li>・ 合議体に係る内部規程の公表の有無（ (有)・無 ）</li> <li>・ 公表の方法 熊本大学規則集システムやガルーンに掲載し公表</li> <li>・ 外部有識者からの意見聴取の有無（ 有 (無) ）</li> </ul>			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
平井 俊範	○	医師	病院長、総合臨床研究部長
坂上 拓郎		医師	副病院長、呼吸器内科長、総合臨床研修センター長
田中 靖人		医師	副病院長、消化器内科長、中央検査部長、光学医療診療部長
安永 純一朗		医師	血液内科長、膠原病内科長、輸血・細胞治療部長、感染免疫診療部長
横井 秀基		医師	腎臓内科長、腎・血液浄化療法センター長
窪田 直人		医師	糖尿病・代謝・内分泌内科長、栄養管理部長
辻田 賢一		医師	副病院長、循環器内科長、高度医療開発センター長
植田 光晴		医師	脳神経内科長
松井 邦彦		医師	総合診療科長、地域医療支援センター長
福井 寿啓		医師	副病院長、心臓血管外科長、中央手術部長
鈴木 実		医師	呼吸器外科長
岩槻 政晃		医師	消化器外科長
山本 豊		医師	乳腺・内分泌外科長
日比 泰造		医師	小児外科長、移植外科長、移植医療センター長
神波 大己		医師	副病院長、泌尿器科長

近藤 英治		医師	産科長、婦人科長
中村 公俊		医師	小児科長、総合周産期母子医療センター長、遺伝診療センター長
宮本 健史		医師	副病院長、整形外科長、リハビリテーション部長
福島 聡		医師	皮膚科長、中央材料部長
増口 信一		医師	形成外科長
井上 俊洋		医師	眼科長
折田 頼尚		医師	病院長特別補佐、耳鼻咽喉科・頭頸部外科長
中山 秀樹		歯科医師	歯科口腔外科長
白石 慎哉		医師	画像診断・治療科長
大屋 夏生		医師	放射線治療科長、中央放射線部長
竹林 実		医師	神経精神科長、心理支援センター長
武笠 晃丈		医師	副病院長、脳神経外科長、地域医療連携センター長
平田 直之		医師	副病院長、麻酔科長、集中治療部長、ME 機器センター長
三上 芳喜		医師	病理部長
入江 弘基		医師	病院長特別補佐、救急部長
中村 太志		医師	副病院長、医療情報経営企画部長
齋藤 秀之		薬剤師	薬剤部長
笠岡 俊志		医師	災害医療教育研究センター長
野坂 生郷		医師	がんセンター長
吉武 淳		医師	緩和ケアセンター長
山本 治美		看護師	副病院長、看護部長
吉富 晃子		臨床検査技師	医療技術部長
近本 亮		医師	副病院長、医療の質・安全管理部長
中田 浩智		医師	病院長特別補佐、感染制御部長
山下 恵太		事務職員	副病院長、病院事務部長

## 規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

### 管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・無）

- ・ 公表の方法

熊本大学規則集システムによる公表

- ・ 規程の主な内容

「熊本大学病院規則」、「熊本大学学則」

病院規則において、「特定機能病院の管理者として管理運営に関する権限に基づき、業務を総括し、所属職員を監督する。」、「病院の管理及び運営に必要な病院の人事(学長の選考開始の許可を必要とするものを除く。)及び予算執行の権限を有する。」と規定されている。また、病院長は、病院経営担当の副学長として任命されており、熊本大学学則の規定に基づき、学長を助け、命を受けて校務(病院経営等)をつかさどっており、開設者である学長から当該校務に係る権限を与えられている。

- ・ 管理者をサポートする体制(副院長、院長補佐、企画スタッフ等)及び当該職員の役割

- ・ 副病院長：病院長の職務の一部を補佐

- ・ 病院長特別補佐：病院長が命ずる病院における特別な事項を担当し、病院長を補佐

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

病院長、副病院長及び病院長特別補佐の病院中枢の執行部が、病院運営の課題や将来の展望・方向性等を意見交換し共通理解を図ることを趣旨とした「病院運営カンファレンス」において、構成員は各担当分野について問題意識をもって同会議に臨んでいる。

また、新たなセンター等の組織の設置や中期目標・中期計画の推進等、病院運営における重要事項を検討するWGやPTの座長に副病院長を指名し、副病院長のマネジメント力のスキルアップを図っている。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する  
状況

監査委員会の設置状況	(有)・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年2回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>本院の医療安全管理責任者、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者等の業務の状況について病院長から報告を求め、又は必要に応じ確認を実施するとともに、必要に応じ医療に係る安全管理についての是正措置を講ずるよう意見を述べる。</p> <p>また、監査報告書を学長に提出するとともに、監査結果を公表する。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 ( (有)・無 )</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無 ( (有)・無 )</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無 ( (有)・無 )</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無 ( (有)・無 )</p> <p>・ 公表の方法：</p> <p>熊本大学ホームページによる公表</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
西平 淳子	琉球大学病院 安全管理対策室	○	医療安全管理に関する識見を有する者	有・(無)	1
森高 啓喜	森高・吉見法律事務所		法律に関する識見を有する者	有・(無)	1
馬見塚 まゆみ	がんサロンネットワーク		医療を受ける者その他の医療従事者以外の者	有・(無)	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを  
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

熊本大学監事監査において、法令等に従い、業務の適正かつ効果的、効率的、経済的な運営を図ること及び会計経理の適正を確保するための監査を実施。

熊本大学内部監査において、業務の有効性及び効率性並びに業務処理の適法性について検証するとともに、リスク・マネジメント、内部統制及びガバナンス・プロセスの有効性について評価し、その結果に基づき是正又は改善のための助言、提言を行うための監査を実施。

・ 専門部署の設置の有無 (  有 ・ 無 )

・ 内部規程の整備の有無 (  有 ・ 無 )

・ 内部規程の公表の有無 (  有 ・ 無 )

・ 公表の方法

熊本大学ホームページによる公表

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況  外部有識者を含めた8名の委員で構成する熊本大学病院アドバイザー会議を設置しており、令和5年度の会議を令和6年1月18日に開催した。  同会議において、病院経営の課題と戦略、新型コロナウイルス感染症への対応状況、医師の働き方改革に係る取組、職員の処遇改善・各職種の増員、診療業務の改善・患者サービス向上に関する取組、地域医療連携体制強化の取組、教育・研究機能強化の取組等について意見交換が行われた。</li> <li>・ 会議体の実施状況（年1回）</li> <li>・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（<input checked="" type="radio"/>有・無）（年1回）</li> <li>・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無）</li> <li>・ 公表の方法  熊本大学ホームページによる公表</li> </ul>			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：熊本大学病院アドバイザー会議			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
富澤 一仁	理事・副学長	○	<input checked="" type="radio"/> 有・無
笠原 慶久	株式会社肥後銀行 代表取締役頭取 熊本経済同友会代表幹事		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
竹内 信義	熊本県副知事		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
村田 信一	熊本大学同窓会連合会会長 熊本大学武夫原会会長		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
倉津 純一	桜十字病院理事長・院長		<input checked="" type="radio"/> 有・無
中尾 浩一	済生会熊本病院院長		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
福田 稔	熊本県医師会会長 医療法人社団 愛育会 福田病院 理事長		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
馬場 秀夫	一般財団法人化学及血清療法研究所理事長		<input checked="" type="radio"/> 有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無 )</li><li>・ 通報件数 (年〇件)</li><li>・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無 )</li><li>・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無 )</li><li>・ 周知の方法     メール、電子掲示板への掲示、院内研修会での周知</li></ul>



(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
<p>・情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>本院ホームページ、公式SNS、熊大病院ニュース（年2回発行）、熊大病院概要（毎年度発行）等を活用し、本院の役割に関する情報を発信している。</p> <p>また、本院の魅力を端的かつインパクトのある映像で伝えるために、建物・診療風景等の映像や職員へのインタビューを加えて誰にでもわかりやすく病院の魅力や各診療科等の取り組み等を伝えることができる番組やプロモーション動画の作成を行った。番組については令和6年2月にテレビにて放送を行い、プロモーション動画については熊本大学病院ホームページ内に掲載を行った。</p> <p>なお、地元メディア等からの取材依頼に積極的に応じ、熊本県で唯一の特定機能病院として、その果たすべき役割について地域に広く情報発信している。</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
<p>・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>当該科からのコンサルテーション依頼に基づき、他の診療科が必要に応じて診療・治療・検査等を連携して行う。</p>	